建築ト社會

第四輯　第六号



わかの夏の午後

大正十年六月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク
地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス
會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス
會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス
賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス
一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家
二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家
三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家
四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者
賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス
終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス
普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス
會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得
名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク
終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌一ベシ
前項ノ規定ニ賛助員ニ之ヲ準用ス

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得
前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失セルノ當ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルヽコトヲ得ス
前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長ヲ以テ理事ヲ含ム）
會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス
理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス
理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得
理事長ハ理事之ヲ互選ス
役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス
理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク
一　主事　一名
二　主計　一名
三　編輯　若干名
四　編輯補　若干名
五　書記　若干名
主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス
編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス
書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス
編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス
書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トモスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ト應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク
委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス
理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス
委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス
委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得
例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事左ノ如シ
一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　決議事項ノ實行促進
四　會誌ノ發刊
五　建築ニ關スル圖書ノ刊行
六　建築ニ關スル講演會ノ開催
七　建築ニ關スル展覽會ノ公開
八　建築ニ關スル視察
九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十　理想的建築ノ計畫
十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス
但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス
一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス
會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ
特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ前納スベシ
但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス
本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

懸賞募集!!

今回改良住宅設計圖案を左記規定に依り弘く懸賞募集致候間振つて應募相成度し

日本建築協會

改良住宅設計圖案懸賞募集規定

第一條　日本建築協會ハ本規定ニ基キ改良住宅設計圖案ヲ一般競技ニ依リ募集ス當選及選外優秀圖案ハ大正十一年九月開催ノ豫定ナル本協會主催ノ住宅改造博覽會ニ之ヲ陳列ス尙其ノ數案ニ基キ建築ノ實施又ハ模型ノ作製ヲ爲スコトアルヘシ

第二條　設計條件左ノ如シ

一　種　類　市街地ニ於ケル一戸建住家

二　制　限　市街地建築物法ノ制限ニ適合スルモノタルヘシ

三　家　族　主人、主婦、老人一、子供二、女中一、計六人

四　敷　地　(イ)敷地ハ前面ノミ道路（幅員四間）ニ面シ間口五間以下トス

(ロ)敷地面積五十坪

五　建　物　(イ)二階建

(ロ)延坪參拾五坪以內

六　建築費　約六千圓（門墻、庭園費ヲ含マス）

當選圖案ハ實物建設ノ豫定ナルヲ以テ經費增大ノ見込アルモノハ入選セス

七　構造及樣式　前各項ノ範圍內ニ於テ自由トス

第三條　設計ノ主旨ハ生活改善ノ意義ヲ闡明ニスルモノタルヘシ

第四條　所要ノ圖書左ノ如シ

一　圖面

配置圖　縮尺　百分ノ一

各階平面圖　同　五拾分ノ一

立面圖（三方）　同　五拾分ノ一

斷面圖（縱橫）　同　五拾分ノ一

主要部詳細圖　同　拾分ノ一

透視圖

各圖面ハ墨入仕上トシ着色陰影ヲ施スヘシ但シ平面圖ニハ陰影ヲ、透視圖ニハ墨入ヲ要セス

二　說明書

設計ノ大要及住宅改造ノ要旨ヲ明ニスヘシ

第五條　圖面ハ總テ原圖紙（ワットマン全紙大）ヲ用ヒ寸法ハ日本尺、文字ハ日本字（數字ハ此ノ限ニ在ラス）楷書トス

第六條　圖面及書類ニハ總テ署名ニ代フルニ暗號ヲ記シ之ヲ暗號ノミヲ表記セル圖面筒ニ封入スヘシ該圖面筒ノ中ニハ暗號ノミヲ表記セル狀袋ニ應募者ノ住所氏名及暗號ヲ明記シタル紙片ヲ密封シ挿入スヘシ

該圖面筒ニハ別ニ圖面及書類ノ返付ヲ受クヘキ住所氏名及暗號ヲ封入シタル狀袋ヲ添付スルコトヲ得但シ該狀袋ニハ暗號ヲ表記シ「返付ヲ受クヘキ場合」ノ文字ヲ朱書スルコトヲ要ス

前項ノ狀袋ヲ添付セルモノニシテ當選セサル場合ニハ第二項ノ狀袋ハ之ヲ開封セス

第七條　應募者ハ本規定ニ從ヒ設計圖案ヲ作製シ大正十年八月三十一日迄ニ本會事務所（大阪市西區京町堀上通一丁目不動貯金銀行ビルデインク內）ニ到着スル樣提出スヘシ

第八條　應募圖案送付ニ要スル費用ハ應募者ノ負擔トス

第九條　當選圖案ハ總テ本協會ノ所有ニ歸スルモノトシ落選圖案ハ博覽會閉會後本協會ノ費用ヲ以テ之ヲ返付ス

第十條　選外圖案ヲ公表スル場合ニ於テハ當人ノ承諾ヲ得テ其ノ氏名ヲ發表ス

第十一條　當選者ニハ左ノ等級別ニ依リ賞金ヲ贈與ス

壹　等　五百圓　壹人

貳　等　參百圓　壹人

參　等　貳百圓宛　貳人

四　等　百圓宛　參人

五　等　五拾圓宛　參人

第十二條　審査ノ結果ハ大正十年十月號ノ『建築ト社會』紙上ニ之ヲ發表ス

第十三條　審査員ノ氏名ハ追テ之ヲ發表ス

第十四條　審査ニ關與スルモノハ募集ニ應シ又ハ應募者ニ幇助ヲ與フルコトヲ得ス

第十五條　左記ノ設計圖案ニ對シテハ審査ヲ爲サス

一　他ノ意匠ヲ剽竊セリト認メタルモノ

二　不正ノ手段方法ニ依レリト認メタルモノ

三　第四條、第五條又ハ第六條ノ要件ヲ具備セサルモノ

四　第七條ノ期限ニ遲レタルモノ

第十六條　審査ノ結果ニ對シテハ說明ヲ求メ又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十七條　應募圖案ハ萬一毀損スルコトアルモ本協會ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任セス

第十八條　設計條件其ノ他ニ就テノ質疑ハ總テ本協會宛書面ヲ以テ承合スヘシ

以上



大阪市東區北道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

日本エレベーター製造株式會社

營業種目

ヱレベーター、リフト
コンベヤー
捲上機械　クレエン
架空索道及諸機械
右設計及製作

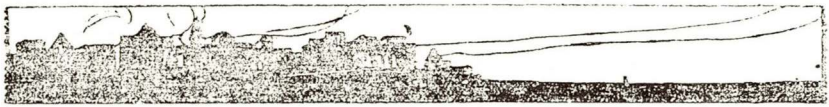
（東松式）
試運轉　各種機械
高塔　保能
安置　實驗
設置

出張所　東京市丸之內東京驛前海上ビルデンク六階、六一九號、六二十號室　電話丸之內九六〇番
本局二二〇二番

特約販賣店　高田商會　本支店　出張所　東京市麴町區永樂町

代理店　日米公司　大連市山縣通百番地　電話二二七〇・二〇四五番

代理店　日米公司　朝鮮京城府長谷川町八十五番地　電話二五三〇番



建築と社會

第四輯第六號目次

▲口繪……（わか夏の午後（三色版）／大阪市新市廳舍議事室（寫眞版）／大阪市新市廳舍市長公室、同正廳（寫眞版））

〔卷頭〕

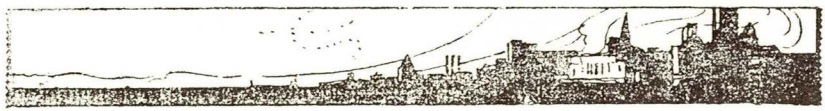
○ブランヴィン氏の壁畫……

〔論說〕

○都市の改善（上）……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
○凡ては住居生活の改善から……農商務省商務局長　鶴見左右吉……六
○先づ斯の傾向の匡正を要す——住宅政策の一問題——……三菱銀行監査役　桐原象一……一一
○住宅建築家は如何なる態度を執るべき乎……會員　工學博士　武田五一……一六
○火災保險と建築（其三）……會員　長田岩次郎……二〇

〔研究〕

○ボルトランドセメントの成分及び其硬化に伴ふ變化に就て（2）……工學博士　細木松之介……二五
○ブランギン氏の壁畫に就て……修生　譯……二九



〔都　市〕

○將來の市加古市(13)……ウオルター・ディ・ムウデイ著……Z Y 生譯……三三

〔住　宅〕

○住心地良き居室(下)……京都大學院・醫學士……竹山九郎……四三

〔講　壇〕

○煉瓦屋より觀たる米國の建築材料(C)……大阪窯業株式會社技師長 工學士……谷口德政……四九

〔資　料〕

○英國住居法(四―畢)……嘱大阪市都市計畫部託……石原憲治……五三

○『借家法』と建築法規(下)……郊……邨……五九

〔漫　錄〕

○定極式の說……工學博士……中村達太郎……六四

○太西洋を見る日まで(七)……波江悌夫……

○原稿職人？藝術家？……E K S……七〇

○『原稿生活物語』の四―畢

○改造と生活の格定……日本水力專務取締役 關口壽氏夫人……關口冬子……七五

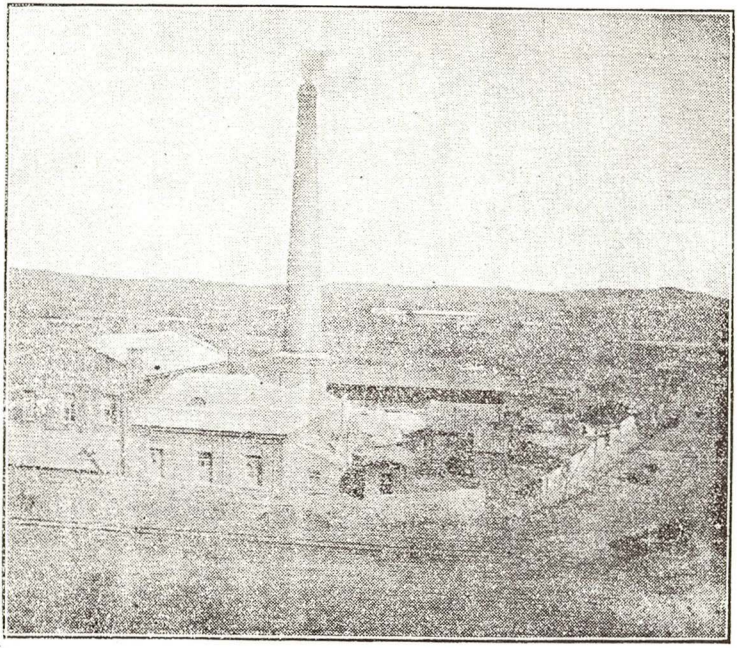
□時　報　□會　報

〔附　錄〕

△建築材料規格統一案に就て……十二頁

現代建築界ノ最高權威

關東廳土木課●南滿鐵道會社●大阪府廳●市役所
其他諸官省●有力土木建築設計家各位●實驗證明



顧問技師　工學士　雨宮奉雄

相談役　前野芳造

營業目課

滿州產

- 青色大理石、黑色大理石
- 鹿兒島產白色硅藻土
- 白色硅石及硅石粉、酸化マグネシユーム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
- 海水石鹼

舖床材料 耐火リノリウム（專賣特許出願中）

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑 ボースイ（專賣特許出願中）

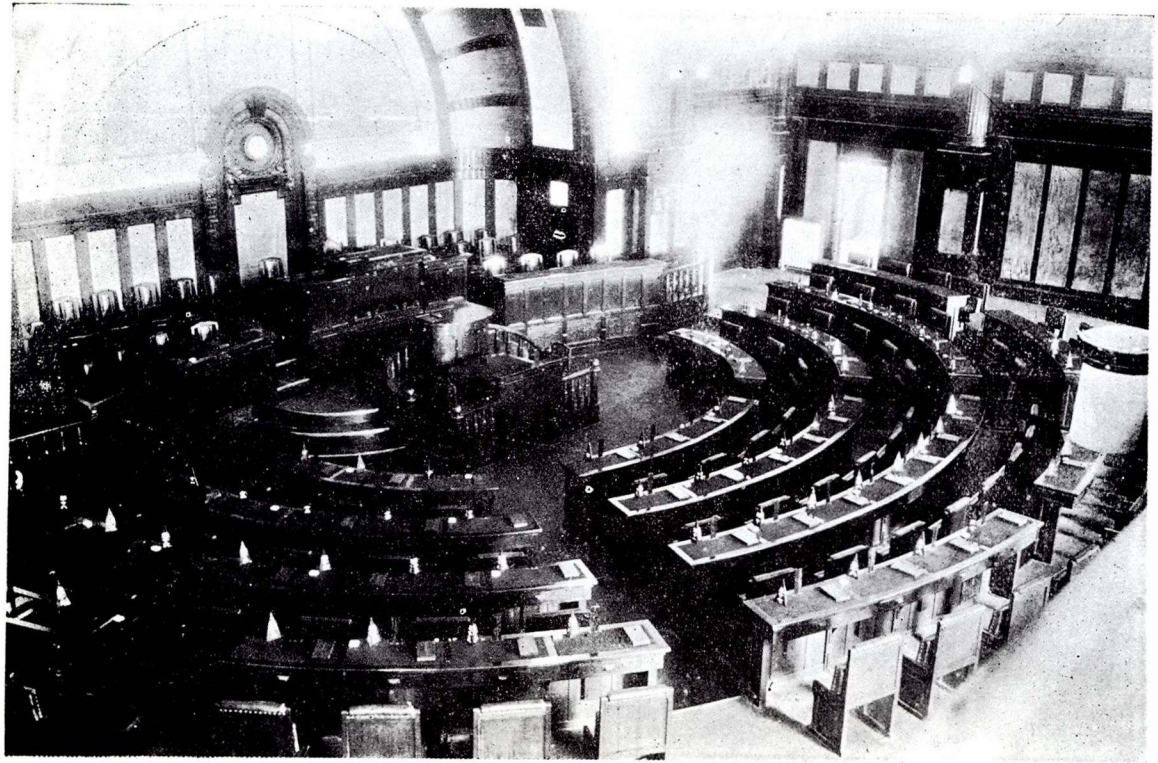
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

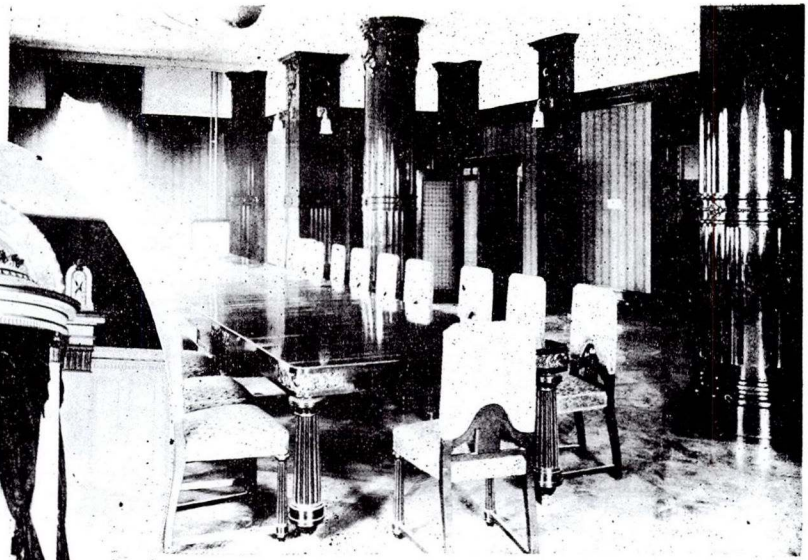
大阪市北區南安治川一丁目十三番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

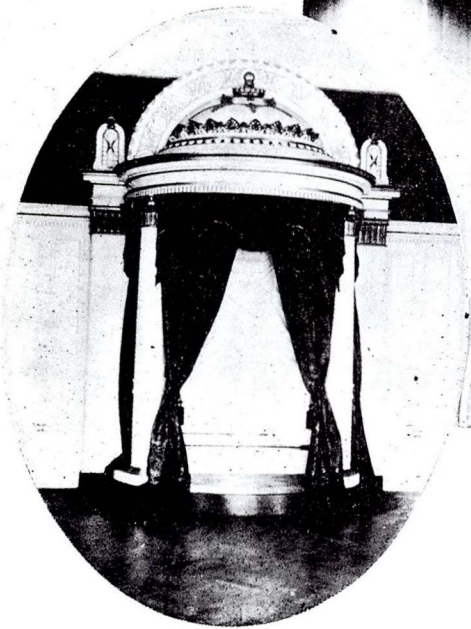
電話西（營業用）四五九　長二五五西　三六二三



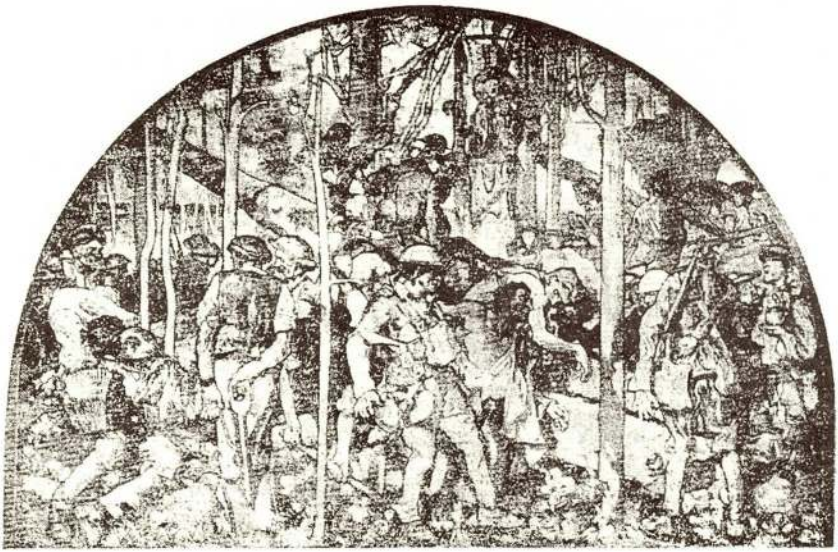
大阪市新市廳舍內『議事堂』



大阪市新市廳舍内『市長公室』



同上『正廳』



ブランゲン井ンの壁畫

思想と情操とは窓硝子に結ぶ霜

華の如く・必然的に美の形象に

結晶せむとするの傾向を有す



都市の改善論說（上）

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

（講演に依る、文責在記者―郊邨）

都市の改善とは、所詮、都市民自體の生活改善に外ならざるなり。則ち、都市民は之に藉りて、其改善されたる文化生活を營み得るが故に、都市民たる者、焉ぞ、都市の改善を曉望せざらむや。されど、吾人は、我邦現在の都市民にして、現代の文明が充分に解決し得べき文化生活を營みつゝありやを懷はゞ、或は、其理想的生活の半ばだにも及ばざるなきかの遺憾を禁じ得ざるなり。維れ、吾人等、夙に都市改善の急要を唱導する所以也。

而して、都市の改善を論ずるには、先づ以て、都市の定義、尠くとも、現代都市の性質及傾向を識らざるべからず。斯る問題は、都市居住者の夙に諒解を有すべき問題なるに拘はらず、都市民の多くは、竟に殆むど無關心なるの觀あるに於て、吾人は、斯の普通にして知り易き事實をも此處に叙說せざるべからざるなり。

惟ふに、現代の文明國に於ける凡ての都會は、常に不斷の膨脹發展を遂げつゝあるを以て、其主要な

る特徴なりとす。斯の徴象的事實は、一見、平凡にして、敢て重要なる意義を有せざるが如く思惟さるも、斯の常事不斷の膨脹發展なる事實こそ、都市改善の緊要にして、而も重大なる意義を將來する楔子なりとす。

蓋し、都市人口の增殖、地域の擴大、衛生狀態の變遷、其他都市の凡ゆる事象は、絶へず變移遷行を繰り返しつゝあり、而して、其變遷は單に都市內容の數量的なる多少を意味するにあらずして、都市夫れ自體の質的に伸長し膨大するに在り。殊に、之を內容的に觀れば、啻に、人口の增加、地域の擴張なる事實に於ける比例以上に、更に累進的比例を以て伸張する或ものゝ多きを忘るべからず。例之、交通の數量、或は港灣設備の如き、人口增殖乃至地域擴大に於ける比例よりも、殆むど幾倍の比率を以て增進するを常とす。斯る事實の反面に於ては、都市の奈何に苦痛なる實狀にあるかを想像するに難からざるなり。斯る性質を有し來れる現代の都市に對し、奈何なる應急策を以て之に處し、又、奈何なる計畫を以て其將來に臨まざるべからざるか、是れぞ、吾人の唱導せる都市改善問題其ものにして、而も改善の急要なる所以なり。

近來、斯る都市改善に關して、凡ゆる研究又は立案を『都市計畫』なる包括的名稱を以て表示されあるも、斯の『都市計畫』なる言葉は、之を世界的に云ふも、一定の意義を有しあらざる場合多しとす。這般實施されたる我邦『都市計畫法』に於ても、都市計畫なる言葉は可成り廣汎なる意義を包有しある如く感せらるゝも、大體に於て『都市計畫』なる言葉の意味は之を廣義に解し、或は之を狹義に考へ、得て曖昧無辜たるを免れざるが故に、今此處には『都市改善』なる言葉を以て終始せんとす。而も、今日吾人等の唱導し、又法律の認めし『都市計畫』なる意義を以て、都市改善の凡ゆる System を全部網羅しあることを附言し置かむのみ。

而して、此處には、都市改善には奈何なる事項を考慮すべきかを述べむに、都市は、勿論、個人の集團

にして、其市民が一定の土地を限り、或は土地を限らざるまでも、或一定の地區に根據を有し、其處に建築其他の工作物を造營して、共同の生活を營むものなるが故に、其改善すべき對照物は、此の都市の土地、建物及び人其ものなり。即ち、斯の三種の改善を以て、實に、都市改善の對照物なりとす。

先づ土地の關係より考察せむに、第一に、共同生活を營まんには、市民の生活の根據たる土地の交通狀態、即ち此の交通計畫を最先となさゞるべからず、第二は、其土地と外部の土地を連絡する交通機關を要す。斯くて、斯の內外に於ける交通機關の準備は、實に、所謂都市計畫の根本義を成すものと謂ふ可し。

單に交通機關と云はゞ、至極簡單なる設施の如く聞ゆるも、其內容の頗る重大にして、又極めて複雜なる、現代科學の凡ゆる技術に依據するに非れば、到底解決し得ざる問題なり。現在我邦の都市の如きは、此の都市內外の交通機關及び交通系統の頗る貧弱なる狀態に在る事、少しく斯問題に意を注ぐ者の等しく容易に首肯し得る處なり。斯く交通機關の不備にして貧弱なる爲に、都市民の被れる損害、及び都市の經濟生活に於ける損失等は、實に測り知るべからざるものあり。之を詳論するは、本編の目的にあらざるが故に、今は單に斯の程度に止めて、吾人は、更に、都市の衛生的施設に觀點を轉せむ。

都市の衛生的施設とは、都市民が同共生活を爲すに際し、多衆群住せる爲、都市民を漸次危殆に瀕する非保健狀態より救濟する方法なり。例之、上水道の普及、下水道の完備、或は防疫事業の徹底的なる計畫、其他、食料檢查所の設置、或は公設市場の施設の如き、其他種々なる方法あるべし。這も亦、我邦の都市に於ては、未だ其計畫甚だ不完備にして、我都市將來の爲寔に寒心に禁へざるものあり。

次は、都市の公園設備も、亦都市改善事業中頗る樞要なる位地を有す。我邦に於ては、公園なる社會的施設は、漸く明治維新後現代の都市を形成するに到りし時より各地に實現せるものにして、明治維新前斯る設備を有するものなかりき。而も、現代の公園は概して貧弱、此の文明都市の公園として見るべき

もの甚だ少きは、吾人等の頗る遺憾とする處なり。歐米の諸都市に於ては、奈何なる都市と雖も、公園設備を以て重要なる事業と見做さゞる處なく、恰も家屋に庭園を缺かば、竟に都市を形成せずとの觀念は、殆むど何人の念頭にも存するものゝ如し。されば、歐米の奈何なる都市に到るとも、公園の計畫員とも稱すべき Park commission なる者あり。パーク●コンミッションは、都市の有力なる機關にして、大都市又は比較的計畫の徹底せる都市に於ては、パーク●コンミッションなるものは非常なる權威を有し、都市公園に關して不斷の研究を爲し、其擴大完備に全力を傾注しあり。

次には、都市教育機關の完備なりとす。教育機關とは、只小學校或は中等學校を云ふものゝ如く思惟さるゝも、是れのみにては、都市民の教育機關としての意義は未だ完からざるなり。都市民の教育は、普通教育以外に一般の常識教育、研究的教育、其他、文明國民としての凡ゆる要素を有する教育機關を指せるものにして、之を具體的に云はゞ、音樂堂の如き、或は各種の博物館の如き、乃至は美術館の如き、常に都市民の研究的向上を圖る設備を伴はざるべからず。之等の設備は、學校の講義に於て爲し得べきものも存せざるに非るも、都市に於ては、學校の講壇に於てのみ都市民の教育を徹底し得べからざるが故に、斯くの如く凡ゆる機關の施設を要する所以也。（つゞく）

公共的福利と都市行政

近世國家に於ける最純正なる理想は、一國を通じて之が公共の福利を進捗せんとする諸般の施設に於て之を見るとを得べし。都市諸般の行政は即ち此公共的福利を進めんとするの理想に胚胎す。近世國家は、專ら國民社會の秩序保持に其力を傾注せし警察法治の時代を過了し、進んで社會の發達を助長し、其公益を進捗せんとする積極の經營に其鐵路を向けり。

凡ては居住生活の改善から

農商務省商務局長　鶴見左右吉

現在我邦の都市計畫は、主として、外面的施設を第一義として、內面的のそれは第二義にも第三義にも置かれ、否な、或は此の內面的施設は殆んど顧られない、といふような傾向がある。謂はば內容より擴つて、外延的に其內容の充實さを現はし又は之を助長する處の、所謂都市計畫でなくして、忌憚なく云はゝ、只道路とか、工業や商業乃至住居地區とか、交通機關とか、扨ては家屋構築の制限とか、凡て外觀上の關係を主に、外容の改善といふことに重きを置かれて、其內容たる處の都市民各自の個別的居住生活其ものゝ改善は餘り問題にされてゐない。勿論、生活の改善といふことは、近來頻りに唱へられつゝある處の樞要な問題ではあるけれども、其提唱される改善事項や其方法なるものを聽くに、例へば、虛禮廢止とか、服裝の問題とか、多くは、生活上の枝葉問題のみを議せられて、生活の基礎であり、又極端に云はゝ我等人格の所產場所たる處の居住の內容に就ての改善は、遺忘されてゐる樣な感を禁じ得ない。都市計畫とは、必ずしも都市の美觀、都市の雄大或は都市の整理其ものが最終目的でない。抽象的な云ひ現はし方ではあるが、都市生活其ものが、既に都市民各自としては最も合理的に、而も最も有能的に生活上に福利を獲得せむとするに在りて此の共同の目的が都市自體の目的であると同時に斯る目的の遂行に有要なる共同の作用は、都市其ものゝ作用である以上、——そして、わたくしは斯の事の間違もない事であらうと憶ふ——先づ都市民の生活內容から改善し、殊に居住生活のそれより改善して、斯の生活の外部に創造し表現され

るものが、所謂都市計畫としての諸般な有形的施設となるのを順序としはせまいか。

若も、それは餘りに遼遠な問題である、或は餘りに理想のみを追ふの問題であるとするならば、少くとも、現在のように外觀偏重傾向とでも云ふべき都市計畫の方法よりも、此の兩者併行主義の立場から、都市計畫上の施設に愼重な考慮を拂つて貰ひ度い。奈何に地區の齊然たるものがあり、奈何程家屋や道路や其他文明都市の粹を竭せる施設としても、現在凡ゆる方面に於て不便な不能率な不經濟な其他の不合理さを現はしてゐる處の、我等日本人の居住——それは誰人でも容易に首肯される現在の事實——を改めなかつたならば、都市計畫に仍つて畫かれる處の外觀の齊美は、所詮都市民として、或は沐猴の冠たるに過ぎないかを疑はれる。即ち、威容成るとも、是が奈何程な實價を都市民に加へるであらうか、都市民亦それ此の折角な威容を巧まく使ひこなして、其具はれる威儀より何程なものを獲能ふであらうか、蓋し答案は頗る直截簡明である。併し、是は尙ほも餘りに理想に過ぐるとの嫌あるならば、わたくしは、も一つ歩を讓つて、更に望み度い一事を有してゐる。それは先づ、都市計畫の條件其ものゝ完備を先きにし、其條件の纏りとも又は條件の綜合的表現とも見るべき都市計畫其ものを第二次にして貰ひ度い。是も、畢竟右に述べた居住生活の改善充實が、都市計畫てふ纏つた現れの條件と見る上からは、所詮同樣な事を繰り返すに過ぎないように聞ゆるが、わたくしは、單に外觀的都市計畫——多分現在の都市計畫がそれであり、そして私は之を狹義の都市計畫と假りに名けよう——是れだけに就ても、同樣な希望を有してゐる。

申す迄もなく、狹義の都市計畫には、單に都市計畫といふものゝ、是には、實質的に凡そ二樣の方法を有してゐる。それは、現在の不合理な都市を部分的に打ち壞して合理的に築造する處の、都市の改築と、今一とつは、現在何等の施設もない場所へ新に成す處の都市の創造である。現在我邦の都市計畫も、既成都市を中心として、是より外延的に圓周を畫きて、廣袤幾里といふ境域を有す

るのであるから、等しく都市計畫と云つても、其内容は前二者の關係を包攬してゐる。而して、既設都市の改築は、現在の不合理な諸施設を或大設計の下に匡改して往くのであるから、豫め都市計畫の條件を先に完備するといふ事は、問題の意義を成さないようであるが、後者即ち創造される都市としては、斯の條件問題が、都市計畫中最も重要な地位を占めてゐる。勿論、何處の都市計畫案でも、現在の舊都市より獨立して、別に新都市を建設する譯ではあるまいが、舊都市を改築して茲に新なる都市を拵へ上るといふ中には、どうしても其從來の都市に何の關係もなかつた處の新都市の創造といふ部分が備はつてゐる筈である。私の所謂狹義の都市計畫に於ける條件完備主義を此處に唱へるのは、此の新都市の部分に於て樞要な關係を有するのである。

之を具体的に云へば、將來の都市計畫に對する處の豫定の施設たる地區、道路、公園、上水、下水、交通機關豫定線、或は人口に比例する學校、市場杯、問題は種々にある。併し、現在に於ける都市計畫なるものは、斯る豫定の上に按排されて都市生活上の之等の完備せる條件的諸施設を縫合し或は經緯して茲に渾然たる新都市が成り上るといふ關係でない。成る程現在の市街地には、『市街地建築物法』及其他の法規に制限されて、建築物に統制を有してゐるけれども、一たび其所謂市街地を去つて、都市計畫地域内の現狀を觀む歟、都市人口の膨脹乃至郊外生活者の增加は、延いて斯の地域に於ける家屋の濫設と成り、只其家屋の所有者又は土地所有者の便宜と採算を主として、勝手氣儘な建築をなす結果、其處に將來の都市計畫地域として何の統一も何の整備もなく、只雜然混如たる一つの群住地區が出來上るに過ぎない。斯の極めて端的な個人主義が住居建築の上に現はれるのであるから、將來の都市計畫に何の統一的關係があらうぞ。隨つて、都市計畫實施の上に幾多の難案件は、斯くて、刻々に作られつゝあるのだ大阪も多分ソウであらうが、一たび東京市の接續郡部は勿論其他の郊外を觀ても、蓋し思ひ半に過ぐるものがあらう。わたくしは、曾て、十數年前

伊太利に往つたが、彼の伊太利統一の偉業を成せし英傑ガブールの住むでゐたので有名なミラン市(?)を見舞ふたとき、其郊外に極めて廣汎な境域に亘つて、わたくし共の二抱へもあらうかと想はるゝようなチュリップ――と云ふのであつたか――巨大な並樹が齊然と大道路の兩側に林道を成しそして、所在縦横に齊然たる下水溝が築かれ、其の他、住居の條件である筈な幾多の施設があつた、そして、其處は一軒の家も無い廣漠たる處の郊野である。わたくしは、當時、なぜ人家も無い處に斯麼ものを拵へたのであらうか、と思ふた。併し是は、ミラン市將來の膨脹を見越した處の新都市建設の豫定地であると同時に、何時實現する事やら遼遠な將來を有つ斯の地へ、都市建設即ち都市計畫の條件を先づ完備せる施設であつた。わたくしは、斯る遠大な、そして頗る具眼的な施設を見て、曾ては伊太利駐剳大使があつた牧野子に斯の事を話して『一体、日本の都市は、何時になつたら斯る合理的な遠大なる施設が見られるでしようか、一世紀も經つたらソウなるでしようか』と云つた事があつた。是は、單に、わたくしの所謂狹義の都市計畫即ち外觀的都市計畫上の施設に於てすら彼樣である。況して、廣義の都市計畫即ち殊に生活樣式改善の重も荷を背負ふしある處の我國民――都市民――の都市生活改善とて内容外觀兩備の都市計畫を見るのは、果して何れのときであらうか。蓋し捕捉に苦む問題である。けれども、都市計畫は現代の都市生活者のみを目安とする施設でなく、謂はゞ我等都市民の子孫幾代の後に亘る廣遠な計畫であらねばならぬ。隨つて、わたくし共都市計畫の初代に在る都市民は、努めて、斯の高遠なる事業、云ひ換へたならば、わたくし共子孫都市生活者の福利を今より築かなければならぬ斯ういふ遠大な理想の下に、現代の都市民各自が其生活の内外共に斯の大方針を有して頂き度い。

少しく話は變るが、わたくし共の生活の有形的根據は、どうしても住家といふ事に歸すると想ふそして、有形的生活の改善――或は精神的生活にも――概して住居といふ事が種々に影響して來る一方幾等都市計畫の完備を成すとも、現代都市の

無限なる人口の膨脹は、到底平面的に無限の包容を爲し得られる譯なものでない。仍て、生活の改善殊に簡易てふ必要と、都市地域の制限とは、どうしても、將來は立体的に、左なくば、共同的に住居を延ばさなければならぬ。茲に於て、わたくしは、彼のアッパートメントを、それも從來の如く、多くは、下層者の簡易住居又は蜂窩的住居といふ意味でなく、もつと完備せる高級的施設の下に、中流以上の人も使用し得るような施設を殷ならしめ度い。斯ういふ居住は、居住者の個人的に特有なる生活樣式の外、皆共同の施備や方法に藉りて生活し得られる便宜がある。例へば、ヒーチングの如きでも、日本人特有な慣習である處の一人々々火桶を抱へ込む必要なく、若もスチームや暖房とすれば、中央から各住居に蒸氣を送り、場合によれば、各家が其パイプより或裝置を爲して、螺栓一捻りせば蒸氣を種々に應用出來得るようにするとか、或は中央電話の設備、共同受送信管、中央倶樂部、幼稚園、場合によりては、家族的又は共同的中央食堂、中央購賣店、銀行、其他幾等も個別的生活を共同的生活に、最も繁を避け冗を省きて、其處に生活の改善を居住より始むることが出來得る。されば、都市の難問題たる處の此の家屋問題と、生活の改善問題は、先づアッパートメントの奬勵にも俟たなければならぬと想ふ。今日の生活改善の問題は、得て斯の心核に觸れない。訪問だとか、贈答だとか、服裝だとか、慶弔だとか、皆枝葉の問題のみである。種々なる危險の防禦に就ても、現在の住居は殆むど無價値である。何んとしても、我等の居住生活即ち家屋の問題に歸着し、亦是から始まらなければならぬ。日本建築協會が、恒々斯の點に就て努力されつゝある事は、わたくし共の多とする處であるが、どうか、一層の宣傳によつて、斯る機運を助長して頂き度い。(文責在記者—郊邨)

先づ斯の傾向の匡正を要す

——住宅政策の一問題——

株式會社三菱銀行監査役
桐島象一

所謂住宅難の問題は、獨り日本に於ける問題、殊に都市としての問題許でなく、實に、世界を通じ、都鄙を通じての重大な問題である。近來、英吉利の政府は、殊に戰後を受けて、其歸還兵士の住居を奈何にすべきかの問題と共に、一層此の住宅難の怨聲猖なるを見て、又一面には、此の住宅難、卽ち多くの犧牲を戰場に拂ふて、英國民より深き讃酬をこそ受くべきに、却つて其住居をすら獲られない兵士や、其他國民の思想上に、之が爲怖るべき惡影響を及ぼす虞れあるを看取し、戰後財政上許多の困憊を覺ゆるにも拘はらず、斷然大策を決して、先づ數拾萬戶の建築に取り懸れるが如き、奈何に住宅難の世界的なるかを知り得ると同時に、其問題の奈何に重大なる意義を包有しあるかを想察し得るのである。而して、我日本に於ては、近來一層斯の歎聲を聞くように成り、主要な都市に於ては、都市社會政策の一つとして、市其ものが所謂簡易住宅の建設等に意を注ぎ、既に大阪市を初め、其他の都市に續々建設されつゝありて、東京市に於ても既に着々進捗しつゝあるもの丶ようである。けれども、それは、住宅難の大勢から見れば、恐らくは、所謂九牛の一毛で、斯の住宅難の大勢を緩和する程な影響はあるまいと想像する。其大勢を左右する程な救濟策を樹てむには、どうしても、思ひ切つて英國流の大策を採るか、或は、何とか徹底した方法で、住宅建設に資本家の投資を殷ならしむる政策か、斯の二者孰れかでなくば、到底大なる仕事は出來得まい。單

り住宅許ではなく、住宅問題には、當然敷地の問題が伴ふから、隨つて、土地所有者即ち土地不動産の資本家が、眞に公益的な考から、欣むで之に資本を卸すようにせねばならぬ。併し乍ら、今の處、我邦では、果して英國流な思ひ切つた事が出來るかどうか、爲政者の手腕奈何によつては、必ずしも出來得ない譯ではあるまいが、是は決して普通な即ち容易に遣り得る仕事ではないから、今の處斯ういふ方法はあきらめるより仕方があるまい。扨うなると、問題は、民間に斯の解決を求めねばならぬから、民間の放資者が先づ其問題解決の鍵鑰を握つてゐるものと謂はなければならぬ。近時、「住宅組合法」や「借地法」を發布された故、是に藉りて、大分住宅難の大勢を緩和するようになるのであらうが、何にしても、是だけではとても徹底した事は出來得まい。仍で、矢張り民間の投資に俟つの外はない。

然るに、近來の我日本に於ける對資本家の空氣が、どうも甚だ面白くない傾向を示し、云ひ換へたならば、之等資本家に對して、資本家の社會的貢献とでも云ふべき長所に向つて、甚だ無理解なそして頗る同情のない、謂はゞ、何となく空氣が面白くない狀態である。殊に土地や家屋の所有者に對して扨うである。是は、確に住宅難の如き大勢緩和に向つて、尠からざる障害を與ふる處の事實ではあるまいか。何故ならば、若も投資の範圍が土地又は住宅だけなら兎に角、然らざる場合、餘程公共心に富むでゐる者ならいざ知らず、先づ普通に、資本家としては、何を苦むで、此の險惡な傾向ある土地や住家に投資する者があらうぞ。斯る空氣の增々濃厚となるに隨ひ、資本家が漸次斯の方面に投資する事を控へるのは自然な理數である。斯くて其結果は何を示すであらうか、申す迄もなく、住宅の缺乏は多々增々甚だしく成り、茲に住宅難の叫びは層一層劇くなるであらう。維れ、確に矛盾と自繩自縛の愚を學ぶ者にあらずして、何であらうぞ。茲に於て、私は、幾多の部分的政策も素より必要であり、之に向つて最善な努力を要するけれども、其外に、住宅難緩和の基本問題であり寧ろ其中心であるとも云へる處の此の

惡空氣を匡正するの根本政策を考へねばなるまいと思ふ。是は、勿論簡易な問題ではないけれども此處に何かの深い注意と自省の及ばざる限りは、所謂住宅難緩和策は、所詮、峠を望むで何時迄も麓を走つてゐるようなものではあるまいか。

次に、是も住宅難緩和の一方法とも云へるが、日本の家屋を努めて經濟的に或は能率的に使ひ度い。由來、日本の家屋には、什うも無駄が多い。勿論、贅澤といふ意味に於ての無駄もそれであるが、然らざるものでも、日本家屋在來構造又は使用の上に、甚だ無益な點が少くない。何よりも是を改良する事が、一面に於て住宅問題の重要事項である。其處になると、將來は彼のアッパートメントが、都市住宅政策として頗る重要な對衆と成つて來る。申す迄もなく、アッパートメントは、住居者其ものゝ住居生活より生ずる處の凡ゆる無駄を省くといふ點に於ても、又一種の簡易生活といふ側に於ても、乃至は、居住生活の快適といふ上よりしても、頗る文明的な施設である。日本に於ては共同住宅と云へば、一種の卑き觀念が閃くけれども、アッパートメントは、勿論共同住宅であると同時に、其施設は生活條件の普遍なものを共同にするといふ丈けで、而もそれは必ずしも开うするものだとの約束はないけれども、之を徹底的に施設して無駄を省くといふ上からせば、例へば共同電話、共同暖房、共同浴湯、共同レセプションホール乃至ドロイングホール、共同食堂、曰く何と、數へ來れば幾等でも遣るべき事はある。斯る住宅こそ、將來の居住政策上最も考ふべき案件ではあるまいか。何にしても、都市は、其膨脹發展に連れて地價の昂騰するは自然の理數である。住宅難といふ事は、此の地價の關係も其主要原因の一つである。何故ならば、申す迄もなく、敷地に卸されたる資本に對する報酬即ち利子は、當然家賃算出の基礎と成つて、借家人の上に轉嫁されるのは普通な事例である。开うなると、將來多々增々發展し膨脹する都市は、從來の如く平面的居構生活、即ち小さい乍らも、一家族、一家族が各別に住居を構へることは一層難しくなるであらう。是は單に都市の地域が、無限に增殖する人口を包容

し得ないといふ關係許りでなく、實に經濟關係から云ふても爾かあらねばならぬ。仍で、問題は矢張り、之を立脚的に、即ち上層的に居を構へる處のアッパートメントに歸するのである。

彼樣な次第であるから、國として、又は市の如き公法人として、無限に殖へ行く人口と住宅との調和を爲すべく自ら大策を決して、どし〳〵住家を建築して、無限の需要に應ずる事が出來得ない限りは、個人の建築物投資を凡ゆる方法で奬勵して、斯の大問題より不祥事の起らない考へを爲さなければならぬ。扨うなると、問題は矢張り後へ戻るが、それ等の投資者に對する世間の理解、謂はゞ土地家屋の所有者に對して、もつと世間は同情と洞察を有つて貰はなければならぬ。現在のような狀態で行つたならば、私は憂ふ、資本家といふものは、次第に投資の方面を變へて、家屋や土地といふものに手を控へるようになりはせまいかと。是は、勿論投資家自身の問題ではなく、寧ろ借家人の問題である。今回發布された處の「借家法」や「借地法」が貴族院に提案されたとき、成る程是は社會政策として妥當な事ではあらかなれども、餘りに借家人の保護に篤くて、其結果は、將來、家を建てる事を手控へするように成り、即ち私の所謂投資を控へるようになつて、折角社會政策としての好案も、之が爲め家が缺乏するようになれば何の効果もないではないか、といふ意味な質問もあつたようであるが、是は、勿論、借家人を保護する事が却つて借家人を苦める矛盾を云つたに外ならぬ、と私は思ふ。其如く、土地や家屋の所有者に對する近來の空氣を懷ふて、中には、斯る空氣を導いた處の、所謂非道なる土地家屋の所有者もあつたではあらうけれども、寧ろ此の少き事實を以て、一般に好ましからざる態度を有するといふ事は、住家の安易なる供給を得むとして實は、自ら斯の供給を遮り或は打ち壞して而も自ら一層の困難を惹ふる、といふ一種の奇觀を呈するではあるまいか。都市政策中重要なる系統と位地を有する處の斯の住宅問題は、國が解決すべきものであるか、或は其都市が解決すべきものであるか、更に都市民各自が解決すべきものであるか

それは今此處に速決すべき問題ではないけれども何にせよ、現在、日本に於ても、殊に、東京や大阪の如き大都市に於て、現に問題が切逼しつゝある上、國及び市の如き公法人に於て大した解決策の見當らない現狀である限り、歸する處は、都市民各自に其解決の責任と急要は逼つてゐるのである。されば、土地や家屋の所有者に對して、現在の如き態度を改めない限り、恐らく問題は何時迄も決せまい。それと同時に、都市民各自の責任と切逼は解けないであらう。

本編は、桐島氏の談話を記者の記憶を辿りて編綴せるものなるが故に、文中或は過誤なきにしもあらず、其點は素より記者に於て、責を負ふ處也——郊郎

世界最高のホテル

先年最高といふホテルが、瑞西國シャンクフラー鐵道會社の沿線に在るエスメール停車場の傍に出來た。このホテルは、海拔一萬尺以上と稱せられるエイスメール山の頂上に近いところにあるので、已に高山地帶故、尋常の方法では食物を調理する事が出來ず、其麓に在る處のユングシャン瀑布を利用して引いた水力電氣の電力に依つて一切の食物を調理し、その食堂は絶壁を切り開いて之を作り、始終電氣に依つて室内を温めてゐる。

住宅建築家は奈何なる態度を執るべき乎

會員　工學博士　武田五一

住宅問題は、目下我國の全般に通じて熱烈なる問題となつて居る。其解決如何に由て、社會問題も或點までは落ち付けることが出來るし、都市計畫の大問題も一條の活路を見出し得らるゝことと思はれる。斯の問題は、種々の方面より論じて居るが、要するに、現今の文化生活にシックリと適合する住宅を考案實施すればよいのである。社會人には、あらゆる階級に於て、其要求に種々の異點あることは云ふまでもなきことながら、其根蒂となるべき要求には、自ら共通なるものがあるべき筈である。經濟學上、衞生學上、家政學上のあらゆる科學的の要求と、趣味より出でたる美的要求は、一括して建築學上に其最後の纏りたる要求となつて具体化して來る。建築家以外の社會人の要求は。結局未だ形をなさゝる單なる要求であつて其多少具体化されたるものと雖も、終には、建築家の頭腦と手腕を通過せざれば、家の形或は家の附屬物の形となることは不可能である。建築家は住宅問題の最後の解決者であり、最後の責任者である。

住宅問題解決者としての建築家の態度は、家庭に於ける主婦の如きものである。面倒を厭ふて居ては、到底任務を果すことが出來ないが、最後の感謝は、當然其勝を報ひて餘りがある。されば、其任務は寔に重大なりと云はねばならぬ。

住宅建築其物が、種々なる建築物の内に於て、最も要求の複雜なるものである。が、機關さへ完全に整ひさへすれば、案外容易に設計が出來るものである。

住宅建築の設備萬端は、大抵出來合品を以て辯じ得る。若し家具調度の製作者の良好なる者、及建

築材料の便利且經濟的なるものが、市場に多數簇出して、建築家が其選擇を誤らざれば、建築家は其使用方法及按配に、細心熟達せる注意を拂ふことによりて、容易に完全なる住宅の設備を調ふることが出來る。例令ば、便器、厨房の裝置、防盜設備、電燈器具、暖房裝置、家具々其等に附屬する金物等の如きは、賣品として年々新考案のものが市場に現はれて來る。建築材料、例令ば屋根葺材料、床敷材料壁紙、天井材料等の如きも、亦種々な新案のものが日々市場に其特長を競爭しつゝあるの狀況である。之等のものに對しては、建築家は、其品質の檢査を怠らず、其最も優良なるものを選出する爲に、常に注意を爲して居る必要がある。其等のものゝ選擇と、其使用方法の巧拙とに由り、住宅建築の便不便或は醜美が別れて來る建築家にあらざる素人が、大工相手に可成り整頓したる住宅を作り得るは、全く斯の利便を巧妙に應用し得るからである。

住宅建築家は、或程度までは、住宅に必要なる家具調度、或は住宅に付屬する金具類の考案者たるを要する。建築學的一般の智識ある者が、之等の器具類を考案すれば、其強度又は美觀に、調和且つ趣味ある器具の考案を爲し得る故である。市場にある家庭用の器具には、趣味の點に缺ぐる所があり、或は強度の點に不充分なる廉あるは、全く之等發明家に建築學的素養の無きことに基因する。苟も、家庭用の器具を考案せんとする者は、之を市場に送り出す前に、一應建築家に相談すべき必要があると思ふ。

住宅建築には、概して其大さの大なるものがない。梁の大さに於ても、大なるものを使用するとなく、階數の如きも三四階を超ゆることはない。從つて構造法にも大なる困難は伴はないが、之れに對する經濟的の考慮、即ち、如何にすれば廉價に仕上げ得るかを、極端まで切り詰めて行かねばならぬ。住宅建築は、概して、切り詰めたる豫算を以て掛るものである。斯くの如くせざれば、到底一般社會的要求を充し得られない。殊に、現下の住宅補充問題を解決するには、最も廉價に住宅を建築し得る方法に、建築家は努力するを要する。貴族

的の住宅建築を考案することは、目下我國の一般的の希望ではない。不必要に大なる強き材料を使用し、必要以上の裝飾を爲さんとすることは、往宅建築家の陷る弊である。構造上の責任を輕くする爲め、之等の浪費を注文者に負擔せしむることは、建築家としては不親切たるの誹りをまぬがれぬ。無論、構造上危險なる計畫を爲すことは、建築家としては恥づべきことなるも、必要以上の强度を付與し、横倒しても大丈夫なる箱の如き建物を作ることも、亦同樣の結果となるべきである。材料の選擇如何と、其構造方式の考慮も、亦住宅建築場の經費を左右すること多大である。近來の如く手間賃の暴騰せる際に於ては、一層經濟的工作方法に注意を向くべきである。徒らに從來の構造法に拘泥し、納と納穴にのみ繼手の强度を依賴する事、或は舊き敎科書にある如き構造法にのみ準備する如きは、決して新時代に適應する住宅建築家たるの資格無き者である。宜しく、內外各國の最新な構造法を研究して、尙それに最新科學の研究結果を加へ、自家獨得の工夫の下に、最低の勞金を以て、最も堅牢に最も經濟的に構造し得らるゝ構造方式を、考案實行すべきである。材料の大きい、なるべく統一したるものを使用し、器械力を使用し得らるゝ部分は、悉く其利便に賴るを賢明なる手段と思はる。鉋削の如きは、器械鉋を利用し、鋸斷も亦器械鋸を使用し、なるべく現物に於ける工作を單純化せしめ、複雜なる工作は、各工場に於て爲す如く工夫するを要する。木造の構造法の如きは、近來歐米各國の手法の如く鐵材の構造法と同一に、悉く釘とボールトを以て其繼手の强さを持たしむるならば、大工の仕事は極めて單純と成り、從つて、家屋の經費を大に切り下げることが出來る筈である。釘及ボールトの途を知れる今日に於て、尙納及納穴を捨て去ることの出來ないのは、愚の至りと云はねばならぬ。其經費を增し、其强度を減ずる點に於て、納及納穴主義の構造法は、現代の要求より遠きものと云はねばならぬ。裝飾的仕上げの木部、納及納穴式の構造法を使用することの必要なるは言を俟たぬ。けれども之れを何等裝飾的意義なき構造部にまで及ぼすこ

とは、甚だ謂れなきことである。

住宅建築の如き經濟的考慮を重大視する建築物には、宜しく、此等の點に於て、第一着に改善の一歩を踏み出す必要がある。

住宅建築に於ては、經濟的考慮に次いで重要なる問題は、實に、趣味の點である。即ち、現代人が享樂する文化的生活に、悉く適合するものでなくてはならぬ。構造法が如何に合理的に堅固なるものなりとも、其趣味的慾求を滿し得るものならざれば、住宅建築としての價値は半減せられる。

建築家は、文化的生活に共鳴し得るものでなければならぬ。舊來、棟梁若くは大工の如き、斯の點に於て、よく住宅建築家たり得るもの幾何あるや、大に疑ひなきを得ない。自身文化的生活の雰圍氣中に生活し、趣味を味ひ、建築美を解し得る者ならでは、趣味的住宅を設計し得ざるは、云ふまでもなきことである。趣味ある住宅を作らむとして、料理店又は待合式のものとなることあるは、彼等の趣味が現今の文化生活に沒交渉な故である。

住宅建築は、他の建築と異り、建築工事中其設計變更を餘儀なくさるゝことが多い。是は住宅建築に從事したる建築家の常に惱さるゝ所である。之れ、一面に於て、設計の際に於ける研究の不備なる點もあるであらうが、工事進行中に於て、注文者の研究が益々深くなりて、其想に於て進歩しつゝあることも其原因となるは明かである。注文者にして、往々病的に設計變更に興味を有せる者あることも亦否むべきでない。何れにして、住宅建築家はよく注文者をして滿足せしむる如く設計の變更の需めに應じ、充分注文者に其計畫の起り來りたる理由を說明し、親切に其欲する要求を具體化し、精練したる形として表現せしむることに努力するを要する。此の如き際に於て、建築家は、己が主觀に重きを置きて、注文者の要求を理由なく退くるは、思慮なきことであらふと思ふ。數度設計變更の要求を容れ、且つ經濟的にも趣味的にも定りたる日限内に完全に注文者の意思を滿足せしめ、併せて住宅建築家の理想をも加味せる住宅を作り上ぐる手腕ある者こそ、初めて理想的の住宅建築家たり得べき資格を具ふる者と云ふべきである。

火災保險と建築（其三）

會員　長田岩次郎

三、職業上の割増

同一の建物にても其の建物を使用するに方り用途如何即ち職業の性質によつて危險率に相違を生ずるにより左の如き割合にて割増をするのである。

（表は保險金百圓に對する割増金なり）

職業	割増料金	
	第一級建物 第二級建物	第三級建物 第四級建物
演劇及活動寫眞を興行する建物 注意當割増は日割計算をする事を得 但一ケ年料率の十二分ノ一を最小限度とす	一圓	二圓
活動寫眞の「撮影」「現像」及「試映」を行ふ建物並に興行の目的に非ずして映寫をなす建物	五十錢	一圓
寄席、興行場、勤工場及襤褸紙屑並に「ぼろ」綿商	各級共 五十錢	
營業用自動車格納庫及修繕所	各級共 七十五錢	
ゴム加工場、セルロイド加工々場、但し動力を使用せざるものに限る	一圓	
ホテル、旅人宿、下宿屋、料理飲食店（待合、倶樂部（偕行社及水交社を除く）玉突塲、湯屋、寄宿舍、合宿所、菓子製造業、荒物屋、指物職其他各種木工、藥品及藥種商、家具製造又は裝飾業、馬糧商、各種油商、ペンキ及ワニス商、鍛冶屋、製本屋、疊屋、紙函製造業、提灯屋、洗濯屋、繩及莚商、京染屋、更紗型染屋、染物屋、紺屋、病院及産業を行ふ學校（小學校を除く）	各級共 二十錢	
加熱乾燥蒸汽乾燥の塲合	第一級建物 第二級建物 二十五錢	第三級建物 第四級建物 五十錢
其他の塲合 注意當割増は乾燥作業を行ふ期間中日割計算を以てする事を得 但し一ケ年料率の十二分ノ一を最小限度とす	五十錢	一圓
貸座敷	各級共 五十錢	

東京府、埼玉、山梨、栃木、群馬、茨城、千葉、長野、新潟、宮城、福島、岩手、青森、山形、秋田、神奈川、靜岡、石川、富山、福井（若狹を除く）

貸座敷其他 但し遊廓地特定率のものを除く	各級共 二十錢

注意　職業割増は之を重課せず即ち同一建物内に於て數種の營業を行ふ時は最高の割増率に據るものとす

四、物品の品質による割増

左記危險品を收容する倉庫に對しては其構造の如何に拘らず保險金百圓に付一ケ年

危險品A級　十五錢
危險品B級　三十錢
特別危險品　八十錢

右の如く割増金を徵收す野積の場合亦た同じ

A級危險品

經木。壓搾鐵帶締をなしたる綿花。ガンニーバッグ。大麻黃麻。及壜詰に非らざる酒類。(ウイスキー、ジン、ブランデーの類)其他麥稈眞田。蓆。繩其他藁製品(疊表及葦蓆を除く)

B級危險品

人造絹糸。アスファルト。硫黃。樟腦。セルロイド。玩具及細工品。木炭(紛狀なると否とを問はず)壓搾鐵帶をせざる棉花。ガンニーバック大麻。黃麻。其他油煙及炭素末。石灰。液化せられたる瓦斯マッチ(ブリキ板張函入のものに限る)礦物性蠟類(オゾクライト。固形パラフイン。セレシンの類)ナフタリン。各種油類(華氏百五十度以下に於て可燃性瓦斯を發散する油類を除く)ペーント(液狀)。油紙又は『ニス』引紙類及其製品(傘提灯の類)澁青。赤燐。樹脂智利硝石。硫化染料。タロー其他脂肪及グリーズ。タール。ワンス(但スピリツト。ワニスを除く)各種植物纖維(『カポック』『エスパルト』『棕櫚』藁其他草類を含む(但し煙草を除く)各種屑物(襤褸『マンゴー』『ショッデー』を含む但し生糸屑物を除く)鉋屑(『エクセルシヨル』の類)乾燥せる除虫菊。

特別危險品

アセチリン(炭化カルシユム)二硫化炭素。セルロイド及ザイロナイト。鹽酸加里。鹽酸曹達エーテル。各種爆發物(雷管、裝彈、紐狀火藥、煙火、火藥、爆藥『ニトログリスリン』其他爆發性化學藥品及化合物を含む)マッチ(ブリキ板

張函入に非らざるもの）硝酸鹽類、硝酸（稀薄なるものを除く、油類（但華氏百五十度以下に於て燃燒性瓦斯を發散するもの）過酸化鹽類。スピリツトワニス。酒精類（『アルコール』『メチレーテッド、スピリット』木精、松脂、油の類）黄燐。

普通物件割增率は大略右の如くなれ共、二馬力以上の動力（手押以外の）を使用する工場構内に所在し單に貯藏の目的に使用せらるゝ倉庫及タンクに於ては前記第四の物品の品質による割增料率が多少變つてくるのである。即ち

甲、動力使用建物又は是れと連絡する建物より四十尺以上の距離に倉庫及びタンクが有れば

	第一級	第二級	第三級
危險品を貯藏の時は	、二五	、四〇	、五〇
危險品Aを貯藏の時は	、四〇	、六〇	、七五
危險品Bを貯藏の時は	、五〇	、七五	一、〇〇
特別危險品貯藏の時は	一、〇〇	一、五〇	二、〇〇

（各貯藏物品製造工場の工場料率により）

第一級工場料率の二分の一	現實工場料率の四分の三

四十尺以内十五尺以上の距離に有る時は

丙、動力使用建物又は是れと連絡する建物より十五尺以内の距離に有る時は各級共現實工場料率とす。

一例を示すと今假りに尼崎附近に一級構造の單獨の倉庫ありとして、此に『セルロイド』を貯藏せば、本誌前卷十四ページ十三行に示す保險料百圓に付金二十錢に、特別危險品貯藏割增八十錢を加算して金一圓である。

然るに今回一構造の倉庫が『セルロイド』工場内に有りとし其製品を貯藏し且つ二馬力以上の動力を使用する工場或は其の連絡建物と十五尺以内（丙）の距離に有るときは、本誌前號十五ページ三行目に示す二圓五十錢の料金となり、若し其が十五尺以上四十尺以内（乙）の距離なれば右の二分ノ一の料金卽ち一圓二十五錢となり、四十尺以上（甲）の距離ありて

初めて單獨の倉庫と同一料金一圓となるのである。

但し此場合相對せる當該兩建物が共に第一級構造にして其相對する側に於ける入口又は窓が總て一重の鐵戸又は金屬張の戸若くは扉を備ふるとき、或は又當該兩建物の一が第一級構造にして此の第一級建物の他の建物に相對する側に於ける入口又は窓が總て二重の鐵又は金屬張の戸若くは扉を備るとき、或は又當該兩建物が隣接するも完全なる界壁により隔離せらるゝときは十五尺以内(丙)に相對するも十五尺以上四十尺以下(乙)の距離にあるものとして料率を算定するのである。

注意、前記(乙)又は(丙)の料率が(甲)の料率より低きときは其中の高き料率を適用する事。

露天の貯藏用タングが全部不燃質物を以て造られたる場合には第一級構造の料率を適用する事。

二馬力以上の動力を使用する工場内に所在する倉庫は、保稅倉庫として使用せらるゝも將た倉庫業者により占有せらるゝとも總て本料率に準據すべきものとす。

附屬建物

押手以外の二馬力以上の動力を使用する工場構内に有る汽機、汽罐室、發電所、變壓所、事務所、修繕場、寄宿舍等の附屬建物は

甲、右動力使用建物又は是れと連絡する建物より四十尺以上の距離に在るときは

第一級	二十五錢
第二級	四十五錢
第三級	六十錢

乙、同四十尺以内に在るときは

第一級	第一級工場料率
第二、三級	現實工場料率

但し當該兩建物共一級構造にて其相對する側に於ける入口又は窓總てが一重の鐵又は金屬張の戸若くは扉を備ふるか、相對せる一が一級構造にて此一級建物の他に對せる側の入口及窓が總て二重の鐵又は金屬張の戸若くは扉を備ふるか、兩建物隣接するも完全なる界壁

によりて離隔せらるゝ時は左記料率による。

一級構造に對し　一級工場料率の二分ノ一

二、三級構造に對し現實工場料率の四分ノ三

但し如何なる場合に於ても前記(甲)の料率を下る事を得ないのである。

以上の外綿絹毛紡織工場同附屬建物其他種々の基本料率等あれども略し左に吾々建築關係者に關係多き短期料率を示す可し。(つゞく)

短期料率

一、五日まで	年率の	五分
一、十五日まで	同	一割
一、一ケ月まで	同	一割五分
一、二ケ月まで	同	二割五分
一、三ケ月まで	同	三割五分
一、四ケ月まで	同	四割五分
一、五ケ月まで	同	五割五分
一、六ケ月まで	同	六割五分
一、七ケ月まで	同	七割五分
一、八ケ月まで	同	八割
一、九ケ月まで	同	八割五分
一、十ケ月まで	同	九割
一、十一ケ月まで	同	九割五分

思を致すは
井を掘るが如し
初めには渾水あるも
久ふして後に清者
出來る



（研　究）

ポルトランドセメントの成分及び其硬化に伴ふ變化に就て　（2）

工學博士　細木松之助

近年回轉窯の流行するに從ひて、漸次廢棄せらるゝ固定窯にて燒成せるセメントは、燒成度の充分ならざるもの及び不溶解性物質の多量を含有し此等の物質の大部分は不働性なるを以て、セメント中に在るも無價値な物なり。然るに、回轉窯は、其温度固定窯に於けるよりも高きを以て、前者と同一の原料を用ひて燒成するも、仍て生ずるセメントは、其内に不働性の物質少なくして、水硬性の物質多きが故に、從つて其硬化の度を增すものなり。今、左に、各成分に就き知らるゝ所を略述すべし。

苦土は、良質のセメント中には只小量のみ存在するものにして、就れのセメントに於ても、嫌はるゝ所の物體なりと雖ども、天然セメント中には、稍多量に含有せらるゝなり。

苦土は、珪酸若くは礬土と化合するに、石灰よ

りも高き温度を要するを以て、若し原料中に多量の苦土を含有する時は、自然不化合の狀態に於て殘留し、セメントに惡影響を與ふるものなり。然れ共、高き温度を以て充分に燒く時は、特に患ふべきものにあらざるは、天然セメント中に多量存在して、特に不良ならざるによりて之を知るべし。

アルカリは、主として加里と曹達にして、珪酸鹽又は礬珪酸鹽となりて存在す　然れ共、其量は甚だ少なし。是れ、其大部分は、回轉窯にて燒成の際に揮發し去るを以てなり。且、アルカリの化合物は、熔融し易きものなるを以て、セメント内に在ては、硝子狀の不働性體を成せり。

酸化鐵　セメントの分析表には、鐵分は皆第二酸化鐵として計上せらるれ共、之恐くは其當を得たるものならざるべし。尤も、多くの塲合に於て酸化鐵は、礬土と近似のものを以て、第二酸化鐵と見るも敢て不當ならざるが如しと雖ども、セメント燒成用の窯内にては、還元焰を生ずるを以て、此還元作用を受けて酸鐵は其大部分還元せられ、第一酸化鐵と成り直ちに珪酸第一鐵若くは礬珪酸第一鐵となり、斯くてクリンカー中に存在するものなり。斯る化合物中に於ける第一酸化鐵は、鹽基として作用し、石灰若くは苦土に類似したるものなり。

硫酸鹽及び硫化物は、主として、硫化カルシウム硫化鐵及び硫酸カルシウムにして、其中、硫化物は、セメント原料中に少量存在する事ありと雖ども、其大部分は、燒成に使用する燃料中に含有せらるゝ硫黄より來るものなりとす。

セメント中に硫化物の含有せらるゝより起因する危險は、其酸化するによりて硫酸鹽と成り、此變化によりて、膨脹してセメント塊に龜裂を生ずるにあり。故に多くの仕樣書には、三酸化硫黄として、二、七五ペルセントを限度として之を禁止せり。

然るに、凝結の時間を加減する爲、二ペルセント以下の石膏末を加ふる事は一般に許容せらるゝ所にして、此石膏分の硫酸は、前記二、七五ペルセント以外なりとす。然れ共、若し燒石膏を加へ

たる場合に於て、斯るセメントを長く風化せしむる時は、石膏は空氣中より水分を吸收して、セメントの凝結時間を緩徐ならしむる効力を失ふものなりとす。

第二部　凝結及び硬化に伴ふ變化

セメントに水を加へて混捏したるより起る物理的及び化學的變化は頗る肝要の者なれ共、亦同時に頗る複雜なるを以て、各自別箇に考察するを許さゞるものなり。故に、便宜上之を二種に別ちて凝結(Setting)及び硬化(Hardening)と稱す。

セメントに適量の水を加へて混捏する時は、一種の可塑性を有する糊狀體となり、任意の形體に作ることを得べし。然れ共、暫時にして其可塑性を失ひて固形體と成り、同時に、其表面に現はれ居たりし水分も消失すべし。斯の變化を稱して「凝結」といふ。而して、此凝結の後、尙引續き、長き時日の間次第に其固さと機械的の強さを增進すべし。斯の變化を「硬化」と稱す。

最初水を加へた時より可塑性を失ふに至るまでの時間を、「凝結を始むる時」と稱し、急硬性のセメントに在つては、斯の變化は、頗る急激なれ共極めて緩慢性のものに在ては、其變化頗る緩徐なるを以て、殆んど人の注意を惹かざるものあり。

セメントに混加する水量の多寡は、凝結の時間に影響を及ぼすものにして、水を過多に加ふれば凝結をして遲からしめ、水分不足なる時は凝結速かなるものなり。又溫度の上昇も凝結並に硬化を急速ならしむるものなるを以て、暑熱の氣候に在ては、寒冷の時よりも硬化速かなりと知るべし。故に、盛夏の候に工事を施行するに方つては、往々セメントの硬化急速なるが爲に、頗る困難を感ずる事あり。

セメントに水を加へたるが爲に、所謂凝結と硬化を起して、岩石の如き堅體に化するは、之を詳說すれば、下の如き三種の變化が同時に進行するに因るものなり。

第一、過飽和溶液より結晶狀の地體を生ずること。

第二、ゼルと稱する膠狀體が其水分を失ふこと

第三、セメント中に在る各種の物質が相互に及

び水と作用して、一方には第一に於ける如く結晶狀體を造り、他方に於ては第二に於ける如く膠狀體を造りて、最後に其水分を失ふこと。

過飽和溶液より結晶體の生ずることは、石膏の硬化の如きが最適例にして、ポルトランドセメントの凝結も、亦其一例と見るべきものなり。而して此セメントの場合に於ては、水酸化カルシウムの結晶體を生ずるが爲に凝結し、其凝結の速度は溶液の純否に依るものにして、溶液中も少量の石灰若くは他の膠狀體の存在する爲に凝結を遲緩ならしめ、或は時として全然防止するに至る事あり。

膠狀體は少しも化學變化を起さずして、堅き石の如き物體に變化する特性を有す。今、之を少しく說明せんに、或物體が無定形にして、極微細なる粒子より成る時は、結晶狀の物體と異にして一種特異の性質を有す。ゼラチン或は膠は、膠狀體の最も顯著なるものなるを以て、其膠狀性を容易に認識し得べしと雖ども、水酸化カルシウム、粘土、珪酸、礬土等も或場合に於て膠狀體なり。

凡て膠狀體なる物は、左の如き三種の狀態に於て存在し得べきものにして、第一は、其粒子非常に微細にして水中に浮遊し、之を濾過するも、膠狀體を除去し能はざること、恰も眞實の溶液に於けるが如きものなり。斯る僞溶液をソル（sol）と稱す。第二は、ソルを加熱するか、若くは、酸又は或種の鹽を加へて凝固せしめたるものにして、膠狀體は、爲めに濃厚にして糊狀を呈し、所謂膠狀固體となれるものを以て、之を濾過し、若くは沈降せしめて、水より分離せしむるを得べく、之をゼル（gel）と稱す。此等ソル及びゼルの或物は、幾度も相互に轉化せしむるを得べしと雖ども、凝固したるゼル中には、再びソルに轉化せざるものありて、之を固定ゼルと稱す。又、第三種の物は、乾燥せるゼルに相當すべき無定形の物にして、或は角狀粒狀又は細末狀の物ありて、固定ゼルならざる限り、水を以て處理してソルならしむるを得べきものなり。

膠狀體の性質は、ゼラチン又は膠に就て最も容易に會得するを得べきものにして、今若しゼラチンの一片を水中に置く時は、次第に軟化して膨脹し、其容積の增大すること殆んど無限にして、若し水量充分に多き時は、膠狀體は終に溶液化して所謂ソルとなるが、若し又斯くまでに至らずとも殆んど感觸し難き程の軟かきゼルとなるべし。今若し此軟體を水中より取出して乾燥せしむれば、次第に其乾燥すると共に收縮し且硬くなりて、終に角狀の物となるべし。

（つゞく）

ブランギン氏の壁畫に就て

修生 譯

英領カナダ、マニトバ洲の首都ウインニペッグの、新議事堂の重要なる壁畫――此壯麗なる建築に更に榮譽を與ふる――が、畫家フランク、ブランギン氏により最近完成せられた。

建築は樣式の古典式なる上に、建築家によりて鍛錬された、地方の傳說から感得した幸福が、此全体の設計に加味せられてゐる、一例として、中央階段の下には、二つの大きい野牛の像がある、此等の貴い獸は、廣いマニトバの大草原を、心の儘に歩き廻つてゐた、永い過去の年月と共に、今日の變つた塲面に繫がれてゐる。

建築家フランク、シモン氏は、彼の威嚴ある意想と、彼が撰んだ大廣間の壁面裝飾の二つの上に慶賀せらるべきである。壁面裝飾は宏大なる歷史を持つてゐる藝術であるが、今日二三の大公共建築物は、其等には關せず、畫家の彩筆によつて、充分な裝飾を施されてゐる。イープルに建築されてゐる、古代クロス、ホールの榮譽の一つはその裝飾の富であり、複興式宮殿に於ても、其壯麗なる建築に對するが如く、驚嘆すべき壁畫に對しても、同樣に高名であるっ藝術の光輝あるトリニチイー――それは建築家が畫家及彫刻家と、親密に協同して製作しつゝある、其時である。此古よりの慣例の事實は竟に最も興味ある形象を以て、藝術の將來に對する良き占ひを、複活せられたのである。

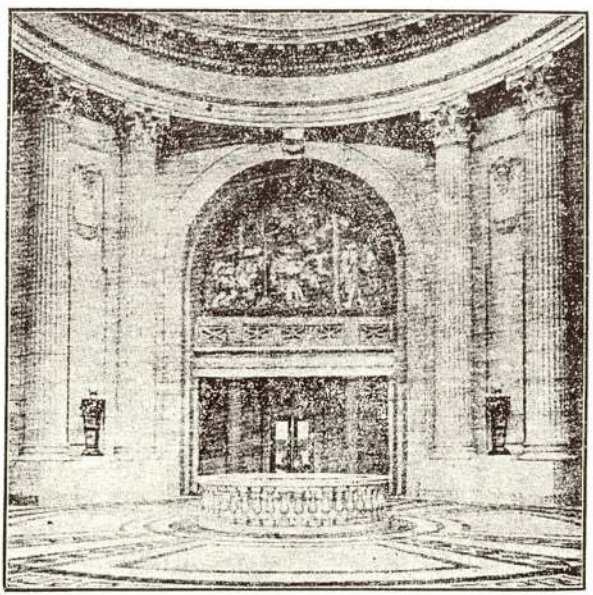
ブランギン氏のパネルは、凛々しい比例に於てテンペラを以て描畫れてゐる。畫布は長さ二十二呎餘、高さは孤形の最上部に於て、殆ど十五呎の半圓形にて、中央廣間の大戸口の上部、孤形面に

取付られてある。壁畫は、加奈陀（カナダス）の戰爭記錄（ウオーアヒコード）と題され、その餘りに宏大で、そして、非常に多岐なる主題の意を、一個の單なる裝飾に於て、其各の形象を包含することの、不可能なるは明白であるが茲に此種の問題を解決すべき只一筋の道がある、それは此問題を諷諭として處理することで、この美術家は此方法を撰んで製作した。其考案の成功は卷頭の寫眞の一瞥でも明白である。廣間は温い鼠色の石材で、建築されたるを以てブランギン氏は、其裝飾に空幻的な、金色と青色の美麗なる調子を、其處に撰擇したのである。誰しも此製作の一度の凝視による最初の印象は、快美にして潤澤なる、絨氈のやうに快い模樣のそれである。此結果は有意なので、ブランギン氏は壁面裝飾に、此品位がなくてはならないことを實認してゐたし、それが建築上に重要であることは當然である。色彩の斑々たる、そして朧朦たるマッスは眼に到達した最初の繪の形象である。距離、配景、觀者よりの畫布の高さは、凡て是に貢献してゐる。如何なる壁面裝飾も、其れを飾るべき室内と、調子を合すべき色彩の調和、尚特殊なる調子と、色彩の調和が、なくてはならない理由は、裝飾が建築企劃の一部であり、そして其れより、分立することの不可能なる所以である。是に因り其等に對する懸念を、ブランギン氏は感得した畫の大部分に、樣々なる細部の凡てに、立派な模樣として、巧に織り込んでゐる。それは言はずして行ふ如き、容易な仕事ではなく、勿論それが最終に完成せられたのは明白である。

製作は、浪曼的寫實主義の優秀な例證である。ブランギン氏は常に、其言葉の最上の意義に於ける寫實主義者であつた。而して彼は又、浪曼主義者であつた。此の語に就ては、或は齟齬せるやうに考へらるゝも、此れは事實上眞實である。寫實主義者は、事物を、彼等は其處にあると見、浪曼主義者は、それらを、彼等は在るべき筈として見る。ブランギン氏は、彼等は其處に在るとして事物を描寫すると同時に、彼は、彼等は在つてもよいと提起する。彼は實在の蔭に理想を見てゐる。彼は幻影と事實とを連接してゐる。實在と架空（リール　ローマンチック）と

は、屢々同一の楯の單なる兩側である。一個の現實の二つの刻面と、一個の製作に於て、彼等二つを表現することは、最高の表出藝術が、其處に到達することが出來る。ブランギン氏の足は、眞實の地球上に在つて、彼れの凝視は星の上に在る。

壁畫面には、荒廢せる森と、寺院の慘なる破壞趾と、其處に屯する英國兵の一隊が描かれてゐる此處には、戰爭の華奢と情況とはない。それの魔呪と、光輝は表出されてゐない。それらは不信であるが故である。寫實主義は、傷付ける人々、偉大なる砲、砲彈によつて裸になれる樹々、打毀された石工物の其處にある。血に浸された地上から



咲き出してゐる花、廢趾の中央に浮ぶマドンナに其子、それらは現在の生命と、來るべき生命の、二つの世界の希望を象徴してゐる、浪曼主義である。寫實の把握に尚殘されたるものは、浪曼主義であり、それは凡ての後に吾人の知る、生命に就ての誠である。壁畫は其裝飾的價値に、生命の力を加ふべき手段として、砲彈に災害された裸樹を以て、分割せられてゐる英國兵の一分隊は、其に精巧な配列の感情を附與し、亦、至要なる藝術的意志を附與してゐる。其處には此畫の裡の、運動の意義の凝聚がある。そして非常な生命の呼吸、及び凡ての精神、活動の力を靈感せしめる。凡て

の細部は、全然、自然的であり、適應であることは、如斯く免れられぬを以て、寫實主義の幻覺は完全である。併し、其製作せられた技巧は巧妙に隱匿されてゐる。

此構圖に就ては、顯然たる何物もない。大膽に述べたる何物もない。甚だしく突込んだ何物もない。砲、廢趾、兵士の手足、鋤及びブリイビーフの鑓にさへ、凡て象徴の官能のやうに、定限せる裝飾の働を有してゐる。主要な意義は、中央部に見出され、簡にして強い、人體の恰好は、戰爭に就ての醜惡な眞實である。それの稱讃ではなく、禁制裡にある勇士の、其力に餘儀なくした罪の宣告である。此等の人々の過ぎてゆく血に浸された土地からは、數多い花が咲いてゐる。常に再現する生命の象徴であり、恐怖の中心に於ける希望の傳達である。廢趾の中央に殘されて、孤立してゐる柱上には、マリーとキリストチャイルドー—平和の君の彩られた影像がある。是は此諷諭の最後の言葉であり、最上の言葉である。——宗教的要素の凡て——永遠の平和の最後の勝利である。

る。——

埃及のオベリスク

オベリスク（方尖塔）は埃及特有の發明物にして、構造は極めて單純にして、一塊石を建造したるものに過ぎず。此石は高部埃及のシエーヌの石坑より採掘せり。其形は四角形なりとす。細長くして其脚より頂に至るに從ひ益す細くなりて、尖塔の形となる。傳說には、大古の紀念物なりと云へども、奈何なる古きオベリスクも第十八王朝以前には遡らざるべし、即ち紀念前千八百二十二年以前のものとして見る可し。第十八王朝時代には幾多の國王之を建造せり。カムビスは怒て主要なる都府就中テベスに於て幾多のオベリスクを傾倒せり。然れども、ラムセス王の建造せしめたるオベリスクの宏大なるを見て大く感驚し、此のオベリスク危ふからしめたる火災を鎭壓したりと云ふ。



將來の『市加古市』(13)

ウオルター・デイ・ムウディイ著
Z Y 生譯

〔都市〕

第十一章　市加古人と市加古の事物
最大の計畫案の搖籃

一

市加古市――何人が之を描寫する力があるか。多くの者がこれをなさんと試みた――或者は、正しくそれをなさんとする正直なる渴望から。又或者は市をそこなはむとする惡意から。しかも企てし者は何人も凡て失敗してゐる。正直な志からにせよ、然らざるにせよ、相當に市加古市を描寫することの出來た者は一人もない。又この世界第五位の都市を讒謗せんと欲して、成功したる者は一人もないことも確である。市加古市程に人の噂や問題に上りたる市は、世界に都市多しと雖も、この市の右に出るものもなければ、又局外者に理解さるゝことヨリ尠く、親しく知らるることヨリ尠きものはない。故に若しもこの廿世紀の盛に强大なる都市的巨人に就て、何等かの抱括的な描寫

がなさるゝならば、之れは永らく市に居住せし者の中より出づべきであらう。

市加古市程虐待され嘲笑され、愚弄された都市は恐らく米國になからう。こういふ言葉を發する者の動機は、正しく嫉心、偏見、先入見、又正直なペンから動いてゐるのである。

諸都市を論ずるに方つて曾て書かれた歷史のないことの困難、ベェデッカーを編纂したり、商業會議所の諸人物から餘り多くの材料を借り來ることの困難に、どの著者も出遭ふ點である。又一方には多くの記者は、單に都市生活の各方面からの印象を選び記したり、或は都市を造つた處の諸原因、人民、境遇の眞相を傳ふるに、餘りに乏しい畧記法を用ひたりする。

誰が市加古市を總合的に描寫するにしても、必らず(どの都市でも同樣であるが)その描寫の背景を形造らねばならぬ——地域、交通運輸、工業、周圍の天惠的地勢生產、膨脹の可能性、市の形態的發展、住民の性質、分解——等を考究する時に自分は切に境遇、人民、制度を主として注視せんことを望むのである。それ等は市の眞の精神に關係が密であり、市の心臟の鼓動を支ゆるものである。市加古市をして世界の生ける活動せる實在(市の進步、退步一に人民、事物の如何に重大な關係を有てゐるが)たらしむる工業的發展と、天惠の記述に市の敎養、敎育、博愛事業の或物を混じて記述すべきであらう。市加古市の市としての組織的活動と、其背後にある民衆の精神が、其描寫の著しい部分を形ち造つてあらねばならぬ。

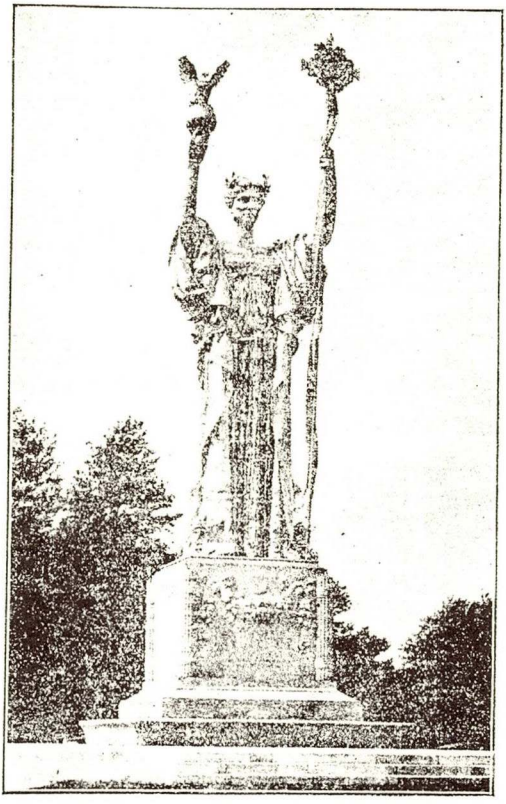
二

數日前千九百十二年の歐洲に渡航した、ダニエル●ハドソン●バールンハムは、彼の書齋からミシガン列樹街とミシガン湖とを調査し乍ら立つてゐた。この大建築家たり組織家たり都市計畫家たる處の彼は、回想的の心情になつてゐた。私がその時の唯一な聽者であつた。我等の頭上におほひかぶさつた可なりな沈默の後に、彼は突然窓際を離れてこちらを向いて言つた。『如何に驚く可き人々の運命を市加古市は有するよ。その勢力の背後にある者としての市加古人に、成就され得ざるも

のはなにものもない』と。而して『都市生活と都市發展に於ける眞の力』と彼が名づけてゐる者の中で、心に浮んげ者の名は速かにあげて、そして、彼等の特質を說いた。而してこの時は別に歷史も書かれてなかつたし、啓示もなかつた。

『驚く可き人々』！。市は驚く可き人々を有する。市は何があるか。何に斯る市は成るであううか。

死んだ後に市に金や蓄財法や又は樣々の價値ある類の歲史的探究の產物を、遺言して市に遺す處の富豪はどの市でも有つてゐる。或少數の者が、已が未だ生きて居る間に左樣いふ事をするのである。だが、市加古の人々は死後に市に奉仕する樣のこともしないし、又生前に慈善的の行爲に出る者は少數の者に限られてゐない。工業、財政、商業の各方面の首長の多數が、その繁劇な生活の間から富を集積して、その富を全市の幸福の爲に、制限なく獻じ、又それよりも無限に貴い時を獻じてゐる。實に眞に高める——敎育音樂、藝術、文學、市制度、博愛事業——處の凡ての列樹路はその市と彼等自らのより大なる家庭と心得、その市に對し己の所有物の如く興味を感ずる處の現在の人、彼等各個人の家庭になす處を己の市になし、美しきもの引着力あるものをもつて嫛ひ充たす人、一言にして言へば「靈魂と精神の善き秩序



市加古市シヤクソン公園内の共和の立像

ある」人の關係することを感ずる。私は信ずる、かゝる貢献をなす人を多く有する點に於て、市加古市は世界のどの市よりも遙に勝つてゐることを。

市加古市の婦人も、亦、都市生活と都市を造り上げる點に於て、誇る可き位置をもつてゐる。そこに、今私は造られつゝある大都市に對し——正確に市加古市に似合ふあるもの——私が摸索しつゝあることを私は言ふ。これは殆ど逆理の如くあるが、文字通りに眞實である。而して、是が市加古市をして、凡ての他の大都市に對して異ならしむる處のものである。それらを旅行者に譬ふれば、彼は到着したのである。若しくは建てられてしまつた永久的な、すねられてしまつた又はその他、何とでも諸君の欲する儘に表現するが好いが、兎に角之れは過去のものである。併し市加古市はこれからである。その市自身の住民にさへ、縱し既に大都市である。印象的な市であるが、不斷に到着しつゝある市てあるとの印象を與へる。

シカゴ市といふ詩、半面的で、半解的であるがあるが——

運命の怕るべき重荷の下に高笑ひつゝ
若者が笑ふ如く笑ひつゝあり。
汗ばめる肌半ば脫ぎその太き肩誇れる
若者の嵐の如くしはがれ聲の笑を笑ひつゝ
——小さき柔弱の諸都市に對して
活き々々と立てる背高き無精者たるべく。

市加古市の婦人等は參政權の獲得を待たずに（該權は千九百十二年に彼等のものとなつた）市の福利のために、大に又進歩的に活動した。市加古市婦人倶樂部は、米國に於ける文明的事業中の最も立派な最も積極的な分派の一である。この顯要な地位にある多くの婦人の嘆美す可き組織から、市の進歩に堅實な感化と畫策と事業との完成を爲し市に貢献せる多くの他の婦人倶樂部、協會等が分派した。

千九百十八年の終に一箇の案が計畫せられた、之れは確に容易に早く成就せらる可き兆候を有てゐる案であつて、婦人の都邑集會所を有し、又一には、最も著名な市加古市民にして、國民中の最

初の婦人、市民の一たる、故エッラ・フラッグ・ユングの爲の紀念を含む、市加古市の婦人倶樂部を設けんとする案である。この建物は絶對に婦人の利益のためにのみ——集會や文化的改善に貢献する凡てのことのために——專用さる可き、米國中に於ての最大の建物たるべきものである。

市加古市民は『米國唯一の婦人專門新聞』(ゼ・ウーメンス・プレッス)——一切の婦人の利益のために發行さるゝ、建設的な尨大な巧みに編輯された新聞を——所有することを誇つてゐる。

廿年前には大陸の旅客等は、市加古市を「一個のホテルの都會(ホテル一個しか有せぬ意)」と呼んだ。それよりもなほ最近のことであるが、東洋から來た旅客は、「一箇の街路の都會」と稱した。更に或る興味深き諸點の巧な著者は、合衆國全體を概論するにあたり、市加古市の項に至つては、同市に費す可き章を全然市の有名な市參事會員の一人を論ずるに費してしまつた。時には或人が市加古市に來り而して去つて、市に就て劇的に眞實に、その書く題目が正當に受くるに足るがけに書く記者もある。稀には市も——國民の鎔解爐等——ストック・ヤードやその住民の風つぽいといふ樣なこと以上の筆緻をもつて書かれることもある。

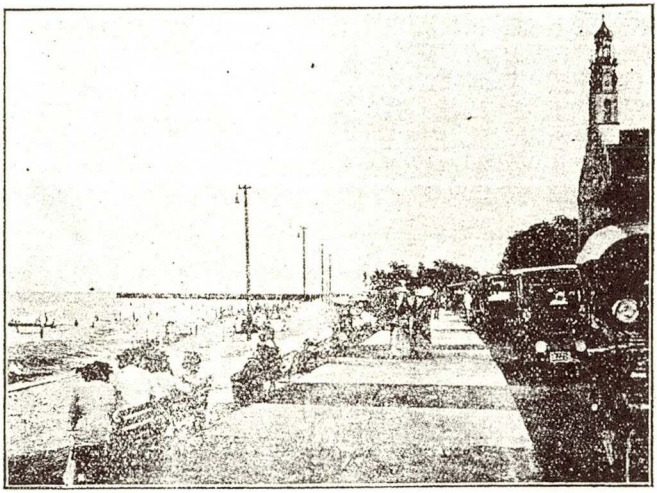
諸都市を記述するには、商業會議所の統計から夥しく引用したり、その市が所有してゐる世界を指導するに足りる物を、數へたてることが記述方法の標準となつてゐる。どの市でも、大概何物かで世界を指導することは出來る具合になつてゐる。若しそれが無い樣な都市であるならば、その市はやくざな市で商業會議所の如きも所有してゐないに相違ない。何人かロンドン・ベルリン・パリー・ニューヨルクを、彼等の尊敬する商業會議所の言辭でもつて考へんと欲す者があらうか。而も市加古市を考ふるに何故にかくも地方的な風に取扱ふのであるか。千九百十六年に市加古市の製造工場の數一萬と數へられた單なる事實、其製產額廿億に上り、卅萬人の賃金勞働者に仕事を供給しその支拂へる賃金二百萬弗と——商業會議所では話すのである。

汽船烟突、貨車、運搬裝置、產業交通の戰略的

地理上の位置などが、巨大なる都市を造ることは何人も承知してゐる。而してこれ等が市加古市の偉人を形成する無二のチャムピオンたることも知てゐる。家畜、セメント、穀物に於て世界第一の都市として、世界五大都市の一にかぞへらるゝことが、一体どれ程な價値を我市に加ふるか、かゝる統計は既に自明な事實である。

確にそれ等は重要ではある併し何故に穀物や麥粉に於て市加古市が第一流であることにしかく注目し詳述するか、市の世界最大の鐵、鋼鐵、機械倉庫は興味はある。その比類なき六十二哩の地下電氣運輸鐵道も重要なものである。その宏大な鐵製作工場も意義がある。

市加古市が税を支配ふ可き輸入品は、千九百十五年には一千七百廿三萬七千三百十六弗に上り、この納税價額六百八萬四千百五十二弗であつた。



市加古市ヤクソン公園内の「マアメリカのオスデンド」

又同港より直接に輸出せる商品の價格、同年に三百六十九萬五千七百五十五弗に上つてゐる。市加古市は卅三萬五千三百五十箇の建物を有し、三萬八千四百六ヶ所の商館、一萬百十四人の製造人、其雇人四十五萬二千二百二人、而して彼等に年々三億三百六十三萬弗を支拂つてゐる。これ等は實に力強き事實でないか。併し乍ら、勿論それ等は悉く重要のものには相違ないが、運輸組織が秀れて容易になれば自然に生じてくることがあつて、又その秀れて容易なる運輸組織は天與の地理的位置の結果に外ならぬ。恰も人がパンのみにて生くる能はぬ如く、市の

眞の偉大の尺度を告るものは、その精神生活でなくてはならぬ。

市加古市の心臓の鼓動の度を決定する量器として、遙に無限に妥當なるものは、市の物質上の祝福よりも、市が米大陸の主要なる會議的の都市たることにある。大都市に於ける住民をして生くるに價値ありと感ぜしむる處の心からの歡待心、氣候、事物は、市加古市の磁石であつて、幾萬といふ米人を（年々增加す）年毎に市加古（彼等の好む會議市たる）に巡禮せしむる原因になつてゐる。

市加古市はニユー・ヨルクの魔力をもつてゐない。盲目にせられた人間はロンドンに行つて、已の小さなことを感じ、本能的に是が世界の大都市であると感じ入つてしまふ。パリーは周圍の美、藝術、歷史、傳說をもつて旅客を魅してしまふ。ベルリンはその堅牢にして重壓的な狀態によつて人を恐れさせてしまふ。市加古市は、それ等のものを、言ひ現し難き著しい程度に於て所有し、且つ他の都市の所有してゐないもの——友情、好誼、親切の心を所有してゐる。

人々はニニー・ヨルクを訪ふて二週間滯れば、早や倦怠してしまつて已の市が戀しくなる。旅客はロンドンの古代的穿鑿的なコスモポリタン的の魔力に、宴會で跳る樣な心持になるが、長くはそこに滯留しない。漫遊者は快活な愛らしい放逸な巴里に囚になるが、そこに住まふとはしない。旅人はベルリンの活力溢れ壯大な樣を驚き嘆美するが、矢張り去つてしまふ。民衆は市加古市に到達し大都市の供給する利便の一切を發見し、而して又右の大都市よりも遙に大なる價値——人間的の興味を發見し、市民の家族の一となりて永久に居住し自ら滿足せる繁榮の中に生活する。

市加古市の最も嫌ふものは、手盛りの世襲主義である。市加古市はこの世襲主義の欠點を多く有し、却々勢力がある。市加古市の憤る處のものは有名なる筆者の陳述の中に表現せられてゐる。

陽氣でしつかりしてゐて、而も西部は批評に對して甚しく敏感である。嘆美心を欠いで居て、而して東部の訪問者は、其効果、溢るゝばかしの精力、そのデモクラシーの解釋に

例外なく印象せられ、その事物の精神に熱心なる興味を有すべきものと期待してゐる。就中その他の事で不合理に見ゆることを好まない

これ以上生硬なヒイキ的なものは地に見當らぬ西郡の人民といへば皆一樣であつて、地理的にその中から差別を設けることは出來ぬ。

千九百六年オクラハマ市――當時八千の人口の都で、廿年前には地圖に一點を打つた位の位置を占むるに過ぎぬ市であつたが――の有名なる牧師が私に（それは日曜日の禮拜の終で、私は丁度彼の敎會の禮拜に出席してゐた）前の日曜日に廿一名に目分の敎會員たる許可を與へたが、その廿一名は十八箇の異つた州から來た處の者であつたと語つた。確に西部の精神は合衆國の精神であつて孤立せる部分の精神でない。

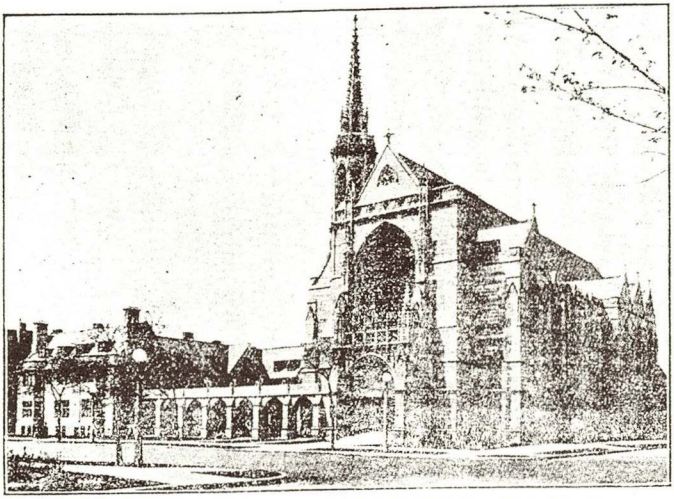
西部の人民が「批評」と「嘆美」に對して敏感ではあるが、それと同時に甚しく繁忙がある――東部の人民の種々の批評に多く關係したり笑つたりする遊戲時間を有すべく餘に多忙である。多忙な都市は多忙な人の如く、攻勢的の熱情をもつて、批評を一蹴し去り、自らの業務に努力を集中してしまふ。何故に西部の人民が、その批評を罵言したり嘲笑せねばならぬかは局外者――怠惰な誤れるバリサイ的の多忙な團體なる――によつて答へらる可き問題である。健全な精神の所有者は、それを罵つたり笑つたりする勢はもつて居らぬ。そんなものを笑つたりする者は無考、不注意、立腹、嫉妬、主我主義の仲間である。

市加古市は西部である。それを神に感謝する。市加古市は、敏感、嘲笑、罵言、批評、そんなものと關係しない樣に建てられてゐる。市加古市はデモクラシイの解釋をもつて居らぬ。何故なれば眞正のデモクラシイは「正規の民衆」の意志と精神との表現であるから、市加古市民は「正規の民衆」である。

市加古市自らの子等（市民）の中の一人が、其市加古市に關する著書中に於て――それは恰も周圍は孫等に取圍まれ薄荷の馨香を滲出させつゝ坐り心地のよき搖椅子に坐つてゐる祖母に似てゐる――善き昔の時代過ぎ去れるを嘆き、ではあるが

市加古市の奮然たる勇氣が、今も尚ほ市の建設者——ピリグリム。ファーザースの收獲たる——によつて制御せられ居る事實、又「新英州の良心」が七十五ケ國語を語る殆ど三百萬人の連命を支配する酵母的要素たる事實を賞讃してぬる。亞米利加の如き國を造るには、我等が記憶せる事物から受ける援助と同程度に、それを忘却することから多くの援助を受けらる可きではないか。我國とその中の様々の要素の關係を一卷の織物と多くの織布者、若しくは多くの材料から造られた一箇の驚く可き首尾整へる模型と考ふるが便利にして正當に且つ賢こくはないか。

英國の父を有し佛國の母を有するとも、それ等は凡て市加古市をして都市としての榮光な向上の途にゆくを助くる者のである。私は眞實の米國化を眞正に表現せる者としての——市加古市は今日既に全世界の嘆美であるがその市民の五分の三はいづれも外國生れか又は直接に外國の血統を引けるものであつて全世界の殆ど凡ての國民性を包含してゐる——壯麗なる市加古市を考ふることを好む。



市加古市第四長老基督教會新シキガン。(アベニユにあり)

市加古市は立派に基礎をおかれてゐる。而して我等は「新英州の良心」に對して負ふ處多く、又常に感謝す可きものをもつてゐる。併し乍ら今日市加古市をして大都市たらしめ、而して大都市としての面目を持續せしめ、銀河の如く彩しき大都市、コスモポリタン諸都市中に於て現在の壯大なる位置を得せしめし處の人々は、露國人スラブ人伊太利人スウエ

デン人希臘人アルメニヤ人セルビヤ人ルウマニヤ人アウストリヤ人獨逸人ボーランド人新英州人アイルランド人その他多くの各世界の人種、凡ての善き人民凡ての米國人その他凡ての都市凡ての國より來りし者等である。

アルノルド・ベンネットは千九百十八年七月市加古市の新聞に發表した一文に於て（時は獨軍に對し眞の佛米聯合軍が最初の勝利を得獨軍がマルヌを渡つて退却しつゝあつた時）以下の如く言つてゐる。

世界國際聯盟のみが今後新なる戰爭の起るを防止し、文明の破壞を避けしめ得る。今はかゝる聯盟が眞に武裝を整へ支配し得る充實せる眞の力をもつてゐるか、或は現戰爭よりも更に更に幾千倍の慘害をたくましくする他の戰爭が起るかいづれかである。此の如き聯盟が成立し得るか、或は我等の知れる現在の文明が死滅し、人類の殘の者が、過去の大洪水の後に彼等がなした如きことを再び繰返して文明を創めるか、いづれかである。

世界各國民の前に揭げられた同じ意見は、亦同樣に合衆國の前にも揭げ得らるゝのである。我國民的性格を保存して、我市民を完全に統一させようとすれば、現在我市民を形成する各要素の眞の價値を認識せねばならぬ樣になる。外國人の歸化——現在米國は外人三千萬人、卅七ヶ國民、七十五箇の言語を含有してゐる——は、その各部分を合理的な國民的プログラムに編み得るかどうかといふ點に關係してゐる。

枝の葉にやどり輝く夏の
日のひかりかなしきこの
朝かな。



「住宅」

住心地良き居室（下）

醫學士　竹山八朗

（五）

『寒さ暑さも彼岸迄』と云ふ俚諺の如く春分、秋分を大體の寒暑の分岐點として日光の採遮をなすべきである。今京阪神三箇所の測候所及東京天文臺の十五年乃至三十箇年間の毎日の氣温の最高及び最低の温度及び降水日數及び降水量を引用すれば

平均氣温（攝氏）

竹山醫學士は、大學院にあつて醫化學の研究者であり。又兼ねて住宅研究の篤志家である。曩に住宅研究に就て『大阪朝日新聞』及『婦人の友』誌上に『竹朗生』として發表されて居るが、本編は特に氏に囑して厚意の結果寄稿された次第である。（敬淵生再記）

氣温毎日の最高の平均

	統計に用ゐたる年數	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	二、七	三、〇	六、四	一二、三	一六、五	二一、〇	二五、〇	二六、一	二三、一	一五、八	九、六	四、五	一三、七
大阪	一〇	四、三	四、二	七、六	一三、三	一七、九	二一、八	二五、一	二六、一	二三、三	一七、〇	一一、四	六、四	一五、〇
神戸	一五	四、八	四、五	七、七	一三、三	一七、三	二一、三	二五、一	二六、五	二三、〇	一七、四	一二、九	六、九	一五、〇
東京	三〇	三、〇	三、七	七、〇	一二、六	一六、五	二〇、五	二三、九	二五、四	二一、八	一五、九	一〇、四	五、三	一三、八

氣温毎日の最高の平均

	前同	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	八、八	九、三	一三、〇	一八、九	二三、一	二六、五	三〇、四	三一、一	二七、九	二一、三	一六、九	一一、二	二、〇〇
大阪	三〇	八、七	八、八	一三、四	一八、四	二三、六	二六、三	三〇、一	三一、〇	二八、〇	二二、二	一六、七	一一、三	一九、八
神戸	一五	九、一	九、一	一三、四	一八、三	二三、四	二五、八	二九、六	三一、六	二六、六	二一、九	一六、四	一一、四	一九、五
東京	三〇	八、二	八、八	一一、九	一七、四	二一、二	二四、六	二七、九	二八、七	二五、七	二〇、四	一五、六	一〇、九	一八、五

氣温毎日の最低平均

	右全	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	(一)二、四	(一)二、三	〇、五	五、六	一〇、〇	一五、八	一九、四	二一、三	一七、四	一一、四	五、七	(一)一、一	八、二
大阪	三〇	(一)二、四	〇、一	三、〇	八、三	一三、六	一八、九	二三、三	二三、二	一九、四	一三、四	六、六	二、一	一〇、七
神戸	一五	一、〇	〇、五	三、二	八、六	一三、八	一八、六	二一、七	二二、八	一九、五	一三、六	七、九	三、一	一一、〇
東京	三〇	(一)一、二	(一)〇、七	二、四	八、一	一二、一	一七、一	二〇、七	二二、〇	一八、〇	一二、二	六、〇	〇、六	九、八

平均濕度

	右全	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	七八	七五	七四	七三	七三	七七	七六	七七	八〇	八一	七九	七七	七七
大阪	三〇	七三	七一	七一	七三	七三	七八	七七	七五	七四	七七	七二	七三	七四
神戸	一五	六九	六六	六八	六九	七〇	七一	七八	七四	七三	六九	六八	七一	七一
東京	三〇	六四	六二	六八	七四	七六	八二	八三	八二	八三	七四	六六	七四	七四

降水日數

	右全	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	一二、九	一三、四	一五、六	一四、二	一三、七	一五、四	一五、〇	一二、三	一五、五	一〇、九	一二、一	一二、二	一六一、二
大阪	三〇	九、一一	九、五	一三、四	一三、七	一三、八	一四、六	一三、一	一〇、四	一四、一	一〇、五	九、五	八、七	一三八、七
神戸	一五	一〇、三	九、七	一四、三	一四、四	一二、一	一五、九	一一、五	一〇、四	一三、六	一〇、八	九、二	八、二	一四〇、三
東京	三〇	七、四	七、六	一三、五	一四、五	一三、六	一七、七	一五、一	一三、六	一八、八	一四、〇	九、四	六、四	一四六、五

降水量

	右全	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
京都	三〇	六四	六一	一一四	一六三	一五一	一三一	二〇八	一五七	二〇二	一五一	七六	五六	一六一〇
大阪	七〇	五〇	五六	一〇四	一五〇	一三一	一九一	一五四	一一〇	一八〇	一一七	七三	四七	一三七三
神戸	一五	五三	五一	九三	一三一	一二四	二二五	一五〇	一四〇	一六六	一六	五六	四六	一三六〇
東京	三〇	五八	六二	一一〇	一三四	一五六	一六三	一三九	一六五	二二二	一八三	九七	五三	一五四一

倘同暦には各地の氣候を可なり詳細に記載しある故、就て檢ぶれば、より以上の理解を得る事である。

又明治四十三年頃の天文月報に記載せられたる平山信博士の四季を論せられたる中に、引用しある各地測候所の報告によりて作られたる平均氣温の曲線も（第四圖參照）内地に於ては、夏至以後秋分迄が最も高氣温になつて居る、勿論吾人の暑さとして感ずるは氣温の外に温度を考へなければならない。之は我國一般には梅雨時分最も比濕の高いのである。

而して先年京都醫學會の特別講演として京都帝國大學文學部の原敎授が『氣候と文明』の題下にてエール大學の助敎授エルスワルス、ハンチングトン氏の『文明及氣候』と云ふ著書につき紹介及論評せられた一節を引用する事も興味ある事である。

『氣候なるものを分析して先づ温度及び濕度の二要素となし、活力旺盛なる季節に於ける温度及濕度と云ふは分量的にどんなものであるか、反言すれば如何なる温度及濕度が身神の旺盛なる活動に最もよく適するかを見んとした。而し此研究の結果精神的活動の爲めには華氏三十八度（攝氏約三・三度）以上なるを要し、肉體的活動の爲めには六十度（攝氏約十五度半）多くとも六十五度（攝氏十八度三）以下なる事を要するからして、平均温度の華氏五十度（攝氏十度）前後の所が身神の活動に適する理想的の温度だといふ事に歸着した、次に濕度の方は獨立に影響せずに、常に温度と關聯して働くものであるが、平均華氏五十度（攝氏十度）位即ち季節で云へば春秋の頃であるとすると、百分の七十五位の比濕が最も好適であると云ふ事に結論して居る、ハンチングトン氏は又一歩を進めて理想的の氣候と云ふのは、靜止して活動せぬ人に適する氣候を指して云ふのではない、活動する人に適するのを必須の條件とするのである。である以上は單調な氣候は理想的のものとは云へない、平均華氏の五十度が假りに身神の活動に最も好都合な刺激を與へる温度にあるにしても、一年を通じて此五十度が繼續しては不斷の刺激の爲め

に却つて活動が鈍る、これ即ちカリフオルニアの氣候の理想的でない所以である』

云々とある。勿論是は大氣の氣候の文明に對する觀察で、各人の居室に於ける最好適の温度ではなく少しく疑點もある樣である。其最好適の温度としては人種、習慣の異同や各人の體質及其狀況等の相違によつて例へば『エスキモー』人種と南洋土人とは同じ温度にても異つて感じ、又同一人にても滿腹時と空腹時とは同じ寒さにても感じの異なるは、日常經驗する事にて各人に好適の氣候は多少相違するも諸學者の實驗的に定められし室内の温度は

(一) 獨逸の學者により實驗せられたる好適の温度は安靜時

居室、仕事室、役所、學校等……華氏六十四度—六十八度(攝氏約十八度—二十度)
講堂、集會場等 華氏六十一度—六十四度(全 約十六度—十八度)
寢室 ……華氏五十四度—五十九度(全 約十二度—十五度)
病室 ……華氏七十二度 (全 約二十二度)
浴室 ……華氏六十八度—七十二度(全 二十度—二十二度)
勞働時 體操場其他重業に從事せる場合……華氏五十度—五十九度(攝氏十度—十五度)
輕業に從事せる場合……華氏六十一度—六十四度(全 十六度—十八度)
外出服裝着用の場合例へば停車場寺院等……華氏五十度—五十九度(全 十度—十五度)

二 米國の學者により測定せられたる好適の温度

住宅 ……華氏七十度(攝氏二十一度)
講堂集會場等……華氏六十八度—七十二度(攝氏二十度—二十二度)
學校 ……華氏七十度(攝氏二十一度)
病院 ……華氏七十二度—七十九度(攝氏廿二度—廿三度半)
浴室 ……華氏八十度(攝氏二十六度半)
工場 ……華氏五十度—六十五度(攝氏十度—十八度)

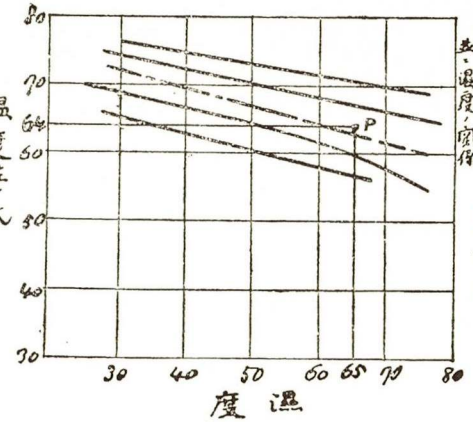
而して猶居室内の適當なる温度並に濕度としてヒル及シエファー兩氏の實驗による輕裝、安靜、無風時に於ける快感帶と温度並に濕度との關係は第五圖の圖の通りである。

即ちP點は華氏六十四度(攝氏十八度 及比濕六十五%の快感點を示し、又之に沿ふ中間の一帶を以て快感帶とする。

此等により前表の京阪神及東京の氣候を觀れば大體に於て暑さ寒さは彼岸迄と云ふ事が出來、又之によつて氣候及び室温と云ふものゝ概念を得らるゝ事と思ふ。

（六）

然らば如何にして冬期に日光がなるべく室内又は屋壁を直射又は反射する様にし且夏期は直射及反射を第防ぐべきやと云ふに、五是は各其場合によりて圖一様には論じ難きも、大體に於て居室は南向きにし、秋分後春分迄では直射日光を遮る如き障碍物を避け、出來得れば東西壁の南方には適當の高さ及大さの窓を設けて之に板戸之び硝子、障子及引幕を附し、東南及西南より北方に落葉樹又は



成長よき宿根草例ば芭蕉の如きを植ゑ、其南方軒先には藤、葡萄、へちま等の棚を造り、若しくは街路樹（鈴掛樹、橡、楡、菩提樹等）の如き適當のものを配置し猶反射日光を避くる爲め南の椽先迄芝草を植ゑれば一層理想的であらう。而して其等の配置鹽梅は其狀況に應じ前記の表を斟酌して概算を得ることが出來る。

以上は郊外等の日光を遮る障碍物のなき場合なるも、軒屋櫛比の市街や一定地域内に多くの家屋を建設せんとするが如き場合には、其隣家屋の傾斜や距離を考慮して、夏期には直射日光の反射を防遮せざるべからざるは勿論である。是は建築のみならず、温室の設計等直射日光の採光及遮斷には總ての場合に應用せらるゝのである。

（此稿を書き居る内に京都醫學雜誌に富永醫學士の『建築物の内外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就て』と云へる論文又此誌二月號上に葛野工學士の住宅研究中に、類似の點を見出すも、重複は讀者の取捨に任せ此稿を改むることなく掲ぐる事とする）



「講壇」

煉瓦屋より觀たる米國の建築材料 (C)

大阪窯業會社支配人 工學士 谷口德政 講

床用には殆んど 4″×12″ 6×12″ のもの多し二十呎張間迄は四吋以上は六吋を使用し居る樣なり故に先づ一通りの標準はある譯であります。

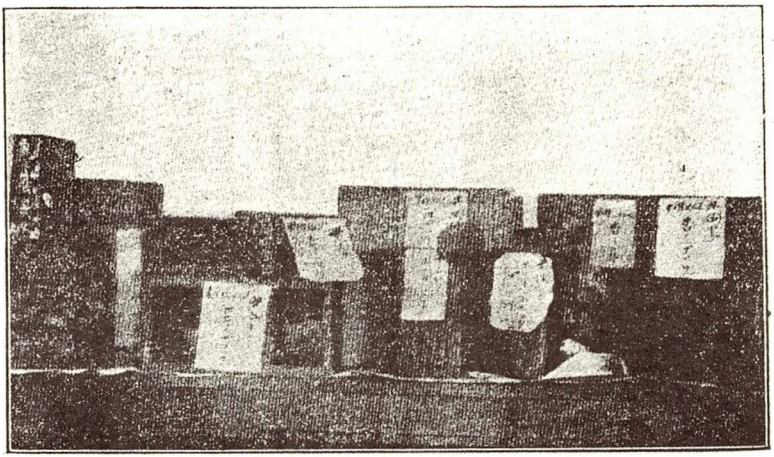
扱て目方について檢べて見まするとコンモンブリックの五割五分から六割五分位でありますから則ち四十%から四十五%迄の目方となるのであります。

4″×8″×12″ にては十六所ですからコンモンのものと比較すると丁度六割となります、そして價格は上等の煉瓦と同價位ですから幾分得用な譯であります。

4″× 8″×12″ (約五丁掛) 十六錢 2.8
4″×12″×12″ (八丁掛) 十九錢 2.375
9″×12″×12″ (十二丁掛) 廿六錢 2.110 } 丁數による
8″×12″×12″ (十六丁掛) 廿三錢 2.06
10″×12″×12″ (二十丁掛) 四十錢 2.0

右の表で見ると大きくなる程安價となる譯でこれは米人のエライ處であると思います。こうなる

米國より持還れる煉瓦見本



と普通煉瓦と同價ですが、私共の燒いたものは約二割丈高いのであります。

強度については殆んど問題とならぬ樣であります。床や間仕切壁に使用せるも床の如きは詰物ですから力には關係せぬのでありますダン〳〵住宅などに使用する樣になりませう。殊に日本では温氣多ければ此有孔煉瓦がよい樣であります

三階位迄は使用出來るかと思ひます。

今私の實驗しました試驗によれば

竪に　二〇五〇斤（一平方吋）

平に　一三七〇斤（同）

横に　八六七斤（同）

竪が一番強いのであり、八六七〇と申せば煉瓦と大差ないので御安心でありませう。

床に御利用下さることは是非御願いたしたいと思ひます。

扱て敷瓦「ベービングブリック」は成績却々よろしく、よく燒けてゐるので車道に使用して居ります、波止場などは花崗石の「ブロック」型を用ひて居りますが、此度私等が試に煉瓦に造つて見ましたので御使用を願いたいと思ひます。大阪神戸名古屋横濱、各市役所で御試驗を願ひました。石炭も高い時ですけれども造つて見た次第でありますが、木煉瓦よりはよからんと思つて居ります

此の外「キルクブリック」なるものがあります

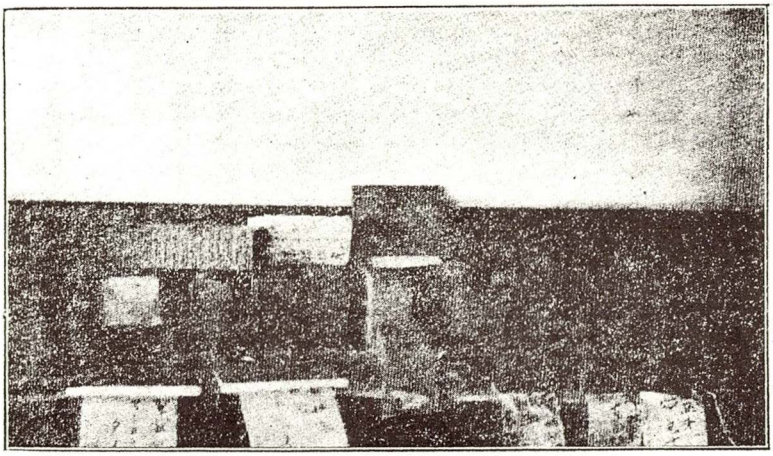
石膏の輕量を使用せるもので水に浮き保温の目的に使用して居ります。

「テラコタ」は中空にて藥掛の製品でありまして大きなものに在りては約一噸からのものでありまして極めて高尚である、非常に高級なものは營利的には不可なり、何となれば職工の熟練を要するが爲でありまして、大抵失敗の歷史を有して居ります。二十年五十年の失敗史を有するを見ても解ります。職工も月給制度で月四百圓位を給する有樣です、到底吾々の手に合はぬ次第であります。日本窯業會社も「テラコタ」の製作に失敗したのであると思ひます。

價格は一噸約百五十弗（三〇立方尺）一切五弗となりますから日本價にては十圓ですから石と大差なき次第であります。

壁用「タイル」や「モザイク」等は其製法全く正確でありまして。工場内で却々嚴格に寸法を檢べて居ります。從つて女工の如きも六七十弗を給して居る次第で、斯樣のものは外人とはいへ正確なるは驚くの外ない樣です。

米國より持ち還れる煉瓦見本



「モザイク」の製作は一々型によつて四十八枚宛製作して居りますが其寸法の正確で角の見事なることは浦山しいのであります、これは「モールド」（型）の網がよいからでありまして日本のものは到底此種の網を用ひて居

りませんから比較にならないのであります。これは煉瓦屋より鑄物屋の方が進歩せぬ爲であります殊にその「モサイク」は薄き故「ベンチング」で樂に切れる故都合がよい樣ですが日本では「タガネ」にて切りますが仕事はうまく行きません。

屋根瓦については、案外にも使用せる所少なかりしは自分の見聞の少ない爲でもありませうが、市街地は陸屋根多き故不用な爲でせう。住宅にありては木のソギ板を使用してペンキ塗となつて居り瓦もある事はあれども高價であります。蓋し瓦の製作は勞力高い故米國には適しないのであります。現在瓦の會社は皆買收せられて專賣會社となつて居ます、百平方呎につき二十弗から二十五弗位でありますから屋根坪にして見ると十五圓から十八圓位となります、從つて富豪の家か寺院位にしか使用するに過ぎません。

荷造運搬の方法も至極叮嚀であり、荷物に積む際は一々切藁を入れ、「エナメル」の如きは一枚一枚宛箱に收める風であります、

又「コンモンブリック」の運搬も馬車で二千箇、自動車で三千枚位を積む、ガソリン油は一ガロン二十二錢から三十錢位なる故一寸計算して見ると千箇につき五十錢位に當り一日四圓で一萬二千箇を運送して居ります。我國にては半哩位の地點へ千枚につき三圓位の費用を要します。これは寔に苦痛とする處であります。自動車の如きも使用せられず、市街地では全く駄目であります。

以上を要するに煉瓦屋としての將來は新しい材料によつて開拓し得られる次第で大いに安心して可なりなのであります。賃金の如きも從來とかく掛引をやりまして徒らに御注文先の感情を害した傾向がありましたことは、寔によくない事であると悟りました。掛引には裏の裏があり複雜となつて仕事はうまく行きません。米國式に何處迄も正當な價格を迅速に報告するの必要があります。市內に四十四ヶ所も販賣所があつて皆一定の「ブライズリスト」で電話係が販賣係をやつて居るのを見ると頗る單純な商賣振であります。吾々も今後は此單純な方式により技術家諸君と吾々共と肝膽相照して双方に便利なる樣仕事を致したいと思ひます。（了）



〔資料〕

英國住居法（四―畢）

大阪市都市計畫部囑託　石原憲治

第九章　地方官憲は直に何を爲すべきか（二）

三、位置の撰定及び土地の收得

撰定されたる土地が適當なるか否かを注意して調査しなければならぬ。其の他の事柄の中で注意すべき事は土壤及び土壤（サブソイル）の性質、土地の一般の狀勢排水及び下水工事が容易に設備されるや否や、良き上水が得らるゝや否や、及び更に出來れば瓦斯又は電氣は如何、又土地が工場、商店及び學校に近くして便宜なりや否や等の事項である。

土地は一般の慣習に從つて合意によつて收得される。價格は勿論正當でなければならぬ。監督國內收入評價人は價格の決定に當つて能ふ限り助力を地方官憲に與へなければならぬ。而して保健大臣は土地の購入を裁可する前に是等の評價人を相談するために用ふ。若し地方官憲が希望するならば評價人は彼等の爲めに土地所有者との交涉に當ることになつてゐる。

若しも住居の爲めに是非共必要であると考へられ

る土地が合意によつて得ることが出來ない場合は强制的に之を收得する權力がある。即ち地方官憲は保健大臣の確證によつて土地の强制購入を規定せる命令を發することが出來る。

遲滯を避ける爲めに住居法は强制的に購入さるべき土地を地方官憲が一先づ初めに所有することが出來る樣になつてゐる。是は命令が確證され且つ執行の告示が發せられたならば直に行ふ事が出來る。但し十四日以前に土地の所有者と住人とに對して通知を與へて置かねばならぬ。

同樣に土地が合意に依つて得られる場合、其の土地の一年間又は數年間の借地人の利害が土地所有者の利害よりも大なる時は十四日間の通知によつて土地立入の權利が得られる。

住居法によつて又地方官憲は勞働階級住居又は他の階級の住居、又は工場或は商業建築、又は建築地としての發達に附隨する目的の爲めに、建築する他の團體又は人々に土地を賣り又は貸すことが出來る。此の權力は地方官憲が例へば土地全体を買收することに依つて、遙に容易に收得することが出來る場合、彼等の住居計畫に要するよりも大なる土地を購入した時特に有效である。

四、家屋の良き配置の必要

周圍の快適は相當の數の家屋建築の計畫であるならば、土地を良く設計すれば得られる。設計は出來る丈け自然の美觀を保存しなければならぬ。一般に市域内では一「エーカー」に付十二家屋以上又は市域外では八家屋を越えてはならぬ。斯くの如くすれば各家屋に獨立した庭園を設けることが出來る。

土地が廣い時は禮拜の場所、社交的建築、商店及び計畫によつて規定されたものよりも大なる家屋の敷地を定める必要がある。空地の準備及び賃貸地をも考へなければならぬ。或場合には建築に適しない土地を之等の目的に用ゐる。

賢明なる道路の設計、及び凡そ確定せる交通の性質に對して、必要以上に廣く且つ贅澤なる道路を作らなければ、多くの節約をすることが出來る。

五、家屋の間取

保健大臣は模範的の設計を作り已に述べたる家屋

便覽に印刷してゐる。併し其の便覽にも述べてある如く模範設計は單に一般的の指導又は案内として發行されたのみであつて、是れらの設計に盲目的に從ふことを希望してゐるのではない。意匠の單調を避け、地方的の趣味と慣習とを考へねばならぬ。

一般に保健大臣は三つ以上の寢室を有つた獨立せる二階家屋を採用することを歡迎する。或る家族達は三寢室を要しないことは明白である。併し一般に二寢室しか有たない家屋は已に充分の數がある。併し尙或る地域では相當の數の二寢室家屋を設ける必要がある。

多くの計畫には客間及び一つの浴室を設けなければならぬ。

家屋の間取例へば太陽の光線が居間に射入し、食料室に射入しない樣に其方向を考へることが是非共必要である。

地方官憲は適當の資格ある主婦の協力と相談を加へなければならぬ。殊に家屋内部の配列に關しては彼等に相談しなければならぬ。

如何にして家屋の配列を經濟的ならしむるかに付て有力なる暗示が勞働階級家屋の供給に關して建築構造の問題を考究する爲めに任命された委員の報告によつて示されてゐる。此の報告は議會報告(cd.9191)として發行され文房局に於て一志にて得られる。

六、入札に對する特殊の取扱

家屋建築に對して競爭入札の方法を採用することは一般に望ましい。價格の不確實によつて生ずる入札の困難を除く爲めに入札者は材料及び勞力に對して一定の率に依らねばならぬ規定となつてゐる。若しも之れらの率が後に變更されるならば從つて入札の價格も變化する。斯くの如くにして建築する者の入札者に對する躊躇が除かれる。

七、材料の供給の保證

戰爭と其の結果によつて煉瓦、石板、瓦、木材及び他の材建築材料の不足が生じた。已に是等の困難に打勝つべき手段が施されてゐる。夫故今や材料の不足によつて建築が制限されることを恐れる理由は全くなくなつてゐる。故に地方官憲及共益組

合は材料不足を恐れて家屋の建築を延引する理由を有たない。

建築材料の供給は夫れが政府によつて行はれる間は建築材料供給指揮官(「ロンドン・サウス・ウエスト・一トシル」街「カクストン」館、軍需大臣)を通じて行はれる。故に材料の要求は彼にするのである。政府を通じて建築材料購入の便宜が地方官憲に與へられると同樣に、材料を直に勞働階級の家屋建築及び改善の目的に用ゐる樣と企つ(保健大臣によつて命令された條件に從つて)人々にも與へられる。

入札人を呼ぶ前に地方官憲は建築材料供給指揮官から材料の供給される價格を確めねばならぬ。

竈、汽罐、銅器及び衞生器具等に關しては保健大臣によつて任命された委員が標準と考へられる見本を數種取揃へて置く。此の標準は正當なる要求に應ずる樣に充分なる變化を與へ且つ生產が經濟的で迅速に出來なければならぬ。併し之れと同樣に經濟的であれば他の商品と雖も排斥しない。

八、家屋を誰に貸すか

家屋が建てられたならば新らしい問題が生ずる。家屋の願者の不足を憂ふる必要はない。地方官憲は借家人の撰擇を愼重審議しなければならぬ。

住居法は勞働階級にのみ家屋の建築を認可する。「勞働階級」の文字は定義されて居ない。此の文字を適當に解釋するのは地方官憲に屬す。是れは手工勞働者のみに限定されて居ない。

地方官憲が或る採擇を與へるのが正當であると見らるゝ人々に二つの階級がある。勿論其の特殊の人々は善良なる借家人でなければならぬが、(甲)權力を有つて勤める人、(乙)大家族の人々の二つである。地方官憲は之等の階級の人々の特殊の要求を顧慮しなければならぬ。

九、家賃は如何程に定むべきか

現在の價格を考ふる時は勞働階級の家屋は出費に對して充分の報酬を得らるゝ家賃で建築して貸すことは一般に不可能である。政府によつて財政上の補助が與へられるのは此の理由によるのである地方官憲は彼等の供給したる家屋の家賃を定めるに當つて一九二七年に於ける建物の豫想價格に對

する經濟的家賃となる樣な家賃を標準としなければならぬ。而して實際上の原則として此の豫想價格は現今の價の三分の二に算定されなければならぬと示されてある。

此等の法則に從つて直に家賃を得るとは常に必ずしも出來ないかも知れない。初めの家賃は無理でない限り定められたる標準に近つかねばならぬ。又必要の場合には時の經過に從つて家賃を漸次に增加する。斯かる場合には初めに方つて借家人に態度を明かにして置くことを望む。

地方官憲は地方に於て個人所有の殆んど合樣の家屋に對して如何程拂はれてあるか、又當時現在する家屋が家賃及び擔保利息增加(戰時制限)法の運用に從ふことを記臆して置かねばならぬ。若しも地方官憲によつて供給された家屋が最上の設備及び快適を有つておるならば高い家賃は正當である保健大臣は計畫を最後に裁可する前に地方官憲の課せんとする家賃の報告を徵する事を要す。大臣は地方官憲が正當と考へられる丈の充分なる家賃を課してゐないと認めた場合は何時にても財政上の補助を減ずる權力を有す。

一〇、住　居

保健大臣は國內に住居委員を任命して政府の住居政策の實行を助けしむ。市區(メトロポリタンディストリクト)域に對しては住居局が任命されておる。委員の名簿は此冊子の終りに示してある。

住居委員及び其の部下は總て勞働階級の爲めに家屋を建てる者に援助を與へる。而して彼等は自由に相談を受ける。

住居の大問題を徹底的に解決するためには保健大臣と地方官憲との完全なる協力が絕對的に必要である。保健大臣は住居委員及其他に依つて出來る丈けの援助を與へることを切望する。

大なる事業が地方官憲に委任されておる。而して是れは彼等の能力に對する、嚴肅なる試である。併し乍ら同時に是れは一世紀の機會である。彼等は計畫に於て又建設に於て、戰場で立派に彼等の義務を果したる人々に應はしき數千の家屋を供給する機會を有つておる。地方官憲は兩手を以て彼等の機會を捕へ、彼等の建築計畫を迅速に處理し

且つ未來の國民に對して、過去の世紀の斯くも多くの家屋が後悔と恥辱であるのに反して、誇りとなる家屋を人々に供給しなければならぬ。（畢）

附錄第一

住居に關する個人の請願

請願事項	請願者	請願受附	請願に對する官廳の處置
一、細民屈の存在	一名の治安判事又は六名又は以上の納稅者	健康醫官	健康醫官は地方官憲に報告する、地方官憲は若し改善計畫をしなければならぬと認め且彼等が充分なる財源を有する時は改善計畫をしなければならぬ。
二、不適當家屋の存在	一名の治安判事は四名又は以上の居住又家主	健康醫官	若し必要ならば、地方官憲は家屋が住居に適する樣に作られる迄、人々の住居を禁ずる命令を發する。
三、障害家屋の存在	一名の治安判事又は四名又は以上の居住家主	地方官憲	地方官憲は若し心要ならば破壞を命ずる。
四、新家屋の必要	四名又は以上の居住家主	保健大臣又は村落區域に於ては州會	州會は村會の家屋の義務を承繼ぐ

若しも地方官憲が要求されたる事を怠るならば、保健大臣に訴へる。保健大臣は地方官憲に命令し、又は州會の實行の權利を與へ或は（一、二及び四の場合）大臣自ら行ふことが出來る

附錄第二

住居委員名簿（十一名あり。省略す）

××『借家法』と建築法規（下）

郊　邨

前號既掲

我邦建築法規の系統の完備と社會改良主義の對案△借家問題として都市生活の威迫△亞米利加主要都市に於ける借家問題の現狀△近世の都市は借家人の都市△住宅問題とマルサシズム△建築法規と基本問題△債權關係と物權關係△物上負担と借家權△同時履行の規定△賃貸借の繼續

▼▲契約の解除　借家權は、實質上一種の債權なるも、『借家法』は、之に物權的法益を與へて、一箇の物權と成したことは前號に述べた通りであるけれども、此の借家關係なる物權は、一面より觀て、即ち其家屋を占有せる事實より觀て、それに占有權としての法約要素例へば民法第百八十條に所謂『自己ノ爲ニスル意思』と其『物ヲ所持スル』事實、斯の兩要素は、法理學上種々攻究すべき問題ではあるが、兎に角、斯の心的要素と體的要素の存在せる場合、茲に、『占有權』なる一箇の物權を取得する事となるも、其借家權の實質は一種の債權であると同時に、法の附與せる——認定でない——物權としても、其物權關係は、家屋の賃貸人と賃借人の賃借契約に藉りて設定されるのであるから、斯の物權の得喪は、原則として我民法總則第四章（法律行爲）同第五章（期間）同第六章（時効）同第三編（債權）殊に第二章（契約——就中第七節賃貸借）等の規定の適用を受く。隨つて家屋の賃貸關係を終了するには、即ち斯の物權の消滅は、勿論其賃貸契約の解除も之が一原因である。然らば、賃貸人と借受人との間に特殊な契約なき限り、當然民法第六百十七條の規定の適用を受くべきである。今參照として其規定を揭げむに

『當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申込ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一　土地ニ付テハ一年
一　建物ニ付テハ三ヶ月
三　貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ着手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス』

而して、一般契約の解除として――勿論家屋の賃貸借關係としても――民法第五百四十條に左の規定を成してゐる。

『契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

斯の兩者の規定に據れば、家屋の賃貸借に就ては其賃貸借に期間の定めなき場合に於て、賃貸人又は賃借人から、何時でも解約を申込むことが出來得て、而も、其申込の方式は、口頭でも書面でも兎に角、適法に解約の意思表示を爲したならば、勿論相手方の承諾を俟たずして、其申込を爲したるとき、例へば本人と對談の場合ならば、其意思を發表した瞬間より、又、隔地者に對する場合ならば、民法第九十七條に規定せる到達主義によりて、其意思表示の相手方に到達したる瞬間より起算し、三箇月を以て當然契約が終了することゝなる。即ち、此場合、家屋の賃貸借なる物權が消滅するのである。尤も、斯の期間の計算は、民法第百四十條の規定に據り其期間が午前零時より始まる場合を除く外、其期間の初日は算入せないことになつてゐる。

以上は、家屋の賃貸契約に就ても適用を受くべき一般的な規定である。けれども、『借家法』は、斯の場合、借家人が斯る規定の適用を受くるとせば、家主より何時家屋の明け渡し即ち賃貸契約の解除を申込まれる虞あると同時に、長くとも三箇月内には其家屋の明渡しを爲さなければならぬ不利を考慮し、同第三條に於て下の樣な規定あり『賃貸人ノ解約申入ハ六月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス六月未滿ノ期間ノ定アル賃貸借ハ之ヲ期間ノ定ナキモノト看做ス』とあつて、頗る賃借人の利益に規定されてある。即ち、賃貸借期間の定めなき場

合は、少くとも六箇月前に解約の申込みを爲さなければならぬ。之を賃借人の側より云へば、解契申込より六箇月後にあらざれば家屋の明渡しを要しない。又、縦し賃貸期間の契約があつても、其契約期間が六箇月未滿のものは、期間の契約が無いものと看做して、依然六箇月以前に申込を要する。斯の規定の如きは、借家人に對する最も有利な寧ろ篤きに過ぐる程な保護規定である。

是に附帶して、借家人に尙ほ有利な規定は、同條第三項の規定である。前號に於て述べたる如く『借家法』第二條は、縦し賃貸借の期間が滿了するとも、其賃借人が建物の使用又は收益を繼續する場合に於て、其貸主が夫に對して遲滯なく何等の異議を述べなかつたとき『借家法』は、斯の場合當事者間に依然繼續して賃貸借契約の暗默な意思表示があつたものと看做し、前賃貸借と同一の條件を以て更に賃貸借を爲したものと認めて居る。同法第三條第三項は、斯の規定を、更に契約解除後に於ける場合にも準用して、一旦契約の解除を爲しても、依然同一條件の下に契約を繼續したものと看做してゐる。斯の規定は、借家人に最も有利な規定と謂ふ可きである。

▼▲轉貸借と解約　賃借家屋の使用及收益は、賃貸人と賃借人の間に特殊な契約無き限り、原則としては、其賃借人が之を奈何に使用し、又之に藉りて奈何に收益すべきかは、賃借人の自由である故に、賃借人が、賃借家屋を他に轉貸して、其對價即ち使用料若くは借賃を獲るのも、亦使用若くは收益の一方法である。併し、是には、當然法民第六百十二條の規定の適用を受くるから、其轉貸は賃貸人の承諾を要する。其適法にして而も契約解除の申込に因りて其轉貸借が終了すべき場合に縦し、其賃貸借が終了するとも、轉貸借が繼續する限り、賃貸借の終了を以て、直ちに轉借關係も終了するといふ譯ではない。元來ならば、斯る轉貸借の場合に於ては、民法第六百十三條の規定に依り、轉借人は爾後賃貸人――轉貸人にあらず――に對して直接な義務を有するが故に、契約の終了と同時に、其轉貸關係も終了すべき筈なるも、『借家法』は、斯の場合當然終了する事を認めずし

て、一つの條件即ち『賃貸人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨――契約終了ノ旨――ノ通知ヲ爲スニアラサレハ』轉貸關係は依然存續するものとしてゐる。而も、斯の場合、契約終了の通知を發するとも、轉貸關係は直ちに終了するにあらずして、『其ノ通知ノ後六箇月ヲ經過スル』にあらざれば終了せないのである。而して其通知は民法々律行爲の一般規定に依り、對談者には其意思の發表後、隔地者には、到達主義に依りて、其通知の到達したときより起算し六箇月後に於て初めて終了する。尤も、期間に關する民法の規定に依り、斯の場合も最初の一日を算入せない事になつてゐる。

▼▲造作買收請求權　賃借人が、其家屋に附加したる疊、建具其他の造作は、縱し家主の承諾を條件として附加したるものでも、之に對する自己の處分權ある外、其家主に對しては何等の請求權を有せない。然るに、『借家法』は、斯の場合に於ても、借家人の保護を主とする立法上の關係より頗る重要なる保護規定を設けた。それは、同法第五條の場合であつて、即ち『賃貸借終了ノ場合ニ於テ其際ニ於ケル賃貸人ニ對シ時價ヲ以テ其造作ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得』る。尤も、是には一つの條件があつて、斯る場合は、唯『賃貸人ノ同意ヲ得テ』建物に附加したる場合のみで豫め附加の承諾なき限りは斯の造作買收請求權は成立せない。又、單り賃借人が附加したるものに限らず、『賃貸人ヨリ買受ケタル造作』に就ても、等しく買收の請求を爲し得る。

▼▲特殊保護規定　以上は勿論借家人に對する保護規定で之を一般の法律關係から見れば、『借家法』其ものは、格段なる保護法規と謂ひ得る。けれども、等しく斯の規定中、借家人に對して、更に一層重要にして特殊なる二箇の規定がある。第一は、**契約を無效ならしむるの規定**にして、第二は、建物の借賃即ち所謂**家賃に關する規定**である第一に就ては、由來『借家法』は、私の見る處では一種の私法なるが故に、必ずしも强行的性質なものでない。**只當事者が何等特殊な約款なくして**斯の賃貸借關係に入り來つたときは、勿論當然斯法によつて其契約を支配されるのである。**而して**

一面に於ては、所謂契約自由の原則に由り、當事者は、民法第九十條の所謂公の秩序又は善良の風俗に反する事項を目的とせざる限りは、奈何なる契約をも爲し得る。故に、當事者は勿論此の『借家法』の規定に反する契約をも爲し得るのである。併し乍ら、斯の場合借家法は、矢張り借家人保護主義の大系に立ち、『前五箇條ノ規定ニ反スル特約ニシテ賃借人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲サヽルモノ』ト看做したのである。即ち、斯の場合、所謂契約の無効でなくして、全然無契約のものと看做したのである。云ひ換ゆれば、契約無効問題とならば其事項が果して有効なるや無効なるやの問題を決せなければならぬが、然らずして、無契約のものと看做すならば、只、其事項が賃借人に不利なるや否やを決すれば足りるのである。次に、家賃に關しては、從來一定の期間家賃の增額を爲さゞる契約なき限り、賃貸人――家主――は何時でも增額の請求を爲し得たのである。斯の問題は所謂借家問題中最も利害の存する處であつて、家主の橫暴呼はりも、主として斯の點に存してゐる。然るに、『借家法』第七條は、賃貸人に對して、從來無制限なりし增額請求權に制限を加ふると同時に、賃借人に對しては、從來家賃減額の請求權なかりしを新に斯の權利を附與したのである。即ち、『建物ノ借賃カ土地若ハ建物ニ對スル租稅其他ノ負擔ノ增減ニ因リ、土地若ハ建物ノ價額ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ建物ノ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ハラス當事者ハ將來ニ向テ借賃ノ增減ヲ請求スルコトヲ得』るのである。即ち、貸主は斯る條件あつてこそ初めて增額の請求を爲し得て、借主は件の條件を理由として當然減額を請求し得るのである。併し、是には一つの制限があつて、當事者が或る『一定ノ期間借賃ヲ增加セサルヘキ特約アルトキハ』勿論其期間內は增減の請求を爲し得ないのである。斯の家賃は社會政策殊に都市社會政策の對象として論ずべきもの多々あるが、紙幅の都合上他日に讓る。

（畢）

定極式の說

工學博士　中村達太郎

近頃鐵筋コンクリートの陸屋根造が多く出來るが其上棟式は如何に行ふべきであるか、これは自然從前の方法とは趣が異なることに成る筈である。

陸屋根は屋根とも思へるが又床とも見らるゝのである、就れと思つて見ても、兎に角、棟があると見る事は不自然でありて、梁が有ると認むることが自然であると思ふ。

既に棟の無いのに、上棟式を行ふことは甚だ滑稽であると考ふ、又陸屋根の梁を無理に棟と認むるも如何かと思ふ、就ては鐵筋コンクリートの陸屋根の場合に上棟式を行ふといふ事は不都合のことゝなる。

是に於て、先づ其名稱を改むることが必要であると私は思ふのである、依て先づ「定蓋式」にしてはどんなものかと考へた、されど屋蓋全體を表現して居るが、名稱中には屋蓋の主要材を含めることが望ましいと思ひ直した、恰も棟と稱する主要材を上る式を上棟式といふが如くにし度いと思ふのである。

斯の趣意に由り「定梁式」なる語を案出した、梁なら立派な主要材であると思つた、然れども、これでは二階床の梁だか判らない事となる、是に於て斯の語も亦落第の運命に陷つたのである。

兎に角最上方の梁なる意を表現せしむることが必要である、依て熟考の結果、「極梁」なる語が最上方の梁の意を含むものと認定したのである、これは「棟の如き梁」ともなり又「テッペンの梁」とも爲る、「極」には「棟」の意も、又「テッペン」の意味もあるからである。就ては陸屋根の梁のことは先

づ「極梁」と稱するのが至極穩當であると思つた、尙他の熟語として用ふる場合には單に「極」として「極梁」の意に用ふることが便利であると思ふ、是に於て私は「上棟式」なる言葉の代りに、「定極式」なる新語を用ひたい、尙言葉を變へるのみで無く實質も自然變はるのである。

假令ば、棟木を上げ束に棟札を取付ること等は出來兼る事であるから、鐵筋コンクリート梁の上方に紀念銅板を埋込むことなどの式を行ふべきである、其精細は多少工事の大小等に依りて異るべきである。

次に石材を用ひずして、單に鐵筋コンクリートのみにて造るべき建物に於ては礎石式（ファウンデーション、ストーンの式）を行ふとも亦不自然である、其場合には、コンクリート根積に紀念銅版を入れることを式と爲し、之を「定礎式」と稱し度い。

依て、下方には「定礎式」を行ひ、上方に於ては「定極式」を行ふ事にしては如何。

（大正十年四月）

ケンペルが見た日本の都市

獨逸人のエンゲルベルト・ケンペルは元祿三年に日本へ來て二年滯在したのだが、其日本誌によると「市街はどこも敷石やたゝきでない。それ故塵埃の飛散が夥しい。長崎の人口は七萬、京都六十萬、公方の場所たる江戸は更に大きな都で、之を一週するには二十一時間を要する。日本の市街は城壁を繞らしたものは無い。併し多くは濠や堀があり江戸や京都の河の上に小舟の行通ふこと、それが提燈をともした夜景は實にうつくしい」と誌してゐる。



〔漫錄〕

太西洋を見る日まで（七）

會員　波江悌夫

○モンタナの平野

汽車は名にし負ふ落機の山の雪を分けて東へ東へと突走りつゝあつたに相違ないが、夢は西の方へ漂ふて來し方の出來事が夫から夫れと回轉して居つた。ボーイに起されて窓外の景色を見れば軌道は既に下り勾配の雪の荒野をひた走りに走つて居つた。滿目荒寥たる白皚々、うらゝかな朝の光に輝いてまぶしこと此上ない森もなければ林もない。只夫れ波と起伏する丘亦丘、唯偉大なる雪の海原を眞一文字に突破しつゝあるのだ、壯絶といはゞ云ふものゝ、これは亦旅客の情をなぐむる何物もない景色だ。

M君に誘はれて食堂の朝食に、「ジャップ」四人相對して昨夜來の苦心談に花が咲いたが、Y君はケロリとして濟ましたものである。唯「アュテー」驛の寒氣猛烈なのには閉口したとの話、さうだらう零下二十度と申すと一寸想像がつかないかられ、M君は夜中罷り起きて下車して見たが、一縮に縮み上つて忽ち風を曳いて閉口したといふ。少々熱がある樣だ、風を曳いたのは君ばかりでない。電氣機關車さへが昨夜動かなくなつて何んでも五時間の停車スチームは閉息してしまつて乘客一同凍り付く處であつたといふ「君はよく寢て居られたれ」とある。成る程さういはれて見ると昨夜は寒くつてたしかに安眠は出來なかつた樣である。時間表と對照して見ると確かに七時間半は遲れてゐる。大陸丈に汽車迄呑氣に出來てゐる。

「これで無事市俄古に豫定通り到着すればよいが」といふとS君が

「そりあ無理だ、これ丈遲れたらどうしても回復は出來る譯がない」

そんなもんかを思ふた。

例によつて喫煙室の雜談はとめどもなくはづんだけれども、さういつ迄も喋られる譯のものでなく自分も切り上げて返つてくると、吾席では二夫婦差向ひでトランプを遊んで居る。日本では車中トランプは嚴禁されてゐるが、一週間も乘り續けの汽車の中ではさうも行かぬらしい、席の間に片足の机を挿し込んで立派に遊べる樣な裝置がしてある位だ。

向ふ側では此の机に「タイプライター」を置いてコツ〳〵手紙を書いて居る男がある。成る程行き屆いたものである。一體この「フルマンカー」は、「フルトン」といふ旅行好の男が、多年の經驗から同國人に便利な愉快なそして安樂な旅をさせてやりたいといふ親切から大いに工夫をして拵へたが、さう〳〵製造會社を起して鐵道會社に特製の寢臺車を使はしめる事にしたのだそうだ。從つて展望車や風呂場もあれば理髮屋も居らせる事になつて御座で呑氣な旅が出來る樣になつたのだそうである。して見ると意外の景色にうんざりするのは此上なき贅澤な沙汰といはねばならぬ。

吾席をば領ぜられてゐる以上は反對に其御夫婦の席を拜借するより仕方もない。左側の席に腰を下して案內記を讀んで居ると、此度は車掌殿が小說本と繪葉書を賣りに來た、成る程無聊に苦しむ連中には持つて込いの處である。繪葉書屋には一度凝りて居るので警戒しながら拜見すると、「モンタナ」平原の名所の繪葉書である。手に執つた一葉には次の樣な詩が書いてあつた。

○

我に語るな。東の國の
　偉なる都や大なる町の
その麗はしい家の波
　その美しい海の岸
或は酒場の花の宴
　或は歡喜のその巷
されど我等に「モンタナ」の
　空に連なる平野あり。

○

我「アイオワ」の春を訪ひ
　又「カンサス」の夏を經ぬ
「ロッキー」山の雪嵐
　「ミシシッピー」の秋の野邊
「ロスアンゼルス」の冬籠
　或は都の「ワシントン」
されど我住む「モンタナ」の
　天地に優るものやある。

その所には「モンタナ」の青年が汗馬に鞭打つ勇壯な風光が畫かれてあつた。春の野に手綱かい繰る乙女の優しい姿も寫されてあつた。

これや面白いと、自分は思つた。米國青年の意氣を示す詩人の

力の大きいのにうたれた。早速に數葉を頂戴して飽かずに眺めた、そして窓外の荒野の雪に眼を轉じた。春の青草の萠え出づる頃を憶んで、この駄々廣い大原野から無限の恩惠に浴する青年を祝福せざるを得なかつた。

○大　陸

だが二日も走り續けて同じ樣な景色をいやおう無しに見せ付けられてはいかな「モンタナ」平野もうんざりされられる、大陸とは成程途方もない處だと思つた、東京から下の關迄乘り通してさへ、美しい故國の景色の千變萬化も倦むを、これは亦あまりに單調であまりにぶつきら棒ではあるまいか。時としては赤い〳〵夕日が西の山の端にユツタリと傾いて空一面の紅が褐色となり橙色と變り黃に變して何ともいへぬ雲のいたづらに興を催しも、夕月の光淡く寒寂の夜の幕が下りると氣も滅入つて頭も重く窮屈な「ベツド」——故國のよりは廣いけれど——に横はると決して安かな夢は結ばるゝ筈はないのである。

翌朝は雨「タコタ」の地平線から產れ出る日の光を拜した。是は又壯絶な別樣な色彩を無限の空に畫き出される。漠々たる曉の棚引雲を排して紅さし來る刻々の景色はとても御國では見られぬ一幕である、暾光うらゝかに今日も靜かな雪の荒野は平々凡々として何處迄も其偉大さを横へてゐる。

流れに沿ふて次第々々に下り行く鐵路は時とすると些の曲線なく數十哩を走ることがある、展望車に行つて見ると二つの平行線は間違なく無限の遠方に交つて居る。沿道の雪を蹴立つる車輪の力に引寄せられて扉の外の椽に粉の雪のうづ卷く物凄さを見る。

河を隔てゝ向ふ彼岸にも貨物用の軌道が延べられてある時々眞黑い長蛇の一列がノソ〳〵動いて來る。石炭を滿載して些かの上り勾配を一生懸命に走つて居るのであるが、周圍の偉大さに包まれて如何にも呑氣さうに來る、汽罐車から吐く白い煙が又頗る呑氣なもので、寒空に凍りついたか、幾哩の間、消えもせず、散りもせず、むく〳〵と蠢動しながら、延びて延びて延びて、河に沿ふて横はるのを見て一寸驚かされた。——烟迄周圍の景色に調和されて勝手な行動をなし得ないのであないかと思つた。

河は河で東へ東へと流れて居るに相違ないが、丸木橋一つあるでなし、村らしい村の影も見ねず、況んや人が住んで居る世界とも覺ぬ以上は、早瀨の波に水車のあるでなし、せゝらぐ音も物靜かに、淀む處は氷に閉ぢられて狐の渡る影もない。動物さへがまだ生れて來ぬ大昔の姿を其儘に、高い處が岸であつて低い處に瀨が傾いて遠く〳〵時と空間を流れてゐるのに間違はない樣である。

こんな途方もない景色も、三日間の午後「ミツゾリ」河を越へた頃には漸く村らしい村も現はれ、牧場の柵が其處此處に現はれて來ると白い家、赤い屋根の點々と散在するあたりには牛や羊の姿も見ね、人は馬車を驅り會々過ぎる停車場の近くには古ぼけた自動車の二三臺が並んで居るのが目に付いた、軌道もいつか復線になつて居た。だが「シヤトル」以來眞白に延べられた雪の世界はさう〳〵市並古の町近く迄擴げられて居た。

○延　着

途上數時間の立往生から調子を狂はした電氣機關車は運轉手殿の苦心も其甲斐もなく漫々たる大河「ミシシッピ」河畔の「ミ子アポリス」市た到着した頃には十時間餘りの延着とは相成つた。況してや山岳時間と中央時間との差丈一時間宛時計の針を進めなければならぬ以上は約半日からの違算が起つた譯である。

處が「ミ子アポリス」市に到着すると中央線の時間割の都合上三時間停車といふ事になつて愈々立往生の止むなきに至つた、さして急がぬ旅の事これも時ならぬ豫定外の市内見物も出來る譯ではないかと衆議一決、此市の地圖を延べて見物の段取りとなつた、ともかく電報丈は夫々關係方面へ打つておいてブラ〳〵出掛けて見たが、時しも零下十四度の寒さにS君を除いた三人は見物の元氣は忽ちに消沈した、S君も兩耳を赤くしながら

「こんなに寒いから腹をこしらへてから自動車にしやう、こんな寒さて閉口しちあ笑はれるぜ、腹にうんと力を入れるのが一番だよ」

とさすがに「アラスカ」の氷を踏んで來た丈あつてしつかりしたものだ。

とある料理屋で焼き立ての「ピフテキ」に腹を暖たため、一臺の「タキシ」に交渉して乘り廻す段取り、宰領はS君地圖係が自分に割り當てられた。

例によつて十數階の凌雲閣は市の中心を形造つて居る、その谿谷に沿ふて歩る吾等の車は大通を抜けて大きな公園地に入り込む春ならば新綠の影を宿して百花燎亂の池の邊も唯眞白く凍りついて人の影さへないにさつぱり面白くない。寒さは靴の底から舞い上つて、ガク〳〵と顎の微動を如何ともすべからぬ折、運轉手は池を廻つて車を止めた。

見ると驚いた！。喜々として無中に遊ぶ「スケーチング」の一團！老若男女相混じて壯絶な活劇をやつて居る。日本ならば學生に限られて居さうな此一團には白髪の老爺夫妻もあれば、花も恥ぢろう美人連もある。壯は幼を教へ、兄は妹を携へて手を曳き肩を擦して辷つて居るではないか、此光景は溫暖の國民には一生味はれぬ遊戲の一つあり、これあるが爲めに寒帶圏内に近く新興國民の活躍する所以である。

たが此寒さでは自から氷上の快を味ひ得ぬ吾々は長く樂を共にする能はざる怨があつた。

宰領は命を下した。車は南へ東し住宅町を貫けて「ミシシッピ」河の鐵橋を渡り、更らに進んで「セントポール」市訪問の野心を起したが、時間が許さないので　左岸に宏大な敷地を有する當市大學の校内を視察し再び大河の冬風景を領して「デポー」に引返した。

午後四時發、自分等の汽車は夕暮の幕はや下りつゝある「セントポール」市の燈火を夢の如く眺めて一シカゴ」に向つた。翌日は「ミ子ソタ」の平野に連なる「ウイスコンシン」の沃野をひた走りに走つたが、とう〳〵吾等の汽車は豫定の時間より遲るゝこと二十三時間半の大番狂はせで、煙たなびく「市俄古」の大部市の北西停車場にそれでも無事到着した、やれやれ。

原稿職人？藝術家？

——『原稿生活物語』の四（畢）——

EKS

編輯の苦心と云つても、勿論、其處には種々な關係があつて、必ずしも單一でない。例へば、懷ろ手で、他から寄つて來る原稿を羅列して活字に組むだけも編輯なら、プレートの世話から、奥付まで、ものによつては、お臺所に氣骨を折り、即ち『廣告』の膾煎りまでやるのも、編輯である。要するに、下世話の所謂『ピン』から『キリ』まで遣つて編輯者としては隨分人知れぬ苦心を拂つてゐても扱て、物になつて現はれたが最後、同情も理解も無い主觀的な批評で、アラ探しと揚げ足を取るのだから耐らない。——是が得て普通雜誌、編輯上の『型』である——。若しそれ其經營の苦心に至つては、とても素人の想像も及ばない程、隨分、呆れたもの、驚いたもの、齎盛すべきもの、乃至は歎同すべきものがある。品性の陋劣な雜誌經營者としては、勿論雜誌自體はどうでもよい、其雜誌は、彼れ荒頽的生活を支へる處の『托鉢』だから。斯麼ものは、無論此處に誌す物語りの圖外だが、眞劍に一つの新聞一つの雜誌を立派に經營することは、或る特殊なる經濟的有利な背景を有せない限り、却々の手腕家と謂はざるを得ない。新聞や雜誌の經營といふ事は、勿論一つの事業であるから、かたの如く、事業資金の富否は、素より其經營上に多大な關係を有つてゐるけれども、さりとて、資金の澤山な事は、必ずしも經營安を見るといふ譯には往かない。是は何の事業でも同樣な事だが、新聞雜誌の經營に至つては、資金との關係は寧ろ特殊な關係なもので、資金の効果は他の事

業のそれより權威が薄い、と云ふてよい。『金』よりも、一段も二段も、『手腕』其ものを要する。其實例は幾等でもあるが、大阪の土地でも、曾つては、二十年前に於て、三十萬圓といふ巨資を鐚一文までも費ひ盡し、落ち附く處は、蕪村の哀句『夏草や武夫どもの夢の跡』でなくして、今は其昔の夢を偲ぶ赤煉瓦の建物のみ遺す『帝國新聞』の如き、近くは、資金二百萬圓を殆むど遺さずして、其雄圖と共に空しく竭きたる大正日々新聞の如き更に雜誌其ものに至りては、一起一倒。よく斯う種類繁く製造されたものである！の歎に禁へない程な忙しさである。或人は曰つた、左した有力な背景もなく殊に Patron も無い新聞や雜誌の經營が立派に遣つてのけられるなら、其人は何の事業を遣つても成功し得る可能性を有つてゐる人だ、と。確にソウである。わたくしは、經營其ものに多少な經驗を有たないこともない、又、それに對する理想も有つてゐる、けれども、有力な何かの Patron の無い限り、そして、特殊な手腕の無い限り、恐らく是程困難な仕事はあるまい。——所謂三號雜誌で、それが一種の乞食袋の積りでやるものはお話しの圈外だが。

請はあちこちに飛び歩くが。更に困難事の一として、わたくしは、雜誌原稿蒐集の痛た事を今少しく詳細に誌してみたい。讀者は、よく新聞廣告抔で、某々雜誌の內容廣告に『病臥三年貧と饑へとに悶へる私の經驗』とか或は『鐵路の露と消へむとせし私の告白』乃至は『咄！斯の奇怪事!!讀者は果して奈何に見る?!』てな類の、頗る挑發的に、餘程印象的な『見出し』のあるを見るであらう。寔に正直な讀者達ちは、奈何にも其雜誌の奇拔な材料に滿ち、機敏な遣り方に少からず心を唆るであらう、けれども、一旦び其雜誌を秉つて覽よ、多少強き批評眼を有つてゐる者ならば、恐らくは其內容の頗るつまらなさ加減に再び心を躍らすであらう。——眞實くつまらない、それは寧ろ當然な事である。何故ならば、斯ういふ種類な原稿が豐富?に羅列されてあつても、一と度び雜誌社の編輯室を覗ひて見るがいゝ、其處は、眞實く、『原稿製造所』の看板を揭ぐるに相應はしい。即ち

其原稿の大部分は、魔術師の杖の尖ではないが、事實の無いのを筆の尖でこつち上げるのだから、讀者こそ、お芽出度い。若しそれ、多少な事實あるにしても。例へば『四十年間斷食の婦人』とか『我政界未現の秘事』とか、云ふ類ひのものでも、其種は、新聞の三面記事を焼き直して、是に種々な調味料を加へたのに過ぎないものである。ことを聞いたならば、正直な讀者は呆れざるを得ないであらう。誰やらの句に『空ら事で飯喰ふ（何やら）小説家』といふのがあつたように思ふが、是は、勿論、藝術といふ側を見ずして、只『寫實』といふ事だけを、小説かのように考へてゐる人の句であらうが、斯の點から見ると、雜誌の原稿を空ら事からでつち上げるのは、何も差支へのないといふ理窟になるかも知れぬが、何にしても、意見だとか思想だとかいふ側のものでない限り、其記事に對して事實としての了解を有つて掛る讀者に對して、斯る雜誌經營者は、年百年中、嘘と、掛け引きとで、——お上品に云はゞ、只方便で、讀者の財布を絞つてゐるものと謂つて可い。是が筆者や經營者の良心に大した問題でないとするならば、わたくしは、現社會の『お芽出度き』をご祝福申して口を辯じ——いや筆を擱かう。去り乍ら、斯の問題は、兎て、原稿生活者の問題である。若も、原稿紙に徴象される處の原稿生活者の生活が、前回述べたように、其本然の意味に於て一つの藝術的生活ならば、是に就て想ひ起す事は、畫家の藝術的作品、殊に古畫杯の贋作をなりはいとする繪書きである、所謂畫家てふクラスから見ると是も矢張り藝術家かも知らぬが、實は一種の『繪書き職人』であるが様に、わたくしは、斯る原稿生活者を、『原稿職人』と呼び度い。なりはいの壓迫から、一箇月何頁を書かねばならぬ、といふ所謂大家？達の原稿生活は、前にわたくしの所謂『稼ぐ生活』で、收入よりも努力よりも、自由な意義に於ける藝術味の無さ加減には、其慘めさに於て、件の『繪書き職人』と大した軒輊はないけれども、『原稿職人』の個性的慘めさは、亦一段なものである。

更に話は飛ぶ、所謂『文責在記者』てふ一つの逃

れ途を拵へて、誌面を飾る論談を大概な雑誌に見受くるが、文字通りに、文章は記者の手で、でつち上げたのだが、内容はピンからキリまで、或人の識論なり又は談話なりを、機械的に綴つたのであるかのように、素人は考へる。雑作はない、喋つてもらつただけを速記でも爲て、之を原稿紙へコッピーすれば。斯う甘く注文通りに行けば、そして、誌面の全幅を斯ういふもので埋めて了ふても、是で『雑誌』――でムる、と澄まして居られたならば、蓋し、雑誌編輯といふ事程暢ん氣な譯も莫いものはあるまい。併し、或る纏つた處の講演抔を基礎として、之が原稿と成るのは別だが、訪問談が人も肯くようなものと成つて其儘原稿紙に再現される事は、何事にも餘程豊富な意見を有しそして、餘程談論に長けた人でない限り、原稿紙へ物にするのは、編者の人知れない一廉の骨折りである。何故ならば、有り体の處、多くの場合、編者は、對談幾時繊に何かのヒントを捉へる迄過ぎない。是が、嚮て少くも原稿紙拾枚以上、相當な頁と成つて現はれるのだから、其處に、編者のからくりがあり、而も其からくりは、恐らく、斯界の者でない限り、却々以て心易い業ではない。何故ならば、其人の迷惑も何も構はない積りならば、談者の名に隠れて、實は編者の考へや意見を賣つて好い氣になつても居られようが、左もなき限りは、種々な制限の下に、而も談者のヒントを外さないように、例へば一寸のものを一尺にも引き延ばして、相當な價値を付けるといふ事は、決して、並大抵な事ではない。況して、訪問種取り其ものも、此の目まぐるしい世の中で、餘程な閑人か、左もなくば、特殊な位地に在る方でない限りは、ソウこちらの注文通りに行けるものではない。ほんとうな處を云ふと、何のお義理があつて眞實こちらの注文通り考へて呉る者があらうぞ。斯る人々の考へ又は語る事には、こちらよりはヨリ以上な最先な緊急な問題があるのだ。何時でも飛び込むで、何時でもこちらの注文通りに行けると思ふ人が若も在つたならば、それは、餘りに消息を解せない、と云はねばならぬ。されば、訪問に藉りて、例へ二三の原稿種を拵へるにしても、

場合によつては、十人以上を訪問をせねば、其二三すら獲られない、といふ關係に成る。斯くて、此處にも、原稿生活者の世智辛さ慘めさが、例外なく見舞つてゐる。わたくしは、以上四回に亘りわたくしの生活を主として、原稿生活者の生活を物語つた。併し、出來てみれば、吾れ乍ら、餘りに抽象的な事のみを語つた事に厭や氣が差した。實の處、最初の考へでは、わたくしの十數年來の原稿生活を中心として、何の隱す處もなく、何の憚る事もなく書いてみ度かつたのであるが、案外斯るものになつて了つた。是で擱きましよう。

英語の俳句

ウアニテー・フエーヤといふ雜誌に發句の懸賞募集と受賞者の姓名が載つてゐた。發句と云つても、もとより英語でやるのだから、つまり最初の行が五綴（シラブル）、次が七綴、次が五綴といふ俳句の形式を襲ふた短い英詩である。題は「小女の戀と義理の判斷」といふので、薔薇の花に戯れてゐる蜂に寄せて作れといふのである。それで、最優等の選に入つたのは、ニユーヨークのアヽス・マクスウエル・アツボー孃といふ人で、其句は

Tailor of ages,
Cwlling sweetness with labor
I thy diseiple

改造と生活の格定

日本水力專務取締役關口壽氏夫人　關口冬子

日常の生活が忙しさに追はるれば追はれるほど私達の考へる事も行ふ事も、隨分知らない間に事務的になつてゐる事に心付きます。私は近頃、よく方々の婦人會等に關係して、その方に自分の力以上の時間をつい多く割かれて、この頃はつく〳〵時間の有り難さを痛感致します。私は私の大切な思索の時間が失はれて、私の頭には適當な肥料に餓ゑてゐる事を感じてゐますので、今後は外に向つて動く事も絶對に制限しなければならない、と實は考へてゐた事でした。

けれども、私達婦人が、それ迄、家庭の中にのみとぢ籠つて小さな天地に世間知らずの狹い主觀に捕はれた生活をしてゐた昔と、多少共世間の風に觸れて、直接、この現實の實相を見聞した今と比べて、私自身が何といふ大きな成長をしたものだらうと私は驚いてをります。社會といふ廣い舞臺に立つて、隨分烈しい生活の渦中に鬪ふ主人の心持ちにも、私は以前より一層理解と切ない同情を持つことが出來るやうになりました。そして私は私の外出が繁しくなればなる程、子供達に向つての愛が急激に大波のやうにうねつてゆくのです私は、先頃、私どもの育てゝゐる音樂團體「清樂會」の大會を開く時、非常に多忙な疲れの中からわざ〳〵子供達の髮等洗つてやりながら考へた事は、そんなことでした。

私の近頃一ばん思ひます事は——それは、私が直接世間的な仕事に觸れてつく〳〵考へた事ですけれど、婦人に數理的、科學的の觀念が如何に乏しいのであるかといふ事なのです。その點で男子方から、世間の人から、どのやうに非難されても

立派に辯解する丈けのものはなからうと思ひました。一つのものを計畫するに要する準備、計算といふもの、それに對する具體的な智識に乏しく、大方豫定は空想になり易く、確かな積りの的は實は獨りよがりの餘りに甘い「世間しらず」の夢なんでした。私はさうした例のいくつかを目擊して深く反省の資を得た事を感謝してをります。

× × × ×

私は或日、宅の障子を張り替へながら、ふと思つたことは、いつも良人が口癖のやうに云ふ「生活の格定」といふ事でした。良人の言を藉りますと、電氣界の標語である「格定」といふ意義を、私どもの日常生活の上にも當て嵌めよといふのでした。

今日電氣界は、世界中何處の國でも共通した一定の約束を有つてゐるさうです。米國の電機を日本に移し、更に英國に移して使用しても完全に使はれるやうに一定の型、一定の法則はちやんと萬國の規約に結ばれてゐるといふ事でした。丁度、電球の何十燭を持つていつても、上のソッケットと下のベースがきつちりと嵌まるやうに「格定」されてゐるといふ事です。それで、良人は、今日借家住ひの多い私達の住居も、從來のやうに借家を一つの完全された「家」として建てる事は不都合である、人々に依つて趣味も嗜好も異なる事であるから、借家等は、這入つた人達が勝手に裝飾し、勝手に或る程度迄は變化を作り得るやうに只眞四角な室を作つて置けばいゝ、今日の違棚、欄間、承塵等に多大の手數をかけて色々な彫り物や裝飾の細かな細工をする事も不經濟で徒勞である。それから、疊、障子、硝子、或は簞笥、本棚、本、といふものもその大きさをきめる、即ち「格定」する必要がある、甲の家の襖を乙の家に持つてくればもう合はない、のみならず硝子障子一枚建てるにしても、今日では、障子のわくに合せて一度々々餘分を切り捨てゝゐる、それは勞力と物資との不經濟である——といふのが良人の意見でありました。それから進んでは、勞働、事務の仕事服も一切色も格好も格定すればなほ結構である、等と云つて笑つた事でしたが、或る程度の、改善をする餘地のある

部分には思ひきつてさうした改革を加へれば、私達の手數と費用と時間は遙に益する事の多からうと考へます。――私は、障子を張りながら、臺所と座敷と二階との障子の棧の寸法が全部違つてゐた事には驚きました。そして、障子紙をそれに合せる爲めには、全部細い切り端を出したり、面倒な時間を潰したりした事から、「生活の格定」といふ事も確かに或る方面には必要であると思つたのであります。

今日の日本住宅にも隨分考へれば改造すべき點はあるだらうと思ひます。新聞雜誌等の上でもよく皆さんの御意見や經驗談を拜見致します。大概目の前に迫つた事は夫れ〴〵もはや見出されてゐるやうに思ひますが、私も都會住ひをする一人として今日の「椽側」と「物干し」を今少し有益に使へないだらうかと思ひました。

只今の日本建家屋で大概なくてはならないものとして附けられてゐる椽側は、考へればゐのまゝでは、可なり面倒が多い割に使ひ處のないものだと思はれてなりません。家に依れば隨分長い廻り椽も朝夕に骨折る拭掃除と、それに毎日二度は繰り返す雨戸の開け立て――それは積つてみると可なり私達は無駄な骨折りをしてゐると思ひます。あの雨戸を硝子障子に替へるやうに力說してゐる方のある事も尤だと思ひます。私は、その上に、從來の椽側を排する代りに、もつと擴くして、何かと板敷きの間に代用するやうに致したいと考へます。仕事をするとか、或は、冬や夏の夕べには椅子を持ち出して、西洋間のヴエランダの代りに使つては如何でせうか。

それからもう一つ、私は屋上にある物干を、もつと物干以外に有用に使ひたいと考へます。それは都會に住む者の窮策なのです。餘地のない私どもも都會生活者は、第一に子供の遊び場所を思ひます時にいつも子供の爲めに氣の毒に思ひます。暗い室内で、窮屈な、陰氣な箱のやうな家の中で、不活潑に遠慮をしながら子供達を育てなければならない事は、寔に遺憾な事です。廣い野原で青天井の下に自由に駈け廻らせる事の出來ない時は、せめて、もつと朗らかに明るい物干の上でも子供

達の爲めに今少し工風して、丈夫に安全に裝置してやつては、と思ひます。或は又夏の夕べの涼み臺に、又むろん物干にも使ふのですから、それ等の構造は現在のものより今少し叮嚀に致したいと思ひます。例へば場所は今少し廣くするとか、必要に應じては天井の硝子板を開閉出來るとか、温室のやうに閉め切つて草花の鉢位ゐは置けるやうにするとか、更に、雨の日とか冬の曇り日とかには暖房裝置では洗濯物を乾す事が出來るとか……そんな風に活用の出來るやうにする事も大して難しい事ではあるまいと考へます。

考古學より觀たる京阪地方

金屬時代の遺跡の主なるものは高塚（Tumulus）である。又其内部から發見する各種の武器裝飾品等である。此の高塚が幾内地方に多く、且つ立派なものが多いといふ事實は、帝陵をはじめとして、河内和泉攝津其他の臺地丘陵上に遺つてゐる古墳によつて明かなことで、記紀に上代の帝都が多く此の地方に奠められ、日本文化の中心が斯の地方にあつたことを語り傳へてゐる處と全く一致してゐるものである。此の高塚のうちでも、前方後圓の大墳は所謂應神、仁德帝を中心とする西暦四五世紀頃から暫くの間が最も盛であつて、恰も埃及の「ピラミッド」建役者（Pyramid builders）の第四王朝とも比すべきである。此の高壯なる墳墓建役の風習は近畿を中心として、當時日本民族の文化圏内に一般の行はれてゐた。



〔時報〕

法令

◎借地借家法施行地

●令第二百七號

左ノ地區ニハ大正十年五月十五日ヨリ借地法及借家法ヲ施行ス

東京府

東京市　荏原郡ノ內　品川町、大崎町

豐多摩郡ノ內　淀橋町、大久保町、戸塚町、千駄ケ谷町、澁谷町

北豐島郡ノ內　南千住町、巢鴨町、瀧野川町、高田町、日暮里町、西巢鴨町

南葛飾郡ノ內　吾嬬町、龜戸町、大島町、寺島村、砂村

京都府　京都市

大阪府　大阪市

西成郡ノ內　今宮町、鷺洲町、豐崎町、中津町、傳法町

東成郡ノ內　鶴橋町、中本町、天王寺村

神奈川縣　橫濱市

兵庫縣　神戸市

前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地法及借家法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

都市計畫

◎都市計畫調査會

大阪の都市計畫に關係ある總ての事項を調査する爲め去る大正六年四月公布されたる儘ぬご有名無實ごなれる都市改良計畫程規を廢止して新に都市計畫調査會を組織し曩に其の規程を公布したるが本會の主ごして調査すべき事項は都市計畫區域及各種の地域地區の豫定に關する事項、交通及運輸に關する事項、衛生施設に關する事項、公園及住宅に關する事項、市場に關する事項、公共的施設に關する事項、事業費の財源に關する事項

にして委員長は關助役、委員は市吏員中より任命し片岡、武田、大藤の各工學博士も市吏員外の委員ごして任命さるべしご。

◎建物の最低限度

大阪府は昨年十二月一日府令第九十四號を以て市街地建築物法施行細則を公布したるが同府令に於て當然規定すべき筈なりし府知事の權限に委任されたる建物の最低限度は事市民の私權を制

限し建築設計の自由を拘束するものにして市民の利害に重大の影響を與ふべきが故に更に愼重に審議研究したる上決定するの必要ありこの理由の下に建築物高さの最低限度は之を該府令中より省き後日補足することに決し爾來引續き府建築課に於て調査研究を行ひ來れるが一方都市計畫大阪地方委員會にては速かに建物最低限度の確定せられんことを要求し實際上の必要も亦之が決定を促進すべき事情を招來したる爲旁草案の決定を急ぎたる結果昨今漸く內定を見るに至りたれば近く府令こして公布せらるゝ運びこなりたるが專ら該府令起案の任に當りつゝある府技師中西工學士は建築物高さの最低限度決定の方針に就て語る

市街地に於て土地の利用を增進し街衢の體裁を整ふる爲主要なる道路に面する地區內の建物の最低限度を定めるこの必要なるは言ふ迄もないが之に依て生ずる市民の苦痛も亦考慮しなければならぬ私は之に就て考ふべき事項が三項あるこ思ふ卽ち(一)私權を拘束する事が甚だしきここなきや否や(二)市民の財力が現在に於て果して之に伴ふや否や(三)最低限度の制定は住民死亡率の增加を招來するここなきや否やである已に建築物法に依つて高さに一定の制限がある上に更に低さに制限を附するここは市民の建物建築の爲の自由の範圍は極限せらるゝここゝなる次に最低限度を定められたる爲に建築に方り從來よりも多額の費用を要するここゝなり其れが爲め道路が完成せられても之に面する建物が數年間建ち揃はないこ云ふこことがあるのみならず之を定むる結果は勢ひ强制的に居室の數を或程度迄立體的に增加するここゝ這は人口を稠密ならしむるものに外ならず而して人口稠密こ住民死亡率は常に正比例するこされて居る以上の理由に依り最低限度の決定餘り嚴に過ぐれば弊害支障を生ずるか又緩に失すれば制限の目的を達するこことが出來ぬ云々

◉地區具體案決定

第四回都市計畫大阪地方委員會に於て提出各委員の手に依り愼重審議を見るべき圓周約百二十平方哩の大大阪の區域中住、商工、混の四地域につき大阪府都市計畫課に於ては豫てより住宅地域設定につき

(一)工場の煤煙こ騷音を離れ地位高燥にして空氣清く日光の透射地質並に水質よく下水道の完全なる設備容易なる地域

(二)日用品の供給を初め日常の生活に至便なる地域

(三)子女の敎養上危險なき地域

(四)地勢の變化多く樹木點在し流水清澄にして見晴し好良なる地域

卽ち衛生、交通、風敎、風光の四點につき銳意最も周到に調査研究中であつたが、此程大體左の六方面に決定を見直ちに內務省に送附する處があつた

大大阪の住宅地域

一、三島郡吹田村千里山より岡町豐中一帶の地

二、北區天神橋筋一丁目堀川監獄跡より東西寺町一圓淀川兩岸卽ち櫻宮網島、並其對岸、西成郡柴島より稗島迄

三、大阪城高臺

四、大阪城內以南茶臼山に到る地卽ち東は霞町玉造線三十間手前迄西は寺町迄の間

五、阪堺國道に沿ひ北畠、帝塚山より東、田邊町迄の高臺の地

六、小阪平野鄕以東

卽ち右住宅地域の面積は大大阪全面積の三十パーセントを占領するまで右原案は近く東京に於いて開かるべき都市計畫中央委員會の審議を經て而して大阪に開かるべき第四回都市計畫地方委員會の議決により愈々確定を見る順序なりこ。



日本建築協會々員正六位工學士山田靜氏大正十年五月二日午前四時永訣さる。曩に、會員牛村學士逝いて朞月ならず、而も日を等ふして幽界に歸す、籍を本會に同ふする者の哀傷更に一段の深甚を覺へずむばあらざるなり。我建築界の前途に於て、將た本會の將來に於て、壯齡有爲の士に俟つ處篤きものあるの秋に方り、此處に弔詞を羅ねて、永久に氏を送る、惜悼焉ぞ禁へむ。今左に氏の小傳を附し謹で弔意を表す。

氏は、岐阜縣羽島郡上中島村字長間の人、明治十四年六月二十五日を以て生る。明治四十四年七月東京帝國大學工科大學建築學科卒業、同年八月渡邊工學博士事務所に入り　建築設計等の事に膺り、大正元年十一月　松村組技師長に轉じ、更に、大正六年十月、滿洲興業株式會社技師長、大正九年十一月二日大阪府技師に任ぜられ、高等官四等に叙せらる。

都市施設

◎住宅低利資融通

既報の如く内務省に於ては道府縣又は市町村を通じて住宅低利資金を融通することに決定すると共に大阪府に對し其旨通牒し來れるが府に於ては先き頃内務部長より府下各郡市長に對し各郡市の資金所要額に關する見込左の通り照會する所ありたり。

一、設立組合數の見込二、同組合員數の見込三、組合に於て本年度建設すべき住宅戸數の見込四、右建設費概算總額五、右費用に充當すべき低利貸付金所要概算總額

右につき注意事項に關し府社會課當局は語つて曰く

元來住宅組合なるものは住宅を建設又は購入して組合員に供給することであるが住宅の供給には住宅を組合員に使用せしむるのみならず所有を含むのである而して住宅の附屬設備は家屋に相應する門牆塀井戸其他居住のため必要なる設備に限つてゐる一方組合の供給する家屋の坪數は其の各階の床面積合計四十坪を越へざるべきことであつて組合はごうしても七人以上にて組織せねばならぬ規定になつてゐる云々

◎大阪不衛生地帶

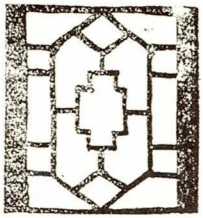
大阪府に於ては都市計畫事業の愈々切迫し來ると共に之が重要事項として差當り先づ築港、網島、市岡方面に對し土地の區劃整理を實行するに決し目下大阪市も協力して準備中なるは既報の如くなるが單に現大阪市の郊外地區のみならず更に市内外の不衛生地不淨地區並に道路計畫に依る地帶收用に隨伴して之を施行することになつた中西府建築課技師は府の區劃整理方針につき語つて曰く

大大阪建設の要素として二種類の土地區劃整理を行ひ、一は市の中央部に於て他は市の外部に於て施行するので前者は道路計畫に基き其事業を實行する場合に必要なる敷地以外に兩側に對して地帶收用を爲し此部分に區劃整理を施行したる上賣却して之を都市計畫の財源の一部に充てる場合と現在の市内に點在せる不衛生地區を整理する爲に此方針が用ひられる、今大阪市内の不衛生地區の人口の密度を見ると宅地千坪に對百七十七人の割合で他の地區に比して極めて密度低きを示してゐるから此事實のみより考察するときは衛生狀態が他の地區より勝つてゐなければならぬ筈である併し事實は全く之に反し更に建坪に對する人口の密度を見ると不衛生地區は疊一疊に一人位の割合で他の地區より非常に密度が高い此二つの事實を觀察するときは不衛生地區内には何の用をも爲さぬ塵捨同樣の空地が多いと言ふことが明白である此は建築物の製地が適當の區劃になつてゐない爲に半端な空地が澤山生じてゐる結果に外ならぬ此方面に對する區劃整理は効果極めて著しい、次に區劃整理の今一つの場合は將來發展の運命を有する郊外に亘つて之を施行するのである此種の地を此儘に放任して置けば現在見るが如き大阪の新市街と同樣な狀態になることは到底免れないが故に此種の郊外に對しては其根本的發展策として是非區劃整理を施行することが刻下の急務である市内で差當急を要するものとして東の網島西の築港、三軒家、泉尾方面に對して既に施行準備を急いでゐる云々。

□

□

□



會報

會合

○臨時理事會

△日時　四月二十五日午後五時－七時半
△會場　本協會事務所
△出席者　片岡、池田、波江、瀨戸、横濱、西谷（書記）
△議事　一、葛野理事長事故あるに付當分の間池田理事之れが代理をなし、懸賞委員會幹事は池田理事に代つて平井理事擔當すること。二、博覽會事務及財務に關する根本方針を協議す

○第二回博覽會懸賞委員會

△日時　四月二十五日午後五時－七時半
△會場　本協會事務所
△出席者　宗、置塩、内藤、中西、野村、久保田、竹腰、池田（幹事）、西谷（書記）
△議事　一、委員長として宗兵藏氏當選す　二、前回協議したる市街地住宅懸賞條件に付再審議す。三、本委員會幹事は理事平井三郎氏擔當のこと

○臨時例會

△日時　四月二十八日午後六時－九時
△會場　本協會事務所
△出席者　片岡、瀨戸、波江、池田、横濱、本多、須川、和田、設樂、宮本（長）、久保田、近澤、片山、長尾、小松、山本（磯）、阪井、宮本（金）、柳下、中川、福永、高柳、岡本、宮飼、川崎、新海、菱田、竹中、谷、武田（經）、鳥田、中澤、宮井、山脇、大原（忠）
△記事　一、片岡副會頭より材料聯合調査會の經過並びに本夕會合の主旨を述べ聯合調査會長工學博士横河民輔氏を紹介す。二、横河氏調査會案に就て説明し會員一同に承認を求めらる。三、池田理事長代理更つて座長となり一同の承認を求め質疑應答ありて後可決す

○第三回懸賞委員會

△日時　五月二日午後五時－九時
△會場　本協會事務所
△出席者　宗（委員長）、竹腰、久保田、内藤、鈴木、西谷（書記）
△議事　懸賞募集規定案修正に付協議す

○理事會

△日時　五月五日午後五時－九時半

△會場　本協會事務所
△出席者　池田、波江、平井、瀨戸、吉木、西谷（書記）
△議事　一、春季大會會計に付主計の事後承諾を承認す。二、會計報告。三、會員山田靜氏死去に付弔詞を送ること。四、五月例會に直木氏へ講演を依頼すること。五、五月十日に臨時理事會を開くこと。六、五月十五日北木島見學旅行會を決行すること。七、新入會員詮衡

○第四回懸賞委員會

△日時　五月九日午後五時半―九時半
△會場　本協會事務所
△出席者　宗（委員長）、中西、長谷部、鈴木、置鹽、平井（幹事）、西谷（書記）
△議事　懸賞募集規定案及其廣告方法發表期日に付協議す

○特別理事會

△日時　五月十日午後三時―四時
△會場　本協會事務所
△出席者　波江、吉木、松本
△議事　丸木屋呉服店に關することを協議す

○臨時理事會

△日時　五月十日午後五時―十時
△會場　本協會事務所
△出席者　池田、松本、瀨戸、吉木、横濱、平井、西谷（書記）
△議事　一、博覽會敷地として住宅地提供申込を受けたる件、二、財務委員會の件、三、懸賞規定案　以上諸件に就て協議す

○第一回博覽會財務委員會

△日時　五月十日午後六時―八時
△會場　本協事務所
△出席者　片岡、辰己、竹中、谷口、谷、中川、野澤、久保田、熊取谷、松尾、小林、（以上委員）瀨戸、松本、（以上幹事）池田、横濱、平井、吉木、（以上理事）西谷（書記）
△議事　一、全會一致を以て片岡氏を委員長に推擧し同氏の承諾を受く、二、委員長より博覽會に要する經費豫算の概要に就て説明あり、三、寄附募集の範圍及募集方法につき協議す

○臨時理事會

△日時　五月十二日午後六時―八時
△會場　本協會事務所
△出席者　池田、瀨戸、横濱、松本、平井、波江、宗、山崎（書記）
△議事　懸賞規定案に定て協議す、二、會員詮衡

○理事懸賞委員協議會

△日時　五月十四日午後六時―八時
△會場　本協會事務所
△出席者　池田、瀨戸、吉木、平井（以上理事）宗、久保田、竹腰（以上委員）西谷（書記）
△議事　理事會に於て審議修正したる改良住宅設計圖案懸賞募集規定案を提出して協議の上該案を決定す

○北木島見學旅行會

△日時　五月十五日
△順序　五月十五日午前〇時五分發下り列車にて大阪驛を發し、午前六時五十七分笠岡驛に下車、出迎へられたる與田、片岡兩氏の先導にて海岸に出で朝食を濟まし、午前八時神の島丸に便乘、淺綠鮮かる內海の美を賞しつゝ、十時北木島豐浦に着、直に岩石丁場を視察し岩石の爆破を實見す、晝食後後孫て石材會社にて用意されたる小舟に便乘し、鯛漁見物に出發、午後六時半笠岡中利に歸着し宴を催して後九時半に解散す
△參加者　西岡道臣、糸崎周一、竹村近衛、田中鑑造、高岡與三吉、長澤榮作、中川廣、流石信夫、波江悌夫、中村范造、山本辰次郎、邑眞造、兒玉廣太郎、宮本金七、白川雄一、島田貫馨、足立圓次郎、森篤次郎、矢野松太郎、錢高久吉、杉原茂の諸氏外に山崎滿壽夫(書記)以上廿二名

○例　會

△日時　五月十七日午後七時—九時
△會場　本協會事務所
△出席者　小林、山本(磯)、岩尾、谷、宮本(長)、大須賀、中澤、流石、坪井、置鹽、阪井、山本、宮嗣、天羽、竹中、長田、近澤、森(篤)、藤井(庄)佐々木、松澤、平島、久保田(小)、島田、安部、中西、竹平、片岡(副會頭)、池田、波江、吉木(以上理事)四谷(書記)、
△記事　開會と仝時に工學博士直木倫太郎氏の「歐米の住宅問題に就て」の講演あり、終つて片岡副會頭より謝辭を述べらる、休憩の後池田理事長代理より會務報告ありて閉會す

○理　事　會

△日時　五月二十日午後五時—七時
△會場　本協會事務所
△出席者　吉木、池田、葛野
△議事　一、博覽會財務委員に一名追加のこと、二、五日會及七日會々員を招待するの件

會　務

○新　入　會　員

(會　員)　木村喜代松氏
(特別賛助員)　谷口德政氏
(終身賛助員)　擔田藤郎氏、田中英喆氏
(普通賛助員)　東興惣次氏、增田卯之吉氏
佐藤正樹氏、本橋信恒氏

○會　員　息　消

會員　野村一郎氏は建築事務所を左記へ移轉せられたり
大阪市北區曾根崎上三丁目百三十銀行ビルディング三階
會員　置鹽章氏は來る六月十四日靜岡丸にて渡歐せらるる由
會員　安井武雄氏は去る五月六日コレヤ丸にて無事歸朝せられたり

○叙任及辭令

京都帝國大學助教授
兼京都府技師　天沼俊一
依頼免兼官(四月二十五日內閣)
都市計畫地方委員會技師　置鹽章
歐米各國へ出張ヲ命ス(五月十六日內務省)

○細則觀更

四月十七日發通信決議の結果左の如く本會細則第十六條を變更し本月より實施す

第十六條　例會ノ決議ハ出席會員ノ三分ノ二以上ノ贊成ヲ得ルヲ要ス

○住所移轉

內藤　茉氏　熊本市藥園町四六
白井　一男氏　神戸市中山手通二ノ五八稅關官舍二十二號
平木　鐵治氏　大阪市西區江戸堀南通四ノ八　日本柱管株式會社內
松井　英一氏　大阪市西區京町堀通一　明治銀行建築場竹中出張所
丹下　敏行氏　名古屋市外千種町字西裏一〇
大村　大藏氏　京都市丸太町通廣道西入ル
清水　榮二氏　兵庫縣武庫郡六甲村八幡濱田五六ノ一
森山松之進氏　東京市芝區高輪南町五三
小松　勇氏　神戸市元町五ノ五九
浦　英之助氏　堺市宿屋町東二丁八一
中澤誠一郎氏　大阪市北區上福島北二丁目一一八ノ二　西川方
木村喜代松氏　愛知縣一宮町大日本紡績一宮工場建築部
千賀　正人氏　東京市神田區鎌倉町一四

○會員死亡

會員　山田靜氏は病氣の處五月二日永眠せられたり　哀悼の至りに禁へず
普通贊助員　青木齊次郎氏は病氣の處五月十一日永眠せられたり　哀悼の至りに禁へず

○寄贈面書

商業及經濟研究　二二號　大阪高等商業學校
座　園　四號　座　園　協　會
商工時報　三四號　大阪市役所商工課
工業の日本　五號　工業の日　本　社
鐵道協會雜誌　五號　鐵　道　協　會
電氣學會雜誌　五號　電　氣　學　會
土木建築　五號　土　木　建　築　社
滿洲建築協會雜誌　二號　滿洲建築協會
農家の友　五號　農家の友社
建築雜誌　四號　建　築　學　會
工業の友　五號　工手學校內其社
新住宅　五號　洪　洋　社
木材新聞　六六四號迄　材木新聞社
建築世界　五號　建築世界社
平民建築　五號　帝國工業教育會
國民經濟雜誌　五號　神戸高等商業學校
通俗衛生　四號　大阪府衛生會
住　宅　五號　住宅良改會



役員及職員

副會頭　片岡安
理事　葛野壯一郎（理事長）
理事　波江悌夫（主記）
理事　瀨戸文吾（主計）
理事　横濱勉（編輯）
理事　小笠原銅（編輯）
理事　吉井長七（編輯）

理事　池田寶
理事　吉木久吉
理事　松本禹象
理事　平井三郎
編輯補　佐藤四郎
江村郊邨
書記　西谷節
武波泰
山崎萬壽夫

會員	二〇四	會員（地方）	七〇
名譽賛助員	七〇	終身賛助員	五二
特別賛助員	一六	普通賛助員	三三五
合計（五月廿五日現在）			七四七

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十年五月三十一日印刷
大正十年六月六日發行　（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所
大阪市西區京町堀上通一丁目不動ビルディング內
發行所　日本建築協會
電話　土佐堀四、二九三番
振替口座大阪三九、九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

建築材料規格統一案に就て

建築材料規格統一案に就て

工學博士　横河民輔

建築材料の規格統一則ち「スタンダリゼーション」を爲すことは、夙に諸君の熱心に主張せられた所であり、又其理由に就いても既に充分御承知の事であると深く信ずるのであります。

扨て私は建築材料聯合調査會の委員長として一通り調査會の成行を御話しなければならないと思いますが、これも既に協會の方々から毎々御話のあつた事であると思ひます、建築學會、日本建築士會、日本建築業協會、官廳技師會、大日本山林會と關西方面に於ける有力な方々を網羅して居らる日本建築協會との六會茲に聯合を致しまして各代表委員四五人宛の御集りを願つて昨年來毎、金曜日に會合を開いて參いつたのであります。

會合の間に於ても却々議論百出の有樣で、各委員の方々の熱心な調査と研究とから各方面の資料が澤山に集りまして、段々審議を重ねまして、漸く今日煉瓦と木材に關する規格の決定案が出來上つた次第であります。

大体より申せば、木材の寸法、家具雜作、煉瓦の寸法等の諸案は殆んど當日本建築協會で御調査になつた案が採用されたのでありまして、此點に關しては殊に諸君の御骨折を感謝致しまするど同時に、出來上つたこの決定案は箇々については一々多少の議論もまだありませうが、諸君に於ても右の意を体しまして、本案に對する御承認を御願致したいと思います。

扨て。本案の寸法表によりまするど、寸法數字が非常の數に上り、又細かい數となつて居るので一見甚だ面倒なりと考へられる傾もある樣でありますが、よく御注意になりまするど、甚だ簡單な結果になつて居る事を御認めになると信じます。それは三位の數字を繰り上げて二位に致しまする

と、至極單純な寸法になつて居るのであります。

實は此統一案が出來ます以前、當建築協會、其他の會から御提出になつた基礎案は皆日本尺になつて居りました。然る處丁度政府に於ては度量衡の改正案を議會へ提出され樣といふ時期でありまして、吾々も此際「米突法」の採用を至極好時機であると考へました結果であります。

政府は昨年は成案が完成せん結果提出見合せとなりましたが、本年の議會には、遂に提出せられました、其結果については吾々も大いに懸念致して居りましたが、遂に此法律案は立派に通過致しまして既に法律となつて發布されました、やがて勅令、並びに省令に依つて詳細なる規定が發布される事でありませう。

此「メトリック、システム」を我國に施行することは實際に於ては隨分不便もありませうが、既に陸海軍並びに諸官廳では盛に使用中でありまして將來國民の寸法に關する智識が訓練されれば、結局何でもなくなりますが、只現在の者は一時可成りの苦痛を感するでありませう、乍併此表の數字をよく御覽になると日本寸法數字が標點以下三位迄擧げてありますが、これを二位に繰り上げて見ると頗る簡單なものになるのであります。

又挽立材の寸法が可成り多數に分れて居りますが、これを洋風建築に當て篏めて考へまするに、五尺以下八種類位で充分間に合ふ事になると信じますから、左迄復雜な結果にはなつて居らぬのであります。煉瓦の寸法にしても三位を二位に致しまするに甚だ簡單な數字となるのであります。

それから特に御注意を願いたいのは、茲に掲げてある表示の寸法は、皆「引き上げ」の寸法であることであります、又各種の寸法が掲げてありまするが、將來は此の中から使用上便利な材が廣く行はれて、他は自然淘汰の結果を見る事と思いますから、按ずるより産むが易い事になるだらうと信じます。

扨て此統一案を實際に使用するとなつて、今之を直ぐに採用すると致しまするに、非常に不便なものであつて大に困るだらうとの御懸念があるだらうと考へますが、併し夫れは御心配の程の問題

でなからうと思います、夫れは先づ以て挽立材より實際に使用することゝ致しますれば、所要の材料に最も近似した寸法の材料を採用するといふ風に、諸君が各方面共一致共同して御使用になれば其結果は市場に立派に新「マーケットフォーム」が出來る譯であります。

品質に關しても色々御意見があるでせうが本案に在つては、成るべく簡單に規定するといふ主旨に依つたものでありまして、實際に於ては請負者と監督者と材料商と製材所との間に意見と主旨の一致を見ますれば、實際の運用上非常の便利を得る事でありませう。

又和風の建築については一間を二米にすることについて議論があつたのでありますが、地方に在つては大体十三尺の材料が多いのでありまして、一番困るのは東京方面丈である樣でありまして、委員會ではこれに決定致したのであります。

要するにこの決定統一案は什うかして各方面の方々の御承認を得るのみならず、之れを實際に應用致しまして、將來のために廣く採用致さるゝ樣に致したいと考へます。

そこで先以て建築士會の方々の御承認を得ましたが、又當日本建築協會の御快諾を得ば、次いで建築學會其他の會の御承認を得たる後、今度は更に廣く宣傳の方法を考究致したいと考へて居ります。

建築用木材及煉瓦規格統一に關する趣意書

我國は古來廣大なる森林を有し木材の產出極めて豐富で殆んどつくるなき有樣でありましたから建築は總て木材にたより其需用は近來著しく增加しました。更に近代の文化は煉瓦、混凝土、鐵筋混凝土構造物等の發達を促し其數も亦日を追ふて增加すると共に木材の用途も亦益々多きを加へ從來顧みられなかつた材種迄も需用の途日々に擴大さるゝ樣になりました。此の如き木材需用量の激增は從來全く手の及ばなかつた深山幽谷にまでも伐採を及ぼし猶ほ且不足を唱へ其價格の著しき昂騰を見るに至りました。

此間に於て市場に存在する木材出來合品の有樣をみるに各地によつて其寸法と稱呼を異にし殆んど凡てが偶りの稱呼に依り其品質などに對する規格も頗る曖昧でありまして然かも數年以來材料の拂底騰貴に際して少しづゝ其大さを減じ近時一二ケ年間に於て同一稱呼の下に大さの激減をさへ見たのであります、加ふるに同一稱呼も產地により非常の相違があつて其複雜は言語に絶へたる

有様で使用者が必要な大さの木材を購入せんとする場合に如何なる稱呼のものが適當であるかを取調べるに非常の勞力を費すのであります。

又普通煉瓦に就て見ても其寸面に於ては近來稍々統一せられた觀はありますが猶ほ大小の差著しく品等稱呼に關しては製産者を異にする毎に之を異にして未だ一定の規格なるものがありません

材料の寸面規格が亂れれば亂るゝ程これが徹底的解決を要求します。吾人はこの紛亂の中に大なる不自由を忍ぶ必要はありません根本的救濟は焦眉の急で當面緊急の問題です今や建築材料寸法統一規格制定の議は諸所に起つて居る、これ實に徹底解決の要求の聲であります。これに鑑みて建築學會、日本建築士會、日本建築協會、日本建築業協會、官廳技師會、及大日本山林會、の六會聯合に成る本調査會は各種建築材料の內特に木材及煉瓦を第一とし之れを調査し規格と寸法の統一を圖り當業者と使用者との協力に依り徹底的の解決をなさんとして數十回の調査會を開き愼重審議の結果茲に一つの成案を得たのであります。

其寸法を「メートル」を以て表したのは「メートル」法實施に依り再び寸法を變換するの煩を避け其履行を容易ならしめんが爲でありまして、且つ今後は不統一なる在來の稱呼を廢し總て正寸を以て呼ぶことにしたのであります。

由來大なる事業には大なる決心が必要であります姑息因循は策の得たるものではありませぬ。建築材料の寸法規格に對して徹底的解決を欲求して居る時に我國斯界の六大會の委員に依り調査せられたる本案を實行することが紛亂せる今日の狀態から救濟する唯一の方法であります而して今日直ちに本案を實行して徹底的に解決をつける事が吾人の義務であります。

大正十年四月

建築材料聯合調査會
東京市麹町區八重洲町一ノ一
建築學會內

木材基準寸法表

稱呼は總て寸法を以てす

本表中西洋數字は「センチメートル」

日本數字ハ「尺」

Mは「メートル」とす

挽　　材

3×3 〇九九	3×4 〇九九																
4×4 一三二	4×5 一三二	4×6 一三二	4×7 一三二	4×8 一三二	4×9 一三二	4×10 一三二	4×11 一三二	4×12 一三二	4×13 一三二	4×14 一三二	4×15 一三二	4×16 一三二	4×17 一三二	4×18 一三二			
	5×5 一六五	5×6 一六五	5×7 一六五	5×8 一六五	5×9 一六五	5×10 一六五	5×11 一六五	5×12 一六五	5×13 一六五	5×14 一六五	5×15 一六五	5×16 一六五	5×17 一六五	5×18 一六五			
		6×6 一九八	6×7 一九八	6×8 一九八	6×9 一九八	6×10 一九八	6×11 一九八	6×12 一九八	6×13 一九八	6×14 一九八	6×15 一九八	6×16 一九八	6×17 一九八	6×18 一九八			
			7×7 二三一	7×8 二三一	7×9 二三一	7×10 二三一	7×11 二三一	7×12 二三一	7×13 二三一	7×14 二三一	7×15 二三一	7×16 二三一	7×17 二三一	7×18 二三一			
				8×8 二六四	8×9 二六四	8×10 二六四	8×11 二六四	8×12 二六四	8×13 二六四	8×14 二六四	8×15 二六四	8×16 二六四	8×17 二六四	8×18 二六四			
					2.5×3 八九九	.7×3 二九九	.9×5 三〇五	1.5×9 五七〇	2×5 六六五	2×11 六六三	長サ M 2.05 M 3.1 M 4.1						

角　　材

柚角材　　挽角材ノ材角種二分類ス

8×8	9×9	10×10	11×11	12×12	13×13	14×14	15×15	16×16	17×17	18×18	長サ
二一六四	二二九七	三三〇〇	三三六三	三三九六	四二九九	四四六二	四四九五	五二八八	五六一一	五九四四	M3,2ヲ最小トシテ以下M10ノ差ヲ以テ進ム

板　　材

.7×9	.7×12	.7×15	.7×18	.7×21	.7×24	.7×27	.7×30	長サ M 2.05
〇二三 二九七	〇二三 三九六	〇二三 四九五	〇二三 五九四	〇二三 六九三	〇二三 七九二	〇二三 八九一	〇二三 九九〇	
.9×9	.9×12	.9×16	.9×18	.9×21	.9×24	.9×27	.9×30	
〇三〇 二九七	〇三〇 三九六	〇三〇 四九五	〇三〇 五九四	〇三〇 六九三	〇三〇 七九二	〇三〇 八九一	〇三〇 九九〇	
1.2×9	1.2×12	1.2×15	1.2×18	1.2×31	1.0×24	1.2×27	1.2×30	
〇四〇 二九七	〇四〇 三九六	〇四〇 四九五	〇四〇 五九四	〇四〇 六九三	〇四〇 七九二	〇四〇 八九一	〇四〇 九九〇	
1.6×9	1.6×12	1.6×15	1.6×18	1.6×21	1.6×24	1.6×27	1.6×30	
〇五三 二九七	〇五三 三九六	〇五三 四九五	〇五三 五九四	〇五三 六九三	〇五三 七九二	〇五三 八九一	〇五三 九九〇	
2.0×9	2.0×12	2.0×15	2.0×18	2.0×21	2.0×24	2.0×27	2.0×30	M 4.1 M 3.1 M 4.1
〇六六 二九七	〇六六 三九六	〇六六 四九五	〇六六 五九四	〇六六 六九三	〇六六 七九二	〇六六 八九一	〇六六 九九〇	
2.4×9	2.4×12	2.4×15	2.4×18	2.4×21	2.4×24	2.4×27	2.4×30	
〇七九 二九七	〇七九 三九六	〇七九 四九五	〇七九 五九四	〇七九 六九三	〇七九 七九二	〇七九 八九一	〇七九 九九〇	
2.8×9	2.8×12	2.8×15	2.8×18	2.8×21	2.8×24	2.8×27	2.8×30	
〇九二 二九七	〇九二 三九六	〇九二 四九五	〇九二 五九四	〇九二 六九三	〇九二 七九二	〇九二 八九一	〇九二 九九〇	
3.2×9	3.2×12	3.2×15	3.2×18	3.2×21	3.2×24	3.2×27	3.2×30	
一〇六 二九七	一〇六 三九六	一〇六 四九五	一〇六 五九四	一〇六 六九三	一〇六 九七二	一〇六 八九一	一〇六 九九〇	

木材品等

木材の品等を次の如く區分す

一　丸　身

角材及挽材

最大丸身面の幅と大さとの比を以てし之を次の七等に區分す

但し斷面長方形をなすものは其厚さと幅との平均を以て大さとす

丸身無

丸身一割(一割以下)

丸身二割(二割以下)

丸身三割(三割以下)

丸身四割(四割以下)

丸身五割(五割以下)

大丸身(五割を超過するもの)

板　材

最大丸身面の幅と板厚との比を以てし次の四等に區分す

丸身無

丸身三割(三割以下)

丸身六割(六割以下)

大丸身(六割を超過するもの)

二　樹　心

次の二等に區分す

心持(樹心を有するもの)

心去(樹心を有せざるもの)

三　赤身白太

次の三等に區分す

赤

全部赤身のもの

赤勝

角材及挽材は末口斷面積に於て、板材は白太の多き面の面積に於て三割以下の白太を有するもの

交

前記以外のもの

四　木　理

次の二種に區分す

板　目

柾　目

但し一面を以て標準とす

五　節及其他の缺點

其他の缺點とは割れ、抜節、釣傷、入皮、脂壺、「しみ」、腐れ、虫喰、目廻り、「あて」、穴、猿喰等を云ふ

節の狀況に依りて次の五等に區分す

但し其他の缺點を併有するものは各等共該等の次品とす

無　節

全く節なきもの

節一等

材面の何れの部分を問はず、一平方メートル内に於て各節の長徑一・五センチメートル以下にて其長徑の和八センチメートル

以下なるもの

節二等

材面の何れの部分を問はず一平方メートル内に於て各節の長徑三センチメートル以下にして其長徑の和三十センチメートル以下なるもの

節三等

材面の何れの部分を問はず一平方メートル内に於て各節の長徑五センチメートル以下にして其長徑五十センチメール以下なるもの

節四等

前記以外のもの

木材檢尺法

角材

長さの檢尺基點は元口とし十センチメートルを計算の最小數とし端數は切捨つ

但し長さは「メド穴」「トキン」あるとき之を除き檢尺す

太さの檢尺點は長さの檢尺の最小部とし一センチメートルを計算の最小數とし端數は一々切捨つ

丸太材

長さ同斷

太さ前項に準ず

但し長短兩徑を有するものは檢尺部に於ける其平均數を以て太さとす

二つ圍其他

角材及丸太材に準ず

細長丸太材

丸太材に準ず

但し檢尺の位置は元口より二メートルの點に於てし最小徑を以て太さとす

木材材積單位

角材挽材(出來合品)及細長丸太材は「本」を以てし板材(出來合品)は「枚」を以てし其他のものは一立方メートルを以て單位とす

木材材積計算法

角材

斷面積に長さを乘じたるものを材積とす

丸太材

太さの自乘に長さを乘じたるものを材積とす

木材結束法

壹束は二十キログラム乃至三十五キログラムを以て標準とす

木造建築柱間隔標準寸法

木造和式建築に於ては柱眞々二メートル內法高一、八メートルとす

木造洋式建築に於ては柱眞々二メートルとす

建具雜作標準寸法表

本表は挽立寸法を示す

表中Mは「メートル」C・Mは「センチメートル」とす

和風建築之部

名稱	出入口大サ	高及厚 M尺	幅 M尺
欄間無片開キ	二、〇〇	六、六〇	二、四七五
欄間無同両開キ	二、〇〇〇	六、六〇〇	二、九七〇
欄間付同片開キ	二、〇六〇	八、五八	二、三五〇
欄間付同両開キ	二、〇六〇	八、五八	四、四九五〇
欄間無引違ヒ窓	二、〇〇	六、六〇	二、九七〇
欄間付引違ヒ窓	二、〇六〇	八、五八	四、四九五〇
上ゲ下ゲ窓欄間無	一、八五	六、一一	九〇
同欄間付	二、四五	八、〇九	一、七五
上ゲ下ゲ窓欄間無	一、八五	六、一一	九〇
同欄間付	二、四五	八、〇九	一、七五
欄間無引違ヒ窓	一、二五	八、一三	一、七〇

名稱	出入口枠	高及厚 cm尺	幅 cm尺
欄間付引違ヒ窓	九、	一、八五 六、一一〇	一、七〇 五、六一〇
開戸入口枠	八、	二、四五 八、〇九	二、九七〇 五、六一〇
同入口無目	五、	一、六五 五、五	一、一五 三、九六
同下枠	五、	一、六五 五、五	一、一五 三、九六
引違窓同下枠	六、	一、九八 六、六	一、三五 四、五九六
同無目	八、	二、六四 八、八	一、七五 五、九四

上ゲ下ゲ竪及上枠	五、	一、六五	一、四二九
下枠	八、	二、六四	一、四九五
無目	八、	二、六四	一、四九二
分銅箱板		使用	
引違竪及上枠	五、	一、六五	一、三九六
無目	八、	二、六四	一、四六二
下戸枠	六、	一、九八	一、四九八
唐縦横桟	四、	一、三二	一、三三〇
下桟及帯桟	四、	一、三二	一、四九五
鏡板	四、	一、三二	一、九八
窓障子及上框共	四、	一、三二	六、
欄間障子四方框	四、	一、三二	七、
下框	六、	一、三二	六、
出合子	四、	一、三二	三、
組縁			
額縁	一二、	一、三九六	四、
同	六、	一、九八	四、
膳板	三、二	使用	四、
腰羽目	五、	一、六五	一、一三二
笠羽目	八、	二、六四	一、一三二
木板	板	使用	一、一三二
幅羽目	三、二	一、〇六	一、八、
木幅	木	一、八、	五九四
天井縁	一〇、	一、三三〇	一、一三二
廻			

和風建築之部

名稱	高及厚 M尺	出入口大サ 標準内法トス	窓大サ	名稱	高及厚 cm尺
同板	八、			格子戸	框 三、五
板	、二六四			竪上格子	框 三、五
使用	六、			下格子	框 三、五
	、一九八			ノ竪横	框 二、五
		一、〇	三、三〇	雨戸	框 四、〇
		一、四	四、六二	竪上	框 四、〇
		一、四	一、三二	下	框 四、〇
				中板	桟 二、五
				目板	板同
				竪	、七板
					使
					同
					框 三、五
					、一一六

名稱	幅 M尺	名稱	幅 cm尺
上下中板	柱割ニ依ルモノトス	上中下帯板	四、〇
中板	同	竪上	五、〇
目板	同	下	一、一三二
桟		障板	一、一六五
竪上	柱割ニ依ルモノトス	竪上	五、〇
下	同	下	一、一六五
中板	同	竪上	二、〇
下		下	〇六六
竪上	四、五	中板	一、四九
下	六、〇	下	一、九八
薄障子	六、〇	竪上	一、一三二
竪上	四、〇	下	三、〇
下	用	上	〇九九
組		下	
襖		組	

框	三、五	框	三、五	框	三、五	框	三、五	框	三、五
框	三、五	框	三、五	框	三、五	框	三、五	框	三、五
框	二、〇	框	二、〇	框	二、〇	框	二、〇	框	一、五
七、		七、		九、		九、		一、五	
板	、一一六	板	、一一六	板	、一一六	板	、一一六	子	二、〇
同		同		同		使		框	二、〇
								框	一、五
								子	一、五
使	〇六六	使	〇六六	使	〇六六	使	〇六六	框	二、〇
用	三、〇	用	二、〇	用	八、〇	用	四、五	框	二、五
	〇九九		一、〇		二六四		一四九	框	二、五
								子	一、七

竪框	二、八	〇八三	二、八	〇八三	一、三二
出合竪框(定規縁)	三、〇	〇九九	三、五	一一六	一一六
同(戸尻)	三、〇	〇九九	二、五	〇八三	一一六
上框	二、五	〇八三	三、〇	〇九九	一一六
下框	二、五	〇八三	三、〇	〇九九	一一六
板(引手板火打板)	二、〇	〇六六	二、〇	〇六六	一一六
下地組子(四方框)	二、〇	〇六六	三、〇	〇九九	一一六
同(力骨)	二、〇	〇六六	一、五	〇五〇	一一六
同(組子)	二、〇	〇六六			
腰高硝子戸					
竪框	四、〇	一三二	五、〇	一六五	一三二
上框	四、〇	一三二	六、〇	一九八	一六五
下框	四、〇	一三二	六、〇	一九八	一六五
中桟	四、〇	一三二	五、〇	一六五	一六五
板	七	一三二			
組子	四、〇	一三二	三、〇	〇九九	〇九九
明障子硝子戸					
竪框	四、〇	一三二	四、五	一四九	一四九
上框	四、〇	一三二	五、〇	一六五	一六五
下框	四、〇	一三二	五、〇	一六五	一六五
中桟	四、〇	一三二	四、五	一四九	一四九
板	七	一三二			
組子	四、〇	一三二	三、〇	〇九九	〇九九
窓硝子戸					
竪框	三、五	一一六	四、〇	一三二	一三二
上框	三、五	一一六	五、〇	一六五	一六五
下框	三、五	一一六	五、〇	一六五	一六五
組子	三、五	一一六	三、〇	〇九九	〇九九
小窓硝子戸					
竪框	三、〇	〇九九	三、〇	〇九九	〇九九

煉瓦規格

煉瓦とは粘土焼成の普通煉瓦をいふ。

煉瓦寸法、

長　21「センチメートル」（六寸九三）七寸

幅　10「センチメートル」（三寸三〇）三寸二分

厚　6「センチメートル」（一寸九八）二寸

煉瓦品等、

煉瓦の品等を次の如く區分す

一、上焼一等

二、上焼二等

三、並焼一等

四、並焼二等

五、等外

上焼とは焼度良好にして吸水量十四パーセントを超へざるもの

並焼とは焼度普通にして吸水量十八パーセントを超へざるもの

一等とは形状良好にして大なる罅疵あるもの

二等とは形状普通にして大なる罅疵あるもの

等外とは以上の標準に適合せざるもの

（建築材料聯合調査會）

●第四集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
国枝工務所
舟橋建築事務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
設楽建築工務所
木子建築事務所

茂、野村建築事務所
茂、野村建築事務所東京出張所
片岡松井建築事務所
池田勘蔵
橋本料左衛門商店
日本土木大阪出張所
大林組
中川辰蔵
竹中工務店
長瀬組
山縣組
松井工務店
山本組
松村組
鴻池組
小西組
藤木正一

駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山福重郎
木村組
清水組大阪支店
清水工務店
森下新造
銭高組
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
吉田鹿之助本店
高田商会
須賀商会
源工業
内外土木建築材料

栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
村井工業所
河村青写真調製所
山本コンベス商会
大野正営業所
野沢幸三郎商店
日本石綿盤製造
東京建鉄
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
銀座建築用品店
共同建材製作所
明正社

コルク工業
東京電気
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
川崎工場
北木島石材大阪出張所
高田商会銀座販売店
サクラ工業所
岩倉正商店
淡陶
東洋工業品製作所
ホーン
浅野スレート大阪出張所
吉田鉄工所
横河橋梁製作所
日本水道衛生工事
極東硝子工業